

# 令和6年度 全国アントレプレナーシップ醸成促進に向けた 調査分析等業務報告書

文部科学省 科学技術・学術政策局  
産業連携・地域振興課  
(調査委託先：有限責任監査法人トーマツ)



文部科学省

# 目次

<b>【はじめに】 本事業の概要・実施方法</b>	<b>4</b>
0.1 本調査の背景・目的・内容	5
0.2 本報告書の構成	14
0.3 エグゼクティブサマリ	15
<b>【第1章】 有識者委員会での取組・議論内容</b>	<b>17</b>
<b>全体統括委員会（アントレプレナーシップ醸成促進に係る全体像の整理）</b>	<b>18</b>
1.1 アントレプレナーシップ醸成における課題を踏まえた論点の整理	19
1.2 アントレプレナーシップ醸成促進に向けた取組内容	22
1.3 今後の検討項目	39
<b>プラットフォーム具体化WG（アントレプレナーシップ人材の裾野拡大に向けたプラットフォーム形成に関する検討）</b>	<b>40</b>
2.1 現状の課題・背景に基づく、検討論点と調査概要	41
2.2 民間企業等による運営モデルの検討	47
2.3 プラットフォームのあるべき姿の検討	72
2.4 今後の検討項目	73
<b>教育効果の測定指標具体化WG（アントレプレナーシップ教育における教育効果の測定指標の確立に関する検討）</b>	<b>74</b>
3.1 現状の課題・背景に基づく、検討論点と調査概要	75
3.2 アントレ教育ガイドの検討・作成	82
3.3 アントレ教育ガイドの展開・活用促進の検討	94
3.4 今後の検討項目	100
<b>拠点都市事例展開WG（アントレプレナーシップ教育に関する内容の事例やノウハウの共有に関する検討）</b>	<b>101</b>
4.1 開催概要	102
4.2 実施結果	108

# 目次

<b>【第2章】 全国アントレプレナーシップ人材育成プログラム</b>	<b>117</b>
<b>受講機会創出に向けた全国アントレプレナーシップ人材育成プログラムの検討</b>	<b>118</b>
5.1 全国プログラム（学生）	119
5.2 FDプログラム（教職員）	139
5.3 全国プログラム（特別講演）	150
5.4 全国プログラム プロモーション	166
5.5 全国プログラム 学生向けフォローアップイベント	176
5.6 全国プログラム 教職員向けフォローアップ企画（FD同窓会）	180
5.7 全国プログラム 学生向け教育効果測定	187
<b>【第3章】 国内のアントレプレナーシップ醸成に資する各種動向調査</b>	<b>193</b>
<b>全国大学の調査結果</b>	<b>194</b>
6.1 現状の課題・背景に基づく、検討論点と調査概要	195
6.2 調査結果、調査まとめ	199
<b>海外大学の調査結果</b>	<b>271</b>
7.1 現状の課題・背景に基づく、検討論点と調査概要	272
7.2 調査結果、調査まとめ	276

**【はじめに】**  
**本事業の概要・実施方法**

# 本調査の背景及び調査テーマ

- ✓ 本調査は、アントレプレナーシップ醸成の裾野を我が国全体に拡大するために、受講機会の創出、プログラムの教育的価値の向上、ステークホルダーの参加促進に関して検討を行った

## 背景

- 新型コロナウイルス感染症の流行やオンラインでのコミュニケーションを可能とするデジタルツール普及の急速な技術進展等による社会環境の変化の中で、様々な困難や変化に対し、自ら枠を超えて行動を起こし新たな価値を生み出していく精神（アントレプレナーシップ）を我が国全体で醸成していくことが重要であり、アントレプレナーシップを備えた人材の育成及びその環境整備が必要になっている
- 我が国全体でアントレプレナーシップを醸成するために、EDGE-NEXT 実施機関やスタートアップ・エコシステム拠点都市に参画している機関が中心となってアントレ教育をリードし、他の全国の大学等と連携し、自律的・効果的にアントレ教育プログラムを続けていくことが求められている
- 本事業では、アントレ教育が提供されていない地域の学生等にも受講機会を提供していくことやアントレ教育の効果検証手法の整備、継続的に情報収集や発信が行われるプラットフォームの運用等により、全国の大学等において希望するすべての学生がアントレ教育を受講できる環境を実現に向けた検討・整備を進めることを目的としている

## 調査テーマ

### 1 受講機会の創出

- アントレ教育に対する大学生の認知拡大・関心醸成に繋がるコミュニケーション戦略の検討及び実証について
- 学生間の交流を促す学生コミュニティの形成に向けた検討及び実証について
- 各大学や拠点都市、民間企業等との連携による社会全体への理解啓発施策の検討及び実証について

### 2 プログラムの教育的価値の向上

- 国内外の既存教育指標に基づき、適切なアントレ教育の教育効果の評価手法の検討・開発について
- アントレ教育の裾野拡大に資するアントレプレナーシップのコアコンピテンシーの検討及び教育ガイドや研究ガイドの検討について
- アントレ教育の展開に向けた教員向けの育成プログラム（FDプログラム※）の検討及び実証について

### 3 ステークホルダーの参加促進

- 学生の巻き込みに有効なコンテンツの設計に向けた検証について
- 拠点都市及び地方都市との接続、連携方法の仮説構築及び実証について
- 教育プラットフォームにおける、民間企業参画のインセンティブの検証及び実証について

※FDプログラム：Faculty Development Program

# アントレプレナーシップ教育の全体像

## 【未来社会像】

多様な価値を認め“Well-being”を達成するためのより良い社会  
一つの固定されたものではなく、常に考え続けていかなければならないもの

## 【目指す人材】

急激な社会環境の変化を受容し、新たな価値を生み出していく精神  
(アントレプレナーシップ)を備えた人材の創出

研究成果の活用も含め、スタートアップやスモールビジネス、  
地域特有課題の解決など、創造したい未来・解決したい課題に応じ、  
実際に事業を進めていくにあたり必要な様々な専門知識や機会を提供

既存組織

スタートアップ

スモールビジネス※

未来創造や課題解決のために必要な汎用知識やスキルを  
提供するとともに、それらを活用し、  
実現に向けた仮説検証ができる場や機会を提供

社会に存在する課題を自分事として捉える  
課題の発見力や共感力を育むことを入口に、  
不確実性の高い環境下でも自身の持つ資源を超えて機会を追求し未来創造や  
課題解決に向けた行動を起こしていくための精神と態度を学ぶ場や機会を提供

## ■ 各専攻分野を通じて培う学士力

(中央教育審議会答申)

- (1) 知識・理解、(2) 汎用的技能、(3) 態度・志向性、  
(4) 統合的な学習経験と創造的思考力

## ■ 「生きる力、学びのその先へ」

(文科省 新学習指導要領)

- ・学んだことを人生や社会に生かそうとする(学びに向かう力など)
- ・実際の社会や生活で生きて働く(知識及び技能)
- ・未知の状況にも対応できる(思考力、判断力、表現力)

## ■ Education2030

「変革を起こす力のある  
コンピテンシー」(OECD)

- ・新たな価値を創造する力
- ・対立やジレンマを克服する力
- ・責任ある行動をとる力

## アントレプレナーシップの発揮

社会実践段階

コンピテンシーの形成段階



動機付け・意識醸成段階

## アントレプレナーシップの醸成

アントレ教育に関わらず、  
大学卒業までに  
広く身に付けるべき能力

- ※ スモールビジネスにはNPOなども含む
- ※ 令和2年度大学におけるアントレプレナーシップ教育に関する調査報告書の第1章(P.9)

# アントレプレナーシップ醸成に向けた本事業の目的と現状把握の観点の整理

- ✓ アントレプレナーシップ醸成に向け、目指すべき姿を検証する上で必要となる観点を整理した

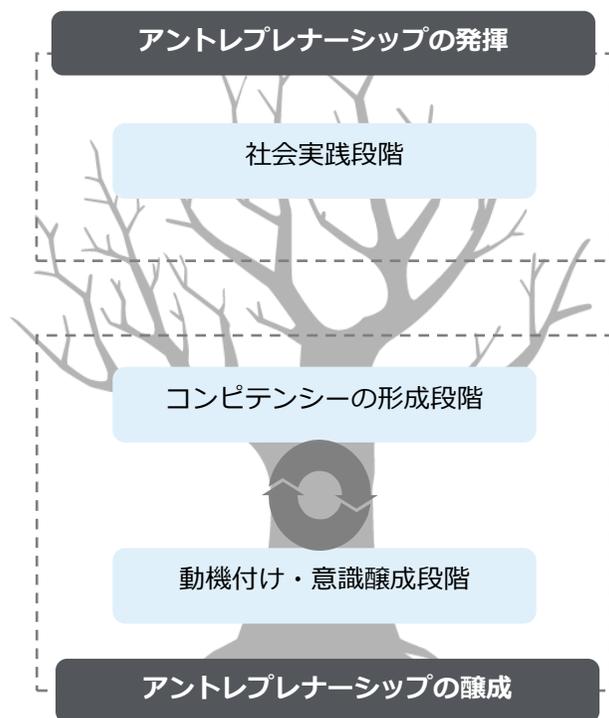
## 本事業の目的

- 本事業では、全国の大学等において希望するすべての学生がアントレ教育を受講できる環境の実現に向けた検討・整備を進めることを目的としており、その上で全国規模のアントレ教育プログラムを中心としたアントレプレナーシップ醸成プラットフォームの構築を目指すものとなる
- 全国の各大学でのアントレ教育の提供環境の整備や持続的な運営モデルの確立、民間企業等との連携による実践的な機会との接続を通して、アントレプレナーシップの醸成促進を図る

### 目指すべきアントレ教育の姿の検討

### 目指すべき姿に対する現状把握の主な観点

### 着眼点を踏まえた具体的な指標・項目



#### アントレ教育の実施・普及状況

- 国内大学でアントレ教育を実施している大学や受講者の割合がどのようになっているか

- アントレ教育実施大学率



- アントレ教育受講率



#### アントレ教育を行うためのプログラム整備

- アントレ教育を実施するためのプログラムは整備されているのか

- 正課科目の開講



- プログラム※の整備状況



※動機付け～社会実践までの段階におけるプログラム

#### アントレ教育を行うための体制

- アントレ教育を行うための体制（プログラム・インフラ）は整備されているのか

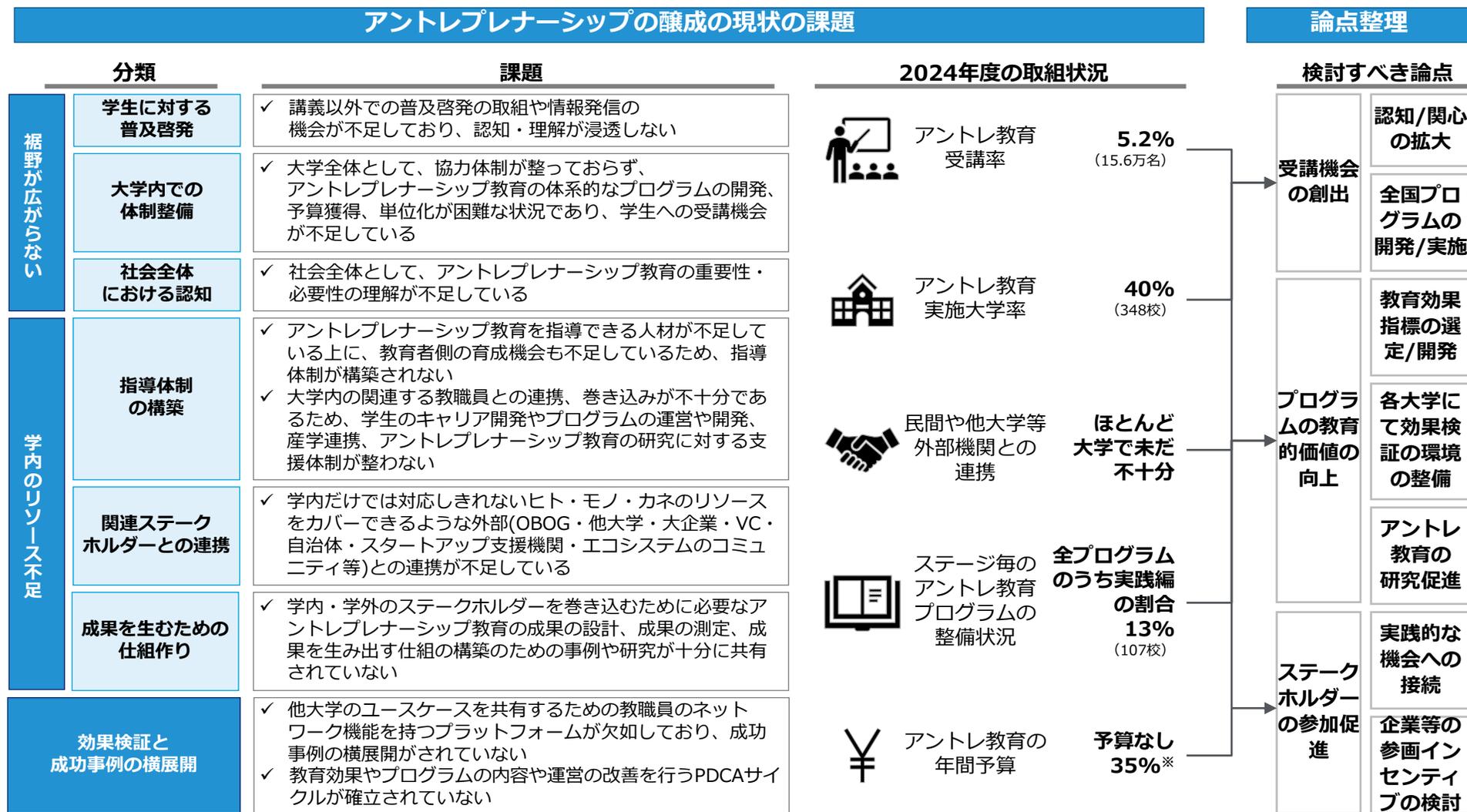
- 外部機関等との連携



大学単独だけ網羅的にインフラ整備することは困難のため、外部との連携を要する

# アントレプレナーシップ教育の現状の課題を踏まえた論点整理

- ✓ 2022年度実施した国内の大学を対象に実施したアントレ教育の実施状況の調査結果を踏まえ、アントレ教育における醸成段階の現状の課題を整理した上で、2024年度全国大学調査を行い、最新のアントレ教育市場の解決すべき主な課題を整理した



# アントレプレナーシップ教育における課題の詳細

- ✓ 2020年度の調査報告書において、アントレ教育推進における課題を整理している

現状の課題		アントレ教育			アントレ教育後
		アントレプレナーシップの醸成		アントレプレナーシップの発揮	
		動機付け・意識醸成	コンピテンシーの形成	社会実践	
1 受講者の裾野拡大	学生に対する普及啓発	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 講義以外の取組や情報発信の不足</li> <li>✓ 学生コミュニティとの連携不足</li> <li>✓ 小中高との連携不足</li> </ul>			アントレ教育後
	大学内での理解の促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 大学全体としての理解・協力の不足（各学部や研究科での個別対応になっている）</li> <li>✓ 単位化/必須科目化等、学び促進不足</li> </ul>			
	社会全体における認知	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ アントレ教育の重要性・必要性の理解不足</li> <li>✓ 保護者における、学生の受講に対する理解不足</li> <li>✓ 社会一般における理解不足 スタートアップだけではなく企業内でもイノベーションを創出する人材の必要性</li> </ul>			
2 アントレ教育のリソース不足	学内リソース	ヒト	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ アントレ教育を指導できる人材の育成不足・実務家の採用不足</li> <li>✓ キャリア開発等の教員の巻込不足</li> <li>✓ 大学内の教育の巻込の不足</li> <li>✓ 学術と実務双方を進める教員の育成不足</li> </ul>		3 成果を生むための仕組みの不足
		モノ	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ コーディネート機能の未構築（動機付けから社会実践まで学べるプログラムの全体コーディネートが不足）</li> <li>✓ 事務局機能の未構築（教員が指導に集中できる環境構築が不足）</li> <li>✓ 教育プログラム及び共有の不足（成功事例の大学間の事例共有の場および動機付けから社会実践まで学べる場の整備が不足）</li> <li>✓ アントレ研究に対する支援不足</li> <li>✓ 全大学共通プログラムの開発不足</li> <li>✓ 人事評価制度の未対応</li> <li>✓ 起業支援プログラムの不足</li> </ul>		
	カネ	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ アントレ教育のための予算獲得難</li> </ul>			
	学外リソース	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 学内だけでは対応しきれないヒト・モノ・カネのリソースをカバーできるような外部（OBOG・他大学・大企業・VC・自治体・スタートアップ支援機関等）との連携不足</li> <li>✓ 各地に所在するエコシステムのコミュニティとの連携不足</li> </ul>			
3 成果を生むための仕組みの不足	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ アントレ教育後のフェーズにおける課題（右記記載）</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 仕組みの企画設計及び学内外を巻き込む人材の不足</li> <li>✓ アントレ教育後の展開を見据えたプログラムの未整備や外部連携の未構築</li> </ul>
4 効果検証と成功事例横展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 他大学の取組を知る機会の欠如</li> <li>✓ 教育効果の可視化不足（各大学の取組を横展開するための取組評価指標及び有識者による第三者評価を行う継続的機会の設置）</li> </ul>				

# 本事業のスコープ

- ✓ アントレプレナーシップの醸成段階において、解決すべき3つの課題に取り組むため、教育プログラムの開発・プラットフォームの形成について検討することが本事業のスコープとなる

		アントレプレナーシップの醸成	アントレプレナーシップの発揮
		<b>動機付け・意識醸成</b>  <b>コンピテンシーの形成</b>	<b>社会実践</b>
解決すべき 主な課題	受講機会の創出	✓ アントレ教育に対する学生の <b>認知・関心が不足</b> しており、アントレ教育の受講につながっていない	—
	プログラムの 教育的価値の向上	✓ 大学のリソース不足により、 <b>教育効果の高いプログラム開発</b> 、及び運営や効果測定等の <b>実施体制が整っていない</b>	✓ プログラムで <b>得られる便益や受講後の人材像が不明確</b> であるため、動機付けにつながらず、当事者意識の醸成がされず継続的な学習が実現しない
	ステークホルダーの 参加促進	✓ 学生への広報やフォローアップにおいて、地域の <b>ステークホルダーとの連携が十分にできていない</b>	✓ ステークホルダーとの連携が不十分であることから、 <b>フィールドワーク等の社会実践の機会が不足</b> している
アントレ教育の目指す方向性		<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 全国の学生に受講機会を創出するために、<b>オンラインを主とした大人数が受講可能なプログラム</b>を開発し、学生や教職員が交流できる<b>プラットフォームを構築</b>し、アントレプレナーシップの醸成を図る</li> <li>✓ 各大学がそれぞれオリジナルのプログラム・カリキュラムを立ち上げるのは困難であるため、<b>全国プログラム等も活用し、大学間でもプログラム等を補完しながら、アントレ教育を実施できる仕組み</b>を構築する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ オンラインでは創出しづらい<b>実践の機会</b>においては、<b>各地域や各大学や各種ステークホルダーと連携</b>し、アントレプレナーシップの発揮を図る</li> <li>✓ アントレプレナーシップの発揮では、<b>フィールドワーク</b>が重要であり、その教育を実現するための<b>コネクションを形成する</b></li> </ul>
教育プログラムの開発		✓ 全国プログラムを通して、全国の学生に提供を図る	✓ 各地域の特性を生かしたプログラム開発・提供を図る
プラットフォームの形成		<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ アントレ醸成の場を形成するとともに、各地域での実践の機会への接続を図る</li> <li>✓ ターゲットを限定せずに、<b>エントリーレベルをターゲットとする</b></li> </ul>	✓ 各地域の特性を踏まえたPF形成・運営を図る
		<b>本事業で取組・開発する対象</b>	<b>各地域で形成・開発する対象</b>

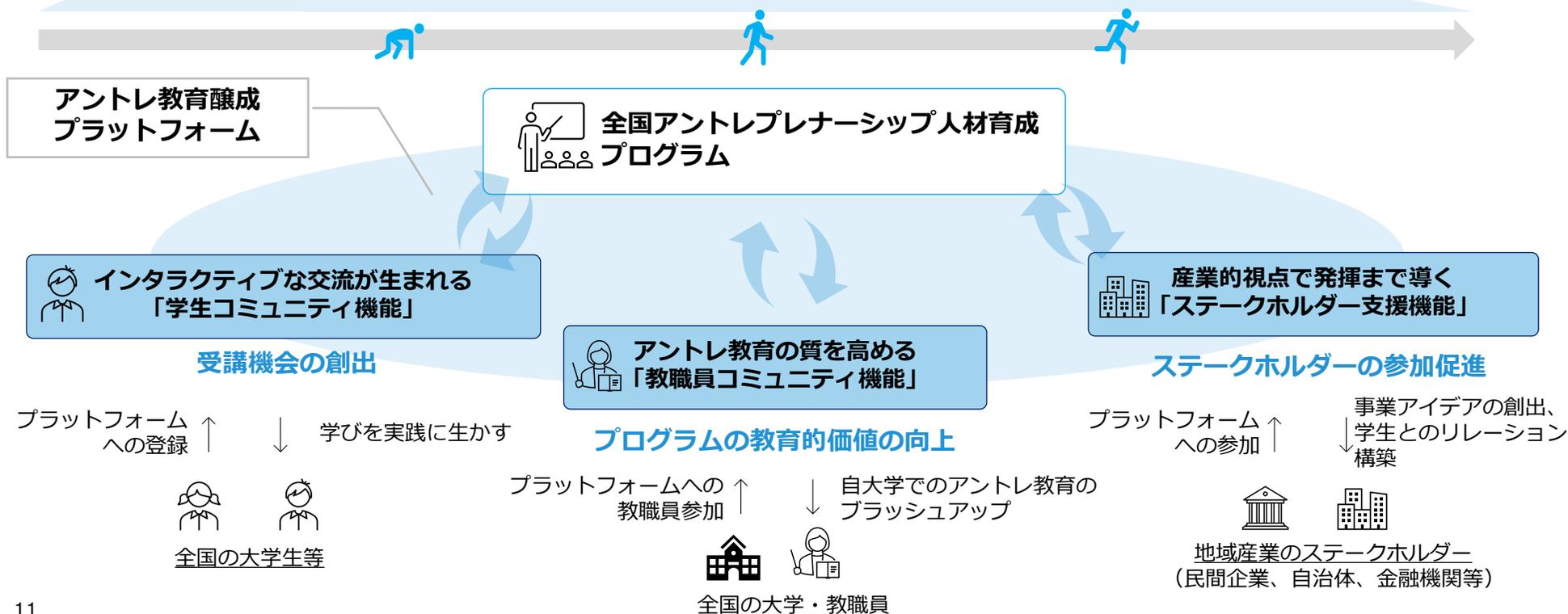
 接続

# アントレ教育醸成プラットフォームの位置づけ（初期仮説）

- ✓ アントレ教育醸成に向け、アントレ教育プログラムを軸として、学生コミュニティ機能・教職員コミュニティ機能・ステークホルダー支援機能を有するプラットフォームが必要と考える

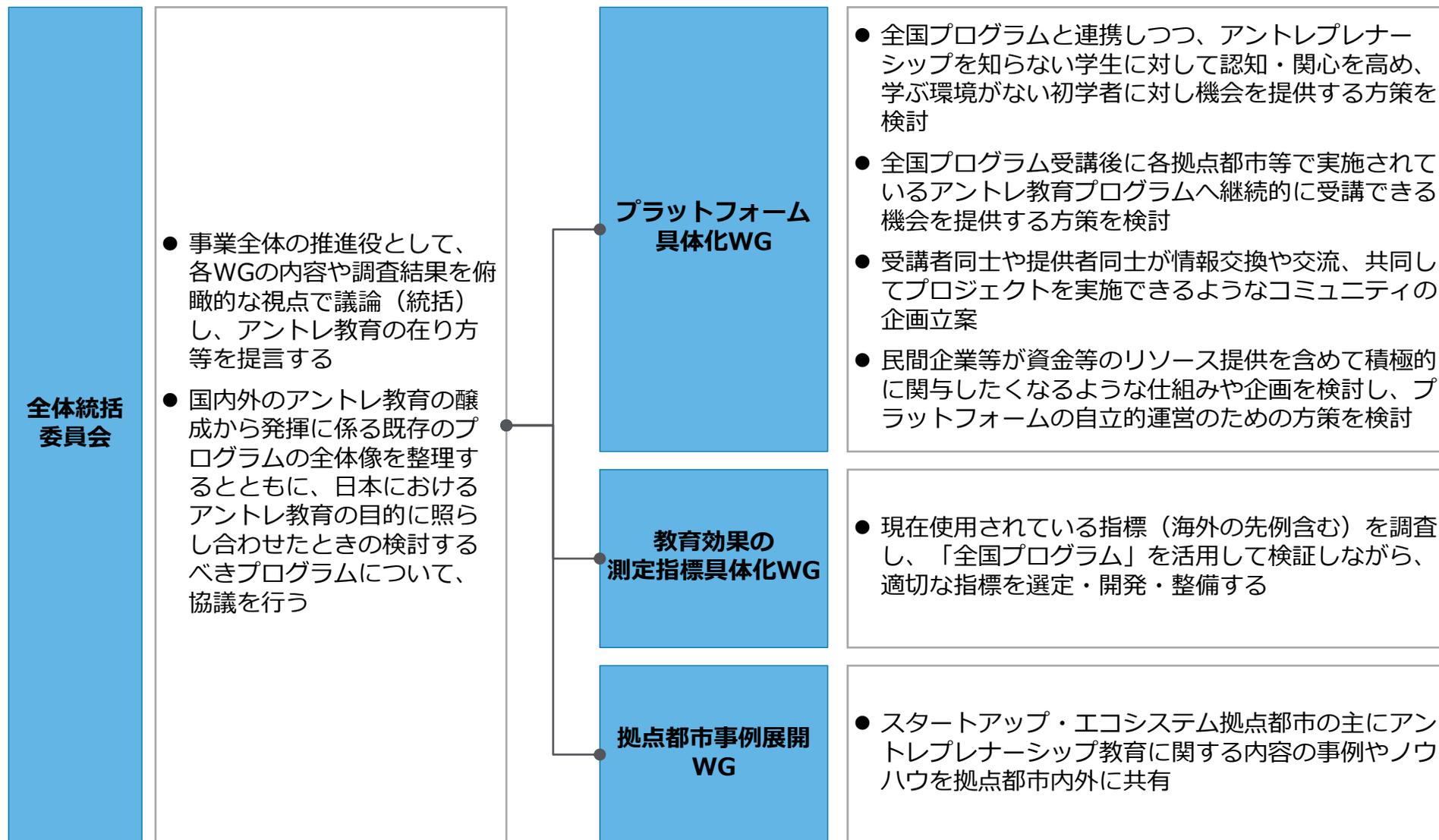


不確実性の高い環境下でも自身の持つ資源を超えて機会を追求し、  
未来創造や課題解決に向けた行動を起こしていくための精神と態度を学ぶ場



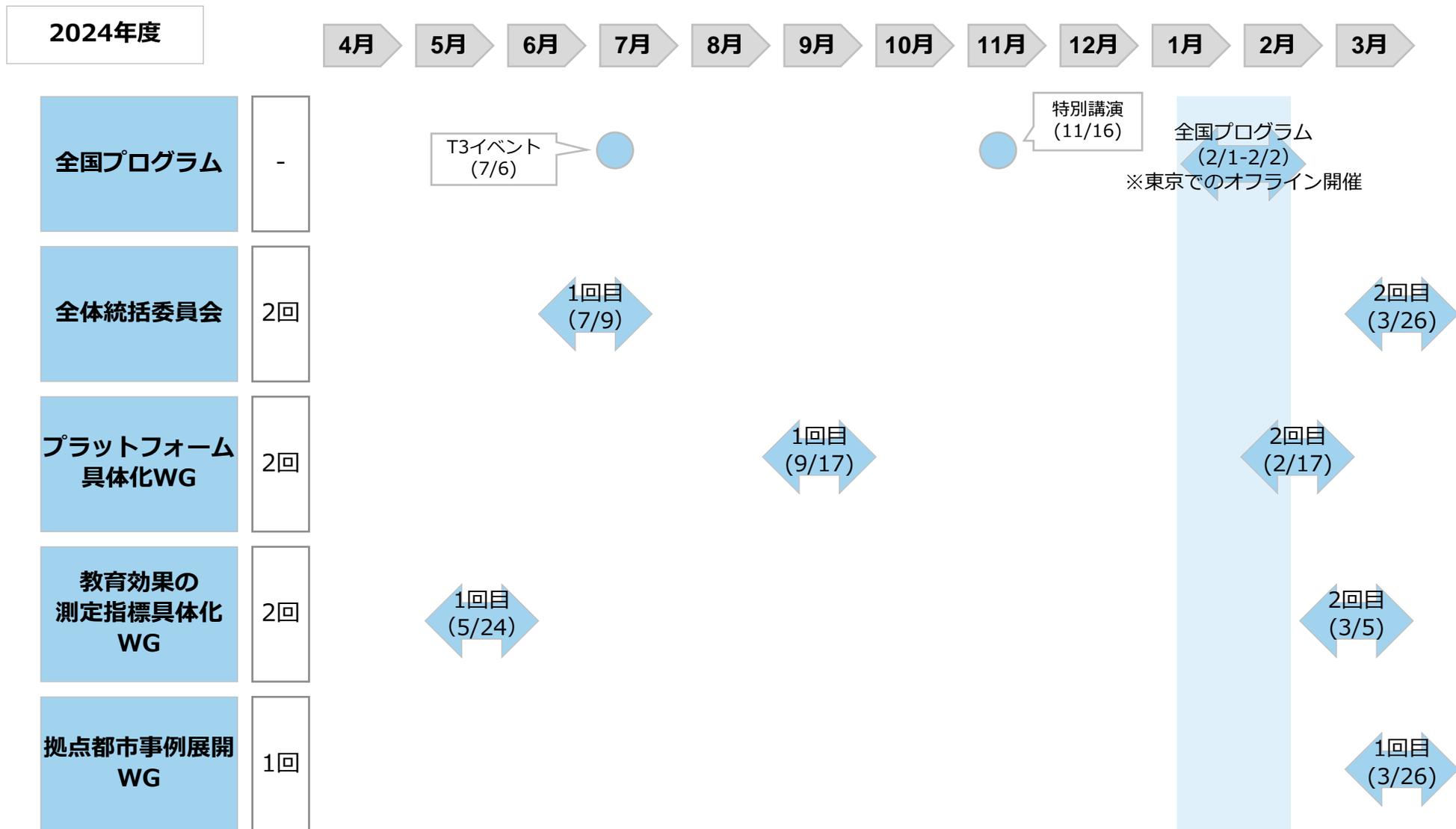
# アントレプレナーシップ醸成に係る課題に対するアプローチ・検証方法

- ✓ アントレプレナーシップ醸成に向けて、各論点について委員会WGを設け、全体統括委員会にて進捗を管理・推進を図った



# 2024年度（3年目）のスケジュール

✓ 2024年度のスケジュールは下記のように進めた



# 本調査報告書の本編の構成

✓ 本調査報告書の本編の全体構成は以下の通りである

	パート	調査・分析テーマ	具体的な調査事項・2024年度の実施事項
第1章	全体統括委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>受講機会の創出</li> <li>教育的価値の向上</li> <li>ステークホルダー参加促進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業全体の推進と進捗管理を行い、全体像の整理や課題の洗い出し等に関する検討した</li> <li>2024年度の調査・検証結果、各WGでの議論内容を踏まえ、アントレ教育の醸成促進に向けた目指すべき姿から事業計画の策定をした</li> </ul>
	プラットフォーム 具体化WG	<ul style="list-style-type: none"> <li>受講機会の創出</li> <li>教育的価値の向上</li> <li>ステークホルダー参加促進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>プラットフォーム機能の具体化に向けた方策、民間企業等の参加促進に向けた検討した</li> <li>民間企業等によるアントレプレナーシップ教育の醸成段階のプラットフォームの自立的な運営方法等の検討を進めると共に、実証を共にするパートナー企業の巻き込みを図った</li> </ul>
	教育効果の測定指標 具体化WG	<ul style="list-style-type: none"> <li>受講機会の創出</li> <li>教育的価値の向上</li> <li>ステークホルダー参加促進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在使用されている指標を調査し、適切な指標を選定・開発・整備について検討した</li> <li>アントレプレナーシップ教育のコアコンピテンシー及び教育ガイドの整備に向けた検討を行い、日本版EntreComp v1の公開に繋がった</li> </ul>
	拠点都市事例展開 WG	<ul style="list-style-type: none"> <li>受講機会の創出</li> <li>教育的価値の向上</li> <li>ステークホルダー参加促進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アントレ教育に関する内容の事例やノウハウを拠点都市内外に共有した</li> <li>スタートアップ・エコシステム拠点都市関係者に本事業の各WG等のモジュールごとの進捗を共有し、今後の事業での連携について交流を通して、情報交換を行った</li> </ul>
第2章	全国プログラム	<ul style="list-style-type: none"> <li>受講機会の創出</li> <li>教育的価値の向上</li> <li>ステークホルダー参加促進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アントレプレナーシップ醸成を加速させるための広報の方策に関する検討すると共に、全国の学生等を対象とした全国プログラムの開発・実施・運営方法について検討した</li> <li>教職員向けのFDプログラムの企画、運営、特別講演の企画・運営、各種フォローアップ企画等を行い、それぞれの考察を整理した</li> <li>2023年度実施した学生向けの教育効果測定も継続的に行い、経年で学生の教育効果の測定を行った</li> </ul>
第3章	国内大学調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>受講機会の創出</li> <li>教育的価値の向上</li> <li>ステークホルダー参加促進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全国の大学におけるアントレ教育の実施状況に関して調査した</li> <li>大学の属性ごとの現状を把握し、問題点・課題を抽出するために、各検証論点において過去調査と比較し、経年変化を追跡した</li> </ul>
	海外大学調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>受講機会の創出</li> <li>教育的価値の向上</li> <li>ステークホルダー参加促進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>海外の大学等におけるアントレ教育に関連する先進事例に関して調査した</li> <li>検討論点と調査概要を示し、海外大学調査の結果を整理した</li> <li>各WGでの検討内容等も踏まえ、本事業の検討に資する事例を調査し、整理した</li> </ul>

# エグゼクティブサマリ

## 実施に伴い挙がってきた成果・論点

## 2025年度に向けた検討方針

### 第1章

#### 全体統括委員会

- 国内におけるアントレ教育のすそ野拡大における目指すべき姿、課題について協議すると共に、アントレ教育の展開等に寄与する教育ガイドの整備、民間企業主導の学生コミュニティの運営モデルの検証等の進捗を管理し、今後のアントレ教育の普及・発展に向けた政策の方向性について協議した

- 5年間事業の目指すべき姿や作成したマイルストーンに従い、2025年度以降はさらなる委員会間の連携を促進させると共に、プラットフォーム間の連携や学内外の関係者との連携を促進させ、アントレ教育プログラムの深化やステークホルダーの巻き込み等についてさらにブラッシュアップさせていく必要がある

#### プラットフォーム 具体化WG

- 学生コミュニティの自立化モデルの検証を行う上で、有識者へヒアリングを実施し、9つのモデルを整理し、候補となる民間企業と各モデルにおける検証のポイントを整理した
- 各モデルを実証し得る民間企業にヒアリングを行い、最終的に4社にモデルを提出いただき、2社を実証パートナーとして選定することができた
- 民間企業でアントレ教育の醸成段階のプログラムを実施するにあたって、教育の質と持続性の担保が可能であるかが主な検証論点として明らかになった

- 2社の実証パートナーが実施するアントレ教育が一定の質を担保しつつ、持続的な取組として継続できるかを委員のフィードバックを得ながら検証、評価を行う必要がある
- 2社の実証において、アントレ教育の質と持続性を担保するための課題点の洗い出し、学生コミュニティの自立化モデルを検討する
- 実証結果の取りまとめ方や発信方法を検討し、他企業へ横展開出来るモデルかどうかについても議論を行う

#### 教育効果の測定指標 具体化WG

- EUのEntreCompを参考にしながら、日本版EntreCompを策定するにあたって、現場の実践経験を踏まえた手触り感のある議論を繰り返し実施した
- 各委員会やFDプログラムで得たフィードバック等を元に、2025年3月に日本版EntreComp v1およびそのガイドをリリースすることができた

- 日本版EntreComp v1の認知拡大、関心醸成、活用・事例作り、更新の観点でアントレ教育ガイドの今後の展開を検討する必要がある
- 上記検討を進めるにあたって、アントレ教育ガイドを利用する方のペルソナの整理、課題の特定を行う事でv2に向けた更新方針を検討する
- 日本版EntreComp v1を使用した実践例、教育効果の測定例等を収集し、全国各地の教育現場で活用できる事例を周知する必要がある

#### 拠点都市事例展開WG

- ハイブリッド形式で開催し対面79名、オンライン127名が参加し各WGのパネル等を聞いた後に、交流会で意見交換やネットワーキングを行った

- 参加者アンケートにて、本事業との参画・連携・協力に関心ありと回答いただいた関係者とは、特にPFWGの実証先、日本版EntreComp v1の実践例等の観点で連携を図る

### 第2章

#### 全国プログラム

- 学生プログラム185名、FDプログラムは教員30名、特別講演には691名が参加した
- 学生プログラムの講師は、2024年度のFDプログラム受講者が務め、2024年度の馬田先生のプログラムを元に一部アレンジを加えたが、品質と満足度は2023年度と変わらず維持することができた

- 講師は2024年度のFDプログラム受講者に依頼し、そのサポートとして2024年度の講師が入る形式で検討
- FD同窓会等による、過去のFD受講生を含むコミュニティ形成の実施
- 学生プログラム講師の準備に時間を要するため、準備の簡略化、フォーマット化を図る必要がある

# エグゼクティブサマリ

## 実施に伴い挙げてきた成果・論点

### 第3章

#### 国内大学調査

- アントレ教育の受講人数は、大学生、大学院生を合わせると約13.5万人。またその他研究者・社会人学生・高校生等を含めると約15.5万人（全体で5.2%）となった。前回調査（2022年度）では全体で約9.7万人（全体で3.2%）でありこの2年で約1.5倍増したが、依然低い
- アントレ教育の運営体制を整備している大学は、前回調査の35%から48%に増加した。学部横断的な科目設置や必修科目化を行う大学が増え、徐々に理解が進んでいる
- 教育の効果検証やアントレ教職員の育成については、取組がみられるものの、依然として低水準となっている（詳細は調査パートを参照）

#### 海外大学調査

- 本事業での検討論点である「受講機会の創出」、「プログラムの教育的価値の向上」、「ステークホルダーの参加促進」の検討に繋がるように、アントレ教育の先行事例を有するメリーランド大学カレッジパーク校（米国）、ペンシルベニア大学（米国）、インド工科大学ボンベイ校（インド）の3校について調査を行った
- アントレ教育の裾野拡大に向けては、学内体制整備に資する全学的なFDプログラムの実施や、大学とスタートアップ・エコシステム内のプレイヤーとの連携による実践的な学びの設計や学生コミュニティの形成等が重要である

## **【第1章】**

# **有識者委員会での取組・議論内容**

# 【第1章】有識者委員会での取組・議論内容

## ■ 全体統括委員会（アントレプレナーシップ醸成促進に係る全体像の整理）

- 1.1 アントレプレナーシップ醸成における課題を踏まえた論点の整理
- 1.2 アントレプレナーシップ醸成促進に向けた取組内容
- 1.3 今後の検討項目

## ■ プラットフォーム具体化WG（アントレプレナーシップ人材の裾野拡大に向けたプラットフォーム形成に関する検討）

- 2.1 現状の課題・背景に基づく、検討論点と調査概要
- 2.2 民間企業等による運営モデルの検討
- 2.3 プラットフォームのあるべき姿の検討
- 2.4 今後の検討項目

## ■ 教育効果の測定指標具体化WG（アントレプレナーシップ教育における教育効果の測定指標の確立に関する検討）

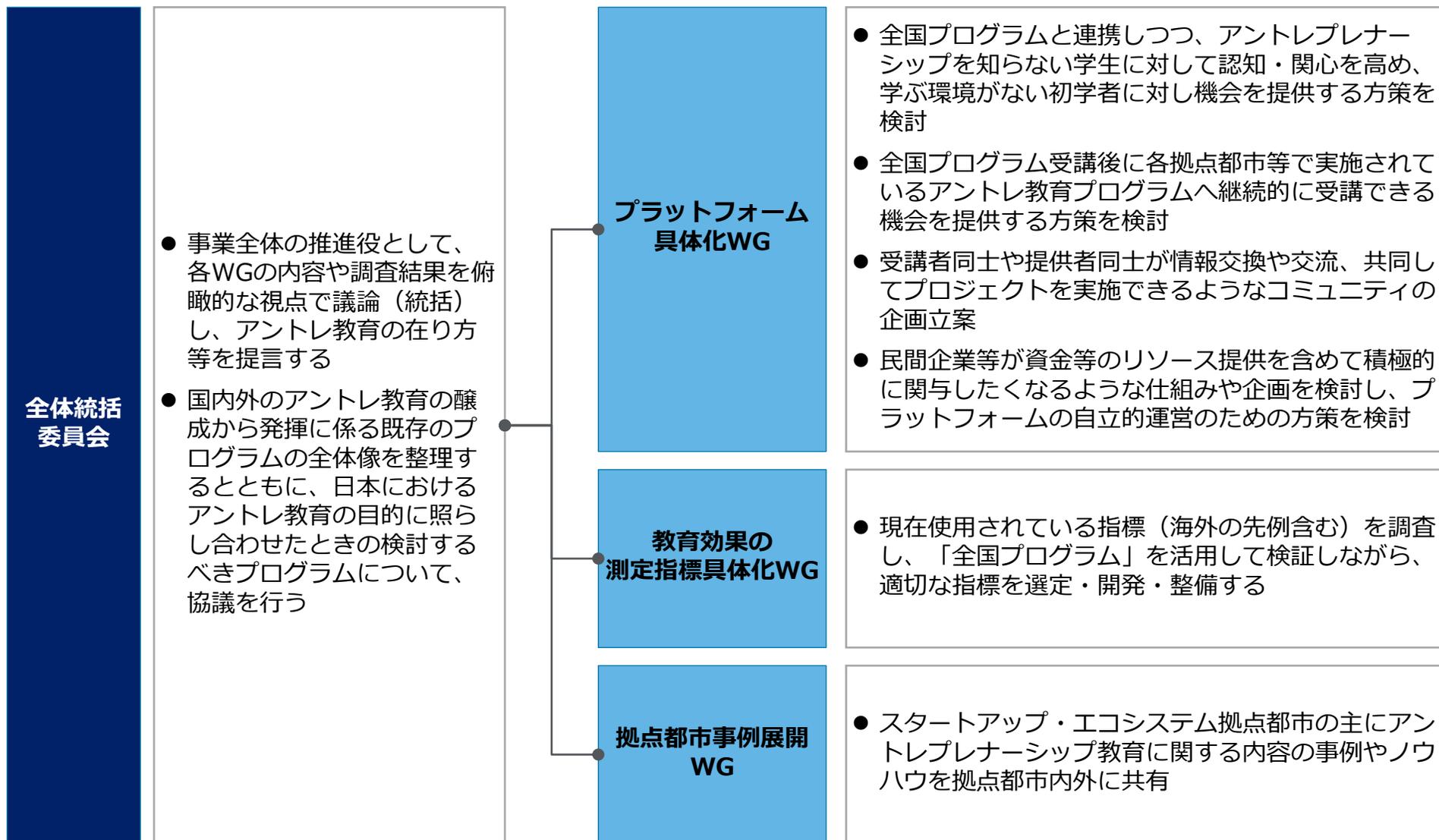
- 3.1 現状の課題・背景に基づく、検討論点と調査概要
- 3.2 アントレ教育ガイドの検討・作成
- 3.3 アントレ教育ガイドの展開・活用促進の検討
- 3.4 今後の検討項目

## ■ 拠点都市事例展開WG（アントレプレナーシップ教育に関する内容の事例やノウハウの共有に関する検討）

- 4.1 開催概要
- 4.2 実施結果

# アントレプレナーシップ醸成に係る課題に対するアプローチ・検証方法

- ✓ アントレプレナーシップ醸成に向けて、各論点について委員会WGを設け、全体統括委員会にて進捗を管理・推進を図った



# 全体統括委員会の開催概要

- ✓ 2024年度は2回開催し、アントレ教育の木の絵の具現化、各WGの進捗管理及びWGテーマの検討に関して協議を行った

## 目的

- 全体統括委員会は、事業全体の推進役として、各WGの内容や調査結果を俯瞰的な視点で議論（統括）し、アントレ教育の在り方などについて提言する
- 全体統括委員会は承認機能を有し、年度頭には年度実施計画の承認を行い、2024年度末には2025年度の実施方針について取りまとめを行う

## 検討論点

- アントレ教育の木の絵の具現化を行うためのフレームを確立
- 事業全体の進捗状況を確認、承認を行う

## WG各回での議論内容

項目	2024年度のゴール	WG各回での議論内容	
		1回目（7/9）	2回目（3/26）
アントレ教育の木の絵の具現化	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ アントレ教育のコアコンピテンシーの検討</li> <li>■ モデルプログラムの検討及び作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ アントレ教育のコアコンピテンシーの今後の進め方について協議（教育効果WG馬田座長とともに検討）</li> <li>✓ アントレ教育の提供環境整備に向けて、モデルプログラムを検討し、テンプレート案の作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 教育効果WGと連携し、アントレ教育ガイドの初期仮説を提案</li> <li>✓ アントレ教育のモデルプログラムの作成と情報発信について検討</li> </ul>
各WGの進捗管理及びWGテーマの検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 各WGの進捗状況の管理</li> <li>■ 時勢の変化に応じたWGテーマの検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 各WGの進捗状況の確認、2024年度の実施計画の承認</li> <li>✓ 時勢及び各WGの進捗状況に応じたWGテーマについて検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 各WGの進捗状況の確認、翌年度の実施計画の承認（各WGから委員の出席）</li> <li>✓ 時勢及び各WGの進捗状況に応じたWGテーマについて検討</li> </ul>

## 実施方法

- 開催日・開催形式：
  - <第1回目> 2024年7月9日（火）9:00-11:00 オンライン
  - <第2回目> 2025年3月26日（水）15:00-17:00 対面
- 有識者委員：【座長】坂田一郎、島岡未来子、高田仁、高橋修一郎、山川恭弘（敬称略、座長以下氏名五十音順）
- ゲスト：馬田隆明（第1回目、第2回目）、山口文洋（第2回目）

## 全体統括委員会の開催報告

- ✓ 第2回目の対面形式で開催された全体統括委員会の実施の様子



# 全体統括委員会での意見概要

✓ アントレ教育の取り巻く環境の変化に関して、全体統括委員会にて協議を行った

アントレ教育の取り巻く環境の変化に対する影響に関するコメント

今後のアントレ教育政策について

外部環境の変化について

## ▶学内で優先度高く、継続性の担保やリソースの配分がなされるか

– 大学内においてアントレ教育のニーズがある場所・部局を紐解くことがまず求められる

▶アントレ教育の実施率等が伸びていることは望ましい結果であるといえるが、さらにアントレ教育を大学で広めていくために、**アントレ教育が大学全体のカリキュラムの中で横軸で大切な要素**であることを理解を深められると良いと考える

▶定量的な定点観測は非常に有意義であるが、**アントレプレナーシップに対する認知度**（世の中の課題に前向きに取り組み、新たな価値の創出に対して挑戦をする等）が普及されているのか、本事業で発信したいコアメッセージが学生にどれだけ届いているのかは調査しても良いのではないかと考える

▶教育の観点において、日本でのプログラムや取組はポテンシャルがあるので、海外に発信し、**グローバル展開も見据えていけるとよい**のではないかと考える（海外へ渡航させる経験も、学生の背中を押す機会として有効）

▶教育の質確保の観点では、都心部だけでなく、**地方部にもアントレ教育が広まる必要がある**

▶プロセス論ではなく、アイデアの面白さからアントレプレナーシップの原体験となる内発的動機付けが生まれるのではないかと。第2層・第3層の学生には、**お祭り感覚で参加してもらえような機会**を設計し、小さな成功体験を積むことが出来る場があるとよい

▶**機会を選べることは大切**であり、選択肢を選ぶ際に、学生にあった選択肢を選べるガイドがあるとよい

## ▶教育対象となる学生の特徴や質が大きく変化しており、そのような変化にどのように対応するか

– Z世代やα世代に対しての認識を変える必要がある。「起業」や「スタートアップ」を前に打ち出すことで、**学生が回避してしまう事例**が多く見受けられる。出口を先に示すのではなく、身近な課題の認識や自らの興味分野の発見等、入り口の整備も注力するべきである

## ▶AIによる急速な技術革新が進む中で、技術をどのように活用するか

– AIをはじめとする技術革新を教育にどのように取り入れていくのかを今後考える必要がある

▶教師の役割はTeachではなく、質問によって引き出すCoachingやメンタリングの技術が今後求められてくる

# ディスカッションテーマごとの議論内容及び得られた示唆

- ✓ ディスカッションテーマごとに、論点を設定し、委員会を通して協議することで2025年度に繋がる示唆を得ることができた

テーマ	論点	議論内容及び得られた示唆
<p><b>討議事項①</b> アントレ教育の木の絵の具現化</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 事業全体の目指すアントレ教育のコアコンピテンシーの検討</li> <li>■ モデルプログラムの検討及び作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ アントレプレナーシップ教育の目指すべき姿を踏まえ、アントレ教育のコアコンピテンシーを教育効果WGの委員とともに検討・協議を行い、年度内にアントレ教育ガイド「日本版EntreComp v1」の公開した               <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 地域や大学等の想定ターゲットに合わせてスコープと発信方法を検討し、アントレ教育ガイド「日本版EntreComp」の指標との関係性を整理した上で活用されるべきである</li> </ul> </li> <li>✓ アントレ教育実施大学を増加させるため、自大学でのプログラム開発・実施を促すモデルプログラムの収集方法を検討した               <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ モデルプログラムはあくまで「基盤となるプログラム」であり、高等教育機関においては特に先生方のオリジナリティを入れ、先生ならではの経験談・想い等でアレンジされることが望ましい</li> </ul> </li> </ul>
<p><b>討議事項②</b> 各WGの進捗管理及びWGテーマの検討</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 各WGの進捗状況の管理</li> <li>■ 時勢の変化に応じたWGテーマの検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ アントレ教育の取り巻く環境の変化に対する影響による今後のアントレ教育政策についてや、本事業のプラットフォーム具体化WG、全国プログラム、FDプログラムについて、進捗を管理するとともに、各モジュールが推進できるように協議を行った               <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ アントレ教育の実施率が伸びていることは望ましいが、さらにアントレ教育の実施大学を増やすためには、アントレ教育のニーズが高い場所や部署に働きかける必要があり、地域特性や学生属性に応じてアプローチ方法を検討し、柔軟に対応していく必要がある</li> <li>➢ アントレプレナーシップ教育を普及するために、正課として大学の学びやカリキュラムの構造を変化させるとともに、課外活動で自主的な活動の機会を生み出すことも重要である</li> </ul> </li> </ul>

# 全体統括委員会での意見概要（アジェンダ①-1アントレ教育ガイド）

✓ アジェンダ①アントレ教育ガイドの検討に関して、全体統括委員会にて協議を行った

討議事項①

アントレ教育の木の絵の具現化

討議事項②

各WGの進捗管理及びWGテーマの検討

アントレ教育ガイドに関する  
2023年度議論

- 現場の先生の実践例を踏まえて、**日本らしさ**を検討し、アントレ教育ガイドガイドの中に取り込んでいく
- **研究に基づいた教育**の設計は非常に重要である
- 全学及び学部等の**学修目標に加え**、シラバスに反映させることで、学生が探しやすくなり、学内での仲間探しに繋げやすくなる
- アントレ教育の専任の先生がいない学校では、EUのEntreCompのようなガイドは助かる。**教材のシェア**も将来的には検討すべきではないか
- アントレ教育の経験のない大学がアントレ教育ガイドを見てもプログラムを開発できないと思うので、モデルとなるプログラムがあると良いと考える（FDプログラムによる補助や実践例等は必要）

2024年度議論

## 【アントレ教育ガイドの検討・作成】

- 出口寄りになってしまうと文科省が掲げているアントレ教育の定義からそれてしまうので、**導入部のところは明確に「起業」だけでないことは発信すべき**（学生にもアントレ教育の魅力・価値の発信は重要）
- 地域や大学によってアントレ教育に対する考え方が存在してよいと考えており、“**これが正解である**”という見せ方にならないようにする（発信の際にはスコープと伝え方が重要である）
- 本アントレ教育ガイドは**大学教育にてできる範囲**で整理をされるべきであり、アントレ教育の授業の中で教えるべきでない基礎学力のところや大学教育を超えるようなレベルのものは控えるべきと考える（ナレッジスキル等の伸ばすことのできるスキルにフォーカスする）

## 【アントレ教育ガイドの展開・活用】

- 各大学への導入に向けて、「**アントレ教育を中心に行う責任部局**」や「**アントレ教育の大学全体における位置づけ・教育戦略**」とアントレ教育ガイドにおける指標がどのような関係にあるのかを整理し、各大学の特性に応じて活用方法を提案することが大切である
- アントレ教育ガイドを評価指標として利用し、**得られた情報をどのように活用するのか**についての見通しを立てておくことが重要であり、**アントレ教育のコアの価値を明確にし、調査の目的や活用方法を見失ってしまうことや調査疲れに陥ってしまわないようにする必要がある**
- アントレ教育ガイドの更新については、**ワークショップやアンケート等からフィードバックを回収し、現場の声を拾っていくことが重要である**

# アントレ教育ガイド「日本版EntreComp v1」の公開

✓ 2025年3月31日にアントレ教育ガイド「日本版EntreComp v1」を文部科学省HPにて公開した

討議事項①  
アントレ教育の木の絵の具現化

討議事項②  
各WGの進捗管理及びWGテーマの検討

● 令和4年度科学技術人材養成等委託事業「全国アントレプレナーシップ醸成促進に向けた調査分析等業務」におけるアントレプレナーシップ教育ガイドの公表について

令和7年3月31日

文部科学省では、全国にアントレプレナーシップを醸成することを目的に、全国アントレプレナーシップ醸成促進事業を実施しております。令和4年度科学技術人材養成等委託事業「全国アントレプレナーシップ醸成促進に向けた調査分析等業務」の教育効果の測定指標具体化WG（アントレプレナーシップ教育における教育効果の測定指標の確立に関する検討）にて、アントレプレナーシップ教育ガイド（以下、「日本版EntreComp v1ガイド」という。）を作成いたしました。

なお、日本版EntreComp v1およびそのガイドは、各教職員が行うアントレプレナーシップ教育の内容を制約するものではありません。各教職員が最新のアントレプレナーシップ教育の研究を参照しながら、日本版EntreComp v1を超えて教育に工夫することを推奨しています。

[全国アントレプレナーシップ醸成促進事業オフィシャルサイト（別ウィンドウで開きます）](#)

## 1. 日本版EntreComp v1ガイド

- [日本版EntreComp v1一覧 \(PDF:305KB\)](#)
- [日本版EntreComp v1ガイド \(PDF:1.6MB\)](#)

## 2. 日本版EntreComp v1ガイドの概要

### (1) 本ガイドの目的

日本版EntreComp v1は、財務的価値・文化的価値・社会的価値を生み出すことに資する、個人のコンピテンシー（資質・能力）を整理するものとして設計されています。本ガイドは、日本版EntreComp v1の中に含まれる10個のコア・スキルを教育実践へとつなげていくための補足資料として用意しました。

### (2) 本ガイドの対象者

本ガイドは、アントレプレナーシップ教育に携わる大学の教職員の方々向けのガイドです。置かれた立場やこれまでの経験によって、ガイドの使い方を覚えてください。

○これからアントレプレナーシップ教育に携わる教員の方々

初めてアントレプレナーシップ教育のコースデザインやクラスデザインをするとき、どのスキルを伸ばしたいかを意識しながら設計してみてください。  
（1つのコースですべてのスキルを伸ばす必要はありません。）

○すでにアントレプレナーシップ教育を行っている教員の方々

ご自身の教育活動が、特にどのスキルを対象として伸ばしているのかを整理したり、今後どのようなコースやクラスを設計していくかを考える材料として参考にしてください。

### (3) 日本版EntreComp v1を作成した背景

EUが2016年に定めたEntreComp (Entrepreneurial Competence) は、数多くのコンピテンシー（資質・能力）を取り上げ、初等教育から高等教育までをカバーする、アントレプレナーシップ教育の包括的な見取り図として有用でした。一方で、包括的なために数が多く、また抽象度が高いため、現場の授業でEntreCompを活用するには、現場での工夫と経験が必要だったことも事実です。今回提案する日本版EntreCompでは、EU版EntreCompを元としながら、より日本の教育現場で使いやすいものとして整理・提案しています。

### (4) 日本版EntreComp v1の特徴

日本版EntreComp v1では、長年アントレプレナーシップ教育に関わってきた教員複数名が議論を行い、EU版EntreCompの『アイデアと機会』『資源』『行動』という3つのコンピテンシーエリアの中から、特に重要だと考えるコア・コンピテンシーを1つずつ取り上げたうえで、そのコア・コンピテンシーを細分化して、31個の『コア・コンピテンシー』と10個の『コア・スキル』に整理しています。

### (5) 日本版EntreComp v1の制約

この日本版EntreComp v1、ならびにそれに付随するガイドは今後数年以内に刷新をする前提で作られています。国内でのアントレプレナーシップ教育に関する期待の高まりを受けて、まず暫定的なガイドを作成する目的で作られました。アントレプレナーシップは世界的に見てもまだ概念として固まっているわけではありません。また教育者の経験や思想によっても、アントレプレナーシップならびにアントレプレナーシップ教育の解釈は異なります。

そのため、日本版EntreComp v1およびそのガイドは、各教職員が行うアントレプレナーシップ教育の内容を制約するものではありません。各教職員が最新のアントレプレナーシップ教育の研究を参照しながら、日本版EntreComp v1を超えて教育に工夫することを推奨しています。

※本概要は、日本版EntreComp v1ガイドから引用

<教育効果の測定指標具体化WG 委員>

※座長以下 氏名五十音順 敬称略

・馬田 隆明 東京大学 FoundX デイレクター

・萩原 文博 ソニーマーケティング株式会社 B2Bプロダクト&ソリューション本部 B2B ビジネス部、MESH 事業室室長

・牧野 恵美 立命館アジア太平洋大学 国際経営学部 准教授

・山田 剛史 関西大学 教育推進部 教授

参考（文部科学省公式HP）：

[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shinkou/sangaku/mext\\_00027.html](https://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/sangaku/mext_00027.html)

# アントレ教育ガイド「日本版EntreComp v1」の認知拡大

- ✓ アントレ教育ガイド「日本版EntreComp v1」を公式HPにて公開し、イベントやFDプログラム等を通じて認知拡大を図った



公式HPにも公開を行い、日本版EntreComp v1の認知拡大に努める  
<https://entrepreneurship-education.mext.go.jp/teaching25/>



## 討議事項①

アントレ教育の木の絵の具現化

## 討議事項②

各WGの進捗管理及びWGテーマの検討

### 日本版EntreComp v1の特徴

日本版 EntreComp は、長年アントレプレナーシップ教育に関わってきた教員複数名が議論を行い、EU版 EntreComp の『アイデアと機会』『資源』『行動』という3つのコンピテンシーエリアの中から、特に重要だと考えるコア・コンピテンシーを1つずつ取り上げたうえで、そのコア・コンピテンシーを細分化して、3個の『コア・コンピテンシー』と10個の『コア・スキル』（EU版 EntreComp では『スレッド』に該当）に整理しています。

※この日本版 EntreComp v1、ならびにそれに付随するガイドは、今後数年以内に刷新をする前提で作られています。

### コア・コンピテンシー

### コア・スキル

機会の発見	① 問いを立てる
	② 情報を探索する
	③ アイデアを作る
資源の動員	④ 今ある資源を認識する
	⑤ 今ある資源を活用する
	⑥ 足りない資源を獲得する
不確実性、曖昧さ、リスクへの対処	⑦ 不確実性、曖昧さ、リスクを見極める
	⑧ 試してみる
	⑨ 意思決定をする
	⑩ 学びを得る

# 全体統括委員会での意見概要（アジェンダ①-2モデルプログラム）

- ✓ アジェンダ①モデルプログラムの検討に関して、全体統括委員会にて協議を行った

討議事項①

アントレ教育の木の絵の具現化

討議事項②

各WGの進捗管理及びWGテーマの検討

## 2024度議論

### 【テンプレート】

- テンプレートはあくまで「**基盤となるプログラム**」であり、実際に作成する際は先生方の**オリジナリティ**を入れていただく（その先生ならではの経験談・想い等）
- 先生方のオリジナリティを個々に入れることは、先生方のモチベーションにもなる
- 分野・領域の項目の**粒度感**が異なる
- 講義型をさらに細分化し、**講義形式（アクティブラーニング・GW等）**を記載する

### 【モデルプログラムの作成】

- モデルプログラムの整理ができれば、**そのまま先生方が使える教材**も提示できると良い。また、プログラムの実践イメージが沸くよう、備考欄に授業のフレームワーク図や動画を添付出来れば、先生方の理解もより深まる
- 本事業の委員の協力を始めとし、今後FDプログラムに参加した教職員等の協力をいただきながらモデルプログラムの収集を推進すると良い

### 【発信方法】

- 想定する教員のリストを作成し、発信方法を検討すると共に、需要の有無について調査を行うべきである

# モデルプログラムの検討

- ✓ 自大学にてプログラムの開発等を行う際に参考となるモデルプログラムの発信を行うことを検討した

討議事項①  
アントレ教育の木の絵の具現化

討議事項②  
各WGの進捗管理及びWGテーマの検討

## モデルプログラムの 作成目的

- アントレ教育の実施を検討しているが、教育プログラムを開発するケイパビリティを有していない学校において、他校のプログラムを参考に自大学でプログラムの開発、実施に繋がるサポートの役割を担うモデルプログラムを作成することで、アントレ教育の実施大学を増やすことを目的とする

## 作成上のポイント

- プログラムの概要、狙い、流れなどがまとまっていること
- 自由度をある程度担保した形となっていること
- テンプレート化されており、表記に統一性があること

## 今後の展望

- 2024年度はテンプレートの作成を全体統括委員会にて議論する
- 作成したテンプレートに全体統括委員会の委員の先生の協力をいただき、掲載用のサンプルを作成する
- 2025年度以降にはFDプログラムを受講した先生方等を対象に、モデルプログラムの様式に合わせて、埋めてもらい、先生方の実施しているプログラムもサンプル化することにより、事業としても広がりを出していく

## 参考テンプレート

- 外国人児童生徒等教育を担う教員の養成・研修モデルプログラム開発事業（文部科学省）

次ページにモデルプログラムのテンプレートを掲載

# モデルプログラムのテンプレート

## タイトル（講義名）

討議事項①

アントレ教育の木の絵の具現化

討議事項②

各WGの進捗管理及びWGテーマの検討

アントレ教育の段階	<input type="checkbox"/> 動機付け・意識醸成段階 <input type="checkbox"/> コンピテンシーの形成段階 <input type="checkbox"/> 社会実践段階
ねらい	
主な内容	
実施学部・研究科の系統	<input type="checkbox"/> 人文科学系統（文学・人文・人間・心理分野の学部、教育・福祉分野の学部など） <input type="checkbox"/> 社会科学系統（経済・経営・商学分野の学部、法律・政治分野の学部、社会・メディア分野の学部など） <input type="checkbox"/> 自然科学系（理・工分野の学部、農・獣・畜産・水産分野の学部、医・歯・薬分野の学部、看護・保健・衛生分野の学部など） <input type="checkbox"/> 学部横断型（文系・理系の枠組みにとらわれず、総合的・分野横断的な学び） <input type="checkbox"/> その他（ ）
対象	<input type="checkbox"/> 活動家（既に事業を起こしている、もしくは具体的な活動を行っている学生） <input type="checkbox"/> 顕在層（新しい価値創造のために、アイデアの検討をしている、もしくは興味がある学生） <input type="checkbox"/> 潜在層（現状に対して漠然とした危機感を有し、なにかアクションを起こしたいと考えている学生） <input type="checkbox"/> 無関心層（具体的な活動は起こしておらず、自身のキャリアや社会課題に対してイメージが明確でない学生）
アントレプレナーシップ教育の指導経験	<input type="checkbox"/> 経験なし <input type="checkbox"/> 1年目 <input type="checkbox"/> 2～4年目 <input type="checkbox"/> 5～9年目 <input type="checkbox"/> 10年以上
高めたい資質・能力	<input type="checkbox"/> 機会を見つける（問いを立てる） <input type="checkbox"/> 機会を見つける（情報探索） <input type="checkbox"/> 機会を見つける（発想） <input type="checkbox"/> 資源の動員（自分の資源の認識） <input type="checkbox"/> 資源の動員（今ある資源の活用） <input type="checkbox"/> 資源の動員（足りない資源の獲得） <input type="checkbox"/> 不確実性・あいまいさ・リスクへの対処（見極める） <input type="checkbox"/> 不確実性・あいまいさ・リスクへの対処（試してみる） <input type="checkbox"/> 不確実性・あいまいさ・リスクへの対処（意思決定） <input type="checkbox"/> 不確実性・あいまいさ・リスクへの対処（振り返り）
分野・領域	<input type="checkbox"/> 総合的 <input type="checkbox"/> AI <input type="checkbox"/> AIを除くディープテック <input type="checkbox"/> ヘルスケア <input type="checkbox"/> 食・材料 <input type="checkbox"/> 環境 <input type="checkbox"/> エネルギー <input type="checkbox"/> 経済 <input type="checkbox"/> 教育 <input type="checkbox"/> 社会課題 <input type="checkbox"/> ビジネスアイデア <input type="checkbox"/> その他（ ）
活動形態	<input type="checkbox"/> 講義型 <input type="checkbox"/> 活動型 <input type="checkbox"/> フィールド型 <input type="checkbox"/> 実習・実践
教育体制（リソース）	担当教員__名 TA <input type="checkbox"/> 有（__名） <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> その他（ ） オフィスアワー <input type="checkbox"/> 有（__時間） <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> その他（ ） 外部講師等 <input type="checkbox"/> 有（__名） <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> その他（ ）
時間	___分
流れ（・項目）	活動（◇活動の工夫）
備考	

# モデルプログラムの発信

✓ モデルプログラムを公式HPにて公開し、認知拡大を図った

全国アントレプレナーシップ  
人材育成プログラム

PROGRAM INTERVIEW ACTIVITY LEARNING TEACHING REPORT

文部科学省

アントレ教育を実施する  
(教職員向け)

**Teaching**

モデルプログラムとして、既に実施しているアントレプレナーシップ教育プログラムを紹介しています。  
また、アントレプレナーシップ教育プログラム受講後に効果測定をするためのサンプルや各種調査データも公開していますので、ご活用ください。

**Model Program**  
モデルプログラム

**Effect measurement**  
アントレ教育プログラムに関する効果測定

**Model Program** モデルプログラム

モデルプログラムとは、全国で実施されているアントレプレナーシップ教育のプログラムの事例です。

教職員の皆さまが、アントレプレナーシップ教育プログラムを実施する際の参考事例として是非ご活用ください。

また、モデルプログラムは今後増やす予定であり、定期的に本ページをご覧いただけますと幸いです。

公式HPにて、モデルプログラムを掲載し、発信をした  
<https://entrepreneurship-education.mext.go.jp/teaching/>

討議事項①  
アントレ教育の木の絵の具現化

討議事項②  
各WGの進捗管理及びWGテーマの検討

項目	定義
アントレ教育の段階	①動機付け・意識醸成、②コンピテンシーの形成、③社会実践
ねらい	プログラムの目的
主な内容	プログラムの概要
実施単位・研究科の系統	プログラムの実施学部・研究科
対象	受講生並びに参加者の属性・活動の多寡に応じた整理
アントレプレナーシップ教育の指導経験	プログラム担当者のアントレプレナーシップ教育の指導経験
高めたい資質・能力	「アントレプレナーシップ教育を実施する上での教育ガイド」(準備中)を参照
分野・領域	プログラムで取り扱う分野・領域
活動形態	プログラムの活動形態(講義型、実践型、フィールド型、探求・実践型) ※複数選択の場合有り
教材資料(リソース)	実施にあたり必要なリソース(ティーチングアシスタント等)
時間	プログラムの総時間数

## モデルプログラム活用の流れ

- 1 担当科目の課題を踏まえて、アントレ教育導入の目的を整理する。
- 2 受講学生に高めてほしい「資質・能力」を決定する。さらに本事業で検討している「アントレプレナーシップ教育を実施する上での教育ガイド」(準備中)を参照して目標を具体化する。
- 3 ご自身のアントレ教育指導年数、対象学生層に応じて、参考としたいモデルプログラムを選択し、ご自身の授業デザインに合わせてアレンジ、組み合わせる。
- 4 授業教育の学び効果測定、カリキュラム設計の振り返りを目的に、効果測定アンケートを実施する。  
※効果測定を実施される場合は、以下「アントレ教育プログラムに関する効果測定」をご参照ください

# モデルプログラム（例）

✓ 全体統括委員会の坂田座長のご提供によりモデルプログラムを公式HPにて掲載をしている

## モデルプログラム①

東京大学「ディープテック起業家への招待」

担当: 坂田一郎（東京大学大学院工学研究科 教授）

“ビッグピクチャー”と、既存の先端技術を結びつけるアイデアに比重を置き、研究室や現場訪問を充実させたプログラムです

### ディープテック起業家への招待

アントレ教育の段階	<input type="checkbox"/> 動機付け・意識醸成段階 <input checked="" type="checkbox"/> コンテンツの形成段階 <input type="checkbox"/> 社会実践段階
ねらい	“ビッグピクチャー”と、既存の先端技術を結びつけるアイデアに比重を置き、研究室や現場訪問を充実させることを目的としている。
主な内容	前半は授業内にDT起業に関するインプットを行いながら、授業外で産業課題深掘りのためのFWを進める。後半は、学生がチームごとにピッチを行いながら、より実践に役立つ講義を行う。
実施学部・研究科の系統	<input type="checkbox"/> 人文科学系統（文学・人文・人間・心理分野の学部、教育・福祉分野の学部など） <input type="checkbox"/> 社会科学系統（経済・経営・商学分野の学部、法律・政治分野の学部、社会・メディア分野の学部など） <input checked="" type="checkbox"/> 自然科学系（理・工分野の学部、農・獣・畜産・水産分野の学部、医・歯・薬分野の学部、看護・保健・衛生分野の学部など） <input type="checkbox"/> 学部横断型（文系・理系の枠組みにとらわれず、総合的・分野横断的な学び） <input type="checkbox"/> その他（ ）
対象	<input checked="" type="checkbox"/> 活動家（既に事業を起こしている、もしくは具体的な活動を行っている学生） <input checked="" type="checkbox"/> 顕在層（新しい価値創造のために、アイデアの検討をしている、もしくは興味がある学生） <input checked="" type="checkbox"/> 潜在層（現状に対して漠然とした危機感を有し、なにかアクションを起こしたいと考えている学生） <input type="checkbox"/> 無関心層（具体的な活動は起こしておらず、自身のキャリアや社会課題に対してイメージが明確でない学生）
アントレプレナーシップ教育の指導経験	<input type="checkbox"/> 経験なし <input type="checkbox"/> 1年目 <input checked="" type="checkbox"/> 2～4年目 <input checked="" type="checkbox"/> 5～9年目 <input checked="" type="checkbox"/> 10年以上
高めた資質・能力	<input checked="" type="checkbox"/> 機会を見つける（問いを立てる） <input checked="" type="checkbox"/> 機会を見つける（情報探索） <input checked="" type="checkbox"/> 機会を見つける（発想） <input checked="" type="checkbox"/> 資源の動員（自分の資源の認識） <input checked="" type="checkbox"/> 資源の動員（今ある資源の活用） <input checked="" type="checkbox"/> 資源の動員（足りない資源の獲得） <input checked="" type="checkbox"/> 不確実性・あいまいさ・リスクへの対処（見極める） <input checked="" type="checkbox"/> 不確実性・あいまいさ・リスクへの対処（試してみる） <input checked="" type="checkbox"/> 不確実性・あいまいさ・リスクへの対処（意思決定） <input checked="" type="checkbox"/> 不確実性・あいまいさ・リスクへの対処（振り返り）
分野・領域	<input type="checkbox"/> 総合的 <input checked="" type="checkbox"/> AI <input checked="" type="checkbox"/> AIを除くディープテック <input type="checkbox"/> ヘルスクア <input type="checkbox"/> 食・材料 <input type="checkbox"/> 環境 <input type="checkbox"/> エネルギー <input type="checkbox"/> 経済 <input type="checkbox"/> 教育 <input type="checkbox"/> 社会課題 <input checked="" type="checkbox"/> ビジネスアイデア <input type="checkbox"/> その他（ ）
活動形態	<input checked="" type="checkbox"/> 講義型 <input checked="" type="checkbox"/> 活動型 <input type="checkbox"/> フィールド型 <input type="checkbox"/> 実習・実践
教育体制（リソース）	担当教員 4名 TA <input checked="" type="checkbox"/> 有（複数名） <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> その他（ ） オフィスアワー <input type="checkbox"/> 有（ 時間） <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> その他（懇親会あり） 外部講師等 <input checked="" type="checkbox"/> 有（ 参画企業複数名） <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> その他（ ）
時間	105分 × 13回

参考（本事業公式HP）：

<https://entrepreneurship-education.mext.go.jp/wp-content/themes/entrepreneurship/images/model-program-sakata.pdf>

### 討議事項①

アントレ教育の木の絵の具現化

### 討議事項②

各WGの進捗管理及びWGテーマの検討

## モデルプログラム②

東京大学「ディープテック起業実践演習」

担当: 坂田一郎（東京大学大学院工学研究科 教授）

選抜を経た多様な学生、本学第一線の教授陣、企業との密な関わりを通じ、学術の卓越性を基に将来地球規模の課題解決を行える人材輩出を目指すプログラムです

### ディープテック起業実践演習

アントレ教育の段階	<input type="checkbox"/> 動機付け・意識醸成段階 <input checked="" type="checkbox"/> コンテンツの形成段階 <input type="checkbox"/> 社会実践段階
ねらい	選抜を経た多様な学生、本学第一線の教授陣、企業との密な関わりを通じ、学術の卓越性を基に将来地球規模の課題解決を行える人材輩出を目指す。
主な内容	授業内容は、前半はディープテックスタートアップ（DTSU）に関連する座学講義に加えて、受講生同士でのチーム組成による、顧客仮説の検証・産業課題深掘りのためのフィールドワークを重視し、後半はピッチ発表とフィードバックを繰り返して、最終発表までに事業提案を洗練させます。
実施学部・研究科の系統	<input type="checkbox"/> 人文科学系統（文学・人文・人間・心理分野の学部、教育・福祉分野の学部など） <input type="checkbox"/> 社会科学系統（経済・経営・商学分野の学部、法律・政治分野の学部、社会・メディア分野の学部など） <input checked="" type="checkbox"/> 自然科学系（理・工分野の学部、農・獣・畜産・水産分野の学部、医・歯・薬分野の学部、看護・保健・衛生分野の学部など） <input type="checkbox"/> 学部横断型（文系・理系の枠組みにとらわれず、総合的・分野横断的な学び） <input type="checkbox"/> その他（ ）
対象	<input checked="" type="checkbox"/> 活動家（既に事業を起こしている、もしくは具体的な活動を行っている学生） <input checked="" type="checkbox"/> 顕在層（新しい価値創造のために、アイデアの検討をしている、もしくは興味がある学生） <input checked="" type="checkbox"/> 潜在層（現状に対して漠然とした危機感を有し、なにかアクションを起こしたいと考えている学生） <input type="checkbox"/> 無関心層（具体的な活動は起こしておらず、自身のキャリアや社会課題に対してイメージが明確でない学生）
アントレプレナーシップ教育の指導経験	<input type="checkbox"/> 経験なし <input type="checkbox"/> 1年目 <input checked="" type="checkbox"/> 2～4年目 <input checked="" type="checkbox"/> 5～9年目 <input checked="" type="checkbox"/> 10年以上
高めた資質・能力	<input checked="" type="checkbox"/> 機会を見つける（問いを立てる） <input checked="" type="checkbox"/> 機会を見つける（情報探索） <input checked="" type="checkbox"/> 機会を見つける（発想） <input checked="" type="checkbox"/> 資源の動員（自分の資源の認識） <input checked="" type="checkbox"/> 資源の動員（今ある資源の活用） <input checked="" type="checkbox"/> 資源の動員（足りない資源の獲得） <input checked="" type="checkbox"/> 不確実性・あいまいさ・リスクへの対処（見極める） <input checked="" type="checkbox"/> 不確実性・あいまいさ・リスクへの対処（試してみる） <input checked="" type="checkbox"/> 不確実性・あいまいさ・リスクへの対処（意思決定） <input checked="" type="checkbox"/> 不確実性・あいまいさ・リスクへの対処（振り返り）
分野・領域	<input type="checkbox"/> 総合的 <input checked="" type="checkbox"/> AI <input checked="" type="checkbox"/> AIを除くディープテック <input type="checkbox"/> ヘルスクア <input type="checkbox"/> 食・材料 <input type="checkbox"/> 環境 <input type="checkbox"/> エネルギー <input type="checkbox"/> 経済 <input type="checkbox"/> 教育 <input type="checkbox"/> 社会課題 <input checked="" type="checkbox"/> ビジネスアイデア <input type="checkbox"/> その他（ ）
活動形態	<input checked="" type="checkbox"/> 講義型 <input checked="" type="checkbox"/> 活動型 <input type="checkbox"/> フィールド型 <input checked="" type="checkbox"/> 実習・実践
教育体制（リソース）	担当教員 6名 TA <input checked="" type="checkbox"/> 有（3名） <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> その他（ ） オフィスアワー <input checked="" type="checkbox"/> 有（1時間） <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> その他（DICEコミュニティへの参加） 外部講師等 <input checked="" type="checkbox"/> 有（企業複数名） <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> その他（過去講義受講生複数名）
時間	105分×13回
備考	

参考（本事業公式HP）：

<https://entrepreneurship-education.mext.go.jp/wp-content/themes/entrepreneurship/images/model-program-sakata.1.pdf>

# 全体統括委員会での意見概要（アジェンダ②-1プラットフォーム具体化WG）

✓ アジェンダ②プラットフォーム具体化WGに関して、全体統括委員会にて協議を行った

討議事項①

アントレ教育の木の絵の具現化

討議事項②

各WGの進捗管理及びWGテーマの検討

## PF-WG に関する 2023年度議論

- 自立化の議論の難易度は高く、**民間の巻き込みやリーダーの存在がない**ことが目下の課題となっている
- 本事業の目的に立ち返ると、①**地方部の学生にアントレ教育の機会を提供すること**と、②**横のつながりを作る**ことであると理解しており、オンラインとオフラインの融合、最初は採用目的でも地域の企業に関心を持ってもらい入ってもらうことが重要であるとする
- ブリッジングチューターとして、コミュニティ維持に関わってくれている学生は理想的だが、ドロップしがちなので、**インセンティブの整理**をしていく必要があるとする
- 学生と民間が対等に連携できるように、**民間向けのプログラム**もはさむべきだと考える

## 2024年度議論

### 【民間企業等による運営モデルの検討】

- PFの自走化については、マネタイズを経験したことがある人にしかわからないところが多いと考えられ、いつまでも議論しているのではなく、**予測が難しい状況下でもとにかくやってみないと分からない部分もある**。仮のPF運営体制を決定し、残り期間で「いつからテストを行うか」という計画づくりが重要である
- 持続可能なプラットフォームであるとともに、**公共性とビジネス（マネタイズ）のバランス**が重要である
- 学生層ごとの性質により、**マネタイズ先を複数**考えた方が良い（都心か地方部か、キャリア教育に繋がるかスタートアップ創出に繋がるか、社会課題解決系かディープテック等の研究開発系か等により異なる）

### 【プラットフォームのあるべき姿の検討】

- トップ層（Tier1, 2）と一般層（Tier3, 4）の**2層構造**にして、**トップ層が全体のモチベーションを引き上げる形**が良いと考える。Tier1から4まで混ぜるとコミュニティの濃度が薄くなり、緩い方に甘んじてしまう可能性があるため、トップ層の人数を担保し、彼らの熱意をそがないようにすることが重要
- 学生コミュニティの設計段階から**グローバルを意識**した方がよく、海外の学生との交流、留学、海外の企業への就職や起業なども視野に入れたプラットフォームになると価値が高まると考える
- **OB・OG等先輩層との繋がり**も組み込めると良い（学生の内発的動機により関心事を軸にクラスターが生まれてくると良いと考える）
- 学生のモチベーションや能力に応じた**インセンティブ付与・充実化**させた方が良い（海外フィールドワーク・国内フィールドワーク・ツアー・学生発の企画ピッチイベント等）

# 実証パートナー企業の決定のプレスリリース

✓ 2025年3月17日に「実証パートナー企業の決定」のプレスリリースを公式HPにて公開した

討議事項①  
アントレ教育の木の絵の具現化

討議事項②  
各WGの進捗管理及びWGテーマの検討

## News

「全国アントレプレナーシップ醸成促進事業」における学生コミュニティの自立化に向けた実証パートナーの決定について

### 1. 取組概要

全国アントレプレナーシップ醸成促進事業（受託事業者：有限責任監査法人トーマツ）では、希望する全ての学生がアントレプレナーシップ教育を受講することができる環境の実現に向けて、情報の収集・発信や受講機会の提供が自立的・継続的に行われるプラットフォームの構築を目的の一つとしています。この目的の達成に向け、本事業内に「プラットフォーム具体化ワーキンググループ注1（以下「PFWG」という。）を設置し、民間企業等から資金や人材等のリソースを積極的に提供いただける仕組み等を検討しています。

### 2. 令和7年度の実証パートナー（2社）

#### 1 社目：株式会社リクルート

リクルートは、新しい価値の創造を通じ、社会からの期待に応え、一人ひとりが輝く豊かな世界の実現を目指しています。従業員を対象にした新規事業提案制度「Ring」の知見を活かした、高校生向けのアントレプレナーシップ教育プログラム「高校生Ring」を展開しており、今回の実証では、大学生向けの教育プログラム展開及び学生コミュニティの形成を検証します。

#### 2 社目：株式会社ワンキャリア

ワンキャリアは、「人の数だけ、キャリアをつくる。」をミッションに掲げ、IT×HR領域で複数のサービスを展開しています。今回の実証では、学生が自己理解を深め、納得感あるキャリア選択に繋げることを目的とした「CAREER BOOT CAMP」にて、アントレプレナーシップの醸成及び学生コミュニティの活性化を検証します。

公式HPにて実証パートナー企業2社のプレスリリースを行った

<https://entrepreneurship-education.mext.go.jp/event/entrepreneurship-partner25/>

# 全体統括委員会での意見概要（アジェンダ②-2全国プログラム及びFDプログラム）

- ✓ アジェンダ②全国プログラム及びFDプログラムに関して、全体統括委員会にて協議を行った

討議事項①

アントレ教育の木の絵の具現化

討議事項②

各WGの進捗管理及びWGテーマの検討

## 全国プログラム

### 2023年度議論

- 当日の会場は熱気がすごかった、走り切った、オフラインは総じて良かった
- 教職員を含め、本事業の**継続した周知**が必要
- 可能な限り**受講機会は広げるべき**だと考える
- こうしたイベントに初めて来た人はどれだけいたのか、**ターゲット**を明確にしていくことは重要
- **OB/OGを巻き込む**という動きはよいと思うし、メンターとして習ったことをすぐ教えるという機会があると尚良い

## FDプログラム

- 先生同士の**仲間づくり**ができたという観点では成果が上がったといえる  
学生にプレッシャーを与えた部分はあったかもしれないが、対面形式でやってよかったと考えている
- FDプログラムに参加する先生の属性によって抱える課題感は異なるが、いまの日本のアントレ教育の状況を踏まえると経験者と初心者が混ざった状態での研修にならざるを得ないので、**コミュニティの形成が重要**と考える
- **修士、博士向けのアントレ教育も重要**と考えている

### 2024年度議論

#### 【実施体制】

- 馬田先生にご協力を頂くと共に、**2023年度のFD受講者による全国プログラムの実施**は素晴らしい
- 学生にアントレ教育を受講してもらうためには、所属している学部の**勉強や研究に影響が出ないように**注意を払う必要があり、学校行事なども踏まえた調整やアントレ教育を受けることによる効果として**進学率の向上等**を示していけると学内での調整がしやすくなると思われる

#### 【内容】

- FDの先生が**最低限デリバリー**をする上で**おさえる必要があるコアの部分**と、**裁量でオリジナルを出せるモジュールの部分**は整理されると良いと考える

#### 【今後の方向性・取組】

- アントレ教育の専任教員が日本ではまだ少なく、**質の高いアントレ教育を実施できる教員を各地域で確保**していくために、アントレ教育のプロを増やしていきたいのか、周辺学問の先生を巻き込んでいくのかによって方向性は異なる
- 従来のプログラムのスタイル（教員主体の授業スタイル）では、教員の育成には大幅なコストが発生するので、**アントレ教育の教育の仕方そのものをイノベーションしていく必要がある**のではないかと考える

#### 【実施体制】

- 全国プログラムの講師を務めた教員、FDプログラムを受講した教員（またはそれと同等の経験を積んだ教員等）が、2025年度の講師のサポートを行う体制については良いと考える
- FDプログラムを実施していく際には教員の強み・特性を活かす側面と、コアな部分を標準化させて統率を取る必要がある側面の**バランスを見ていく必要がある**（教員間のお悩み相談ができる環境を作ってあげられると良いと考える）
- **FDのアラムナイ組織の形成**は重要であり、帰属意識を高めるために、期などの名前を付けてもよい

# 全国アントレプレナーシップ人材育成プログラムの開催

- ✓ 2025年2月1日-2日に全国アントレプレナーシップ人材育成プログラムを開催（学生185名、教職員30名、民間企業21名）

討議事項①  
アントレ教育の木の絵の具現化

討議事項②  
各WGの進捗管理及びWGテーマの検討



**文部科学省主催**  
**全国アントレプレナーシップ人材育成プログラム**

**学生プログラム**

**誰でも参加OK!**  
課題解決に必要なスキルと行動力を学び  
未来を切り拓くスキルを身に付けよう!

**2024年度 大学生 等対象**  
**学生プログラム受講生募集!**

開催場所 Tokyo Innovation Base

東京開催!! **2/1** 2025 sat **2/2** 2025 sun  
10:30 - 18:30 10:30 - 18:30

→ 応募はこちら

# 全国アントレプレナーシップ人材育成プログラムの開催報告

✓ 2025年2月1日-2日に全国アントレプレナーシップ人材育成プログラムを開催した

討議事項①  
アントレ教育の木の絵の具現化

討議事項②  
各WGの進捗管理及びWGテーマの検討

講師による講義



参加者の集合写真（全国各地から学生が参加）



学生のグループワーク



# FDプログラムの公開

✓ 2025年1月24日及び2月1日-2日にFDプログラムを開催した

討議事項①  
アントレ教育の木の絵の具現化

討議事項②  
各WGの進捗管理及びWGテーマの検討

## FDプログラム

# 文部科学省主催 全国アントレプレナーシップ人材育成プログラム

本プログラムは  
単なる講義を超えた「学び」と「交流」の場です  
新たな知識とスキルを身に付け、  
未来の教育を共に創り上げましょう!

事前講義  
(オンライン)

授業見学／事後講義  
(対面)

1/24<sup>2025</sup> fri  
17:00 - 18:30

2/1<sup>2025</sup> sat  
10:30 - 18:30

2/2<sup>2025</sup> sun  
10:30 - 18:30

**2024年度 教職員 対象**  
**FDプログラム受講生募集!**

開催場所 Tokyo Innovation Base

→ [応募はこちら](#)

# FDプログラムの開催報告

✓ 2025年2月1日-2日に全国アントレプレナーシップ人材育成プログラムを開催した

討議事項①  
アントレ教育の木の絵の具現化

討議事項②  
各WGの進捗管理及びWGテーマの検討

講師による講義（サブ会場）

FD参加者によるワークショップ（サブ会場）



FD参加者の見学及び  
学生からのインタビューを受けている様子（メイン会場※）



※FD参加者はメイン会場とサブ会場を行き来し、学生の活動の見学、教員間によるワークショップ等に参加した

# 2025年度の全体統括委員会の今後の検討論点

✓ 2025年度の達成目的（ゴール）を設定した上で、2025年度の有識者会議の今後の検討論点として下記のように設計している

## 持続的なアントレ 教育プラットフォームの展開 （2025年度－2026年度）

- アントレ教育ガイドとモデルプログラムの紐づけがされている
- 全国プログラムやFDプログラム等を活用し、各大学にて質の高いアントレ教育の提供する環境の整備が進み、教員間も悩みを相談し合えるコミュニティが形成されている
- アントレ教育を取り巻く環境の変化を踏まえながら事業全体の進捗状況の発信がなされている

項目	2025年度のゴール	今後委員会で検討していくべき事項
アントレ教育の木の絵の具現化	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 2027年度以降の国として実施すべきアントレプレナーシップ教育政策の方向性の検討</li> <li>■ アントレ教育の取り巻く環境の変化に伴う全体像（木の絵）の更新</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 5か年事業終了後、国として実施すべきアントレプレナーシップ教育政策の方向性について検討</li> <li>✓ アントレ教育の取り巻く環境の変化に伴う全体像の見直し及び更新について検討</li> </ul>
各WGの進捗管理及びWGテーマの検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 各WGの進捗状況の管理</li> <li>■ 時勢の変化に応じたWGテーマの検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 各WGの進捗状況の確認</li> <li>✓ 時勢及び各WGの進捗状況に応じたWGテーマについての検討</li> </ul>

# 【第1章】有識者委員会での取組・議論内容

## ■ 全体統括委員会（アントレプレナーシップ醸成促進に係る全体像の整理）

1.1 アントレプレナーシップ醸成における課題を踏まえた論点の整理

1.2 アントレプレナーシップ醸成促進に向けた取組内容

1.3 今後の検討項目

## ■ プラットフォーム具体化WG（アントレプレナーシップ人材の裾野拡大に向けたプラットフォーム形成に関する検討）

2.1 現状の課題・背景に基づく、検討論点と調査概要

2.2 民間企業等による運営モデルの検討

2.3 プラットフォームのあるべき姿の検討

2.4 今後の検討項目

## ■ 教育効果の測定指標具体化WG（アントレプレナーシップ教育における教育効果の測定指標の確立に関する検討）

3.1 現状の課題・背景に基づく、検討論点と調査概要

3.2 アントレ教育ガイドの検討・作成

3.3 アントレ教育ガイドの展開・活用促進の検討

3.4 今後の検討項目

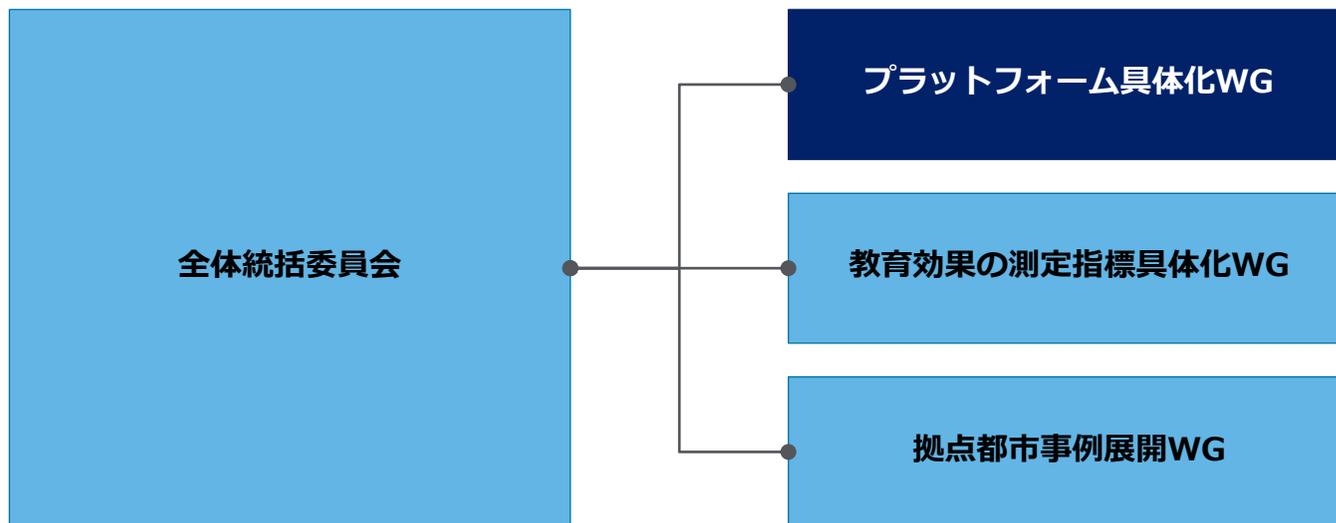
## ■ 拠点都市事例展開WG（アントレプレナーシップ教育に関する内容の事例やノウハウの共有に関する検討）

4.1 開催概要

4.2 実施結果

# プラットフォーム具体化WGの意義

- ✓ アントレプレナーシップの醸成に向け、プラットフォーム及びコミュニティの形成・持続的な運営が求められている

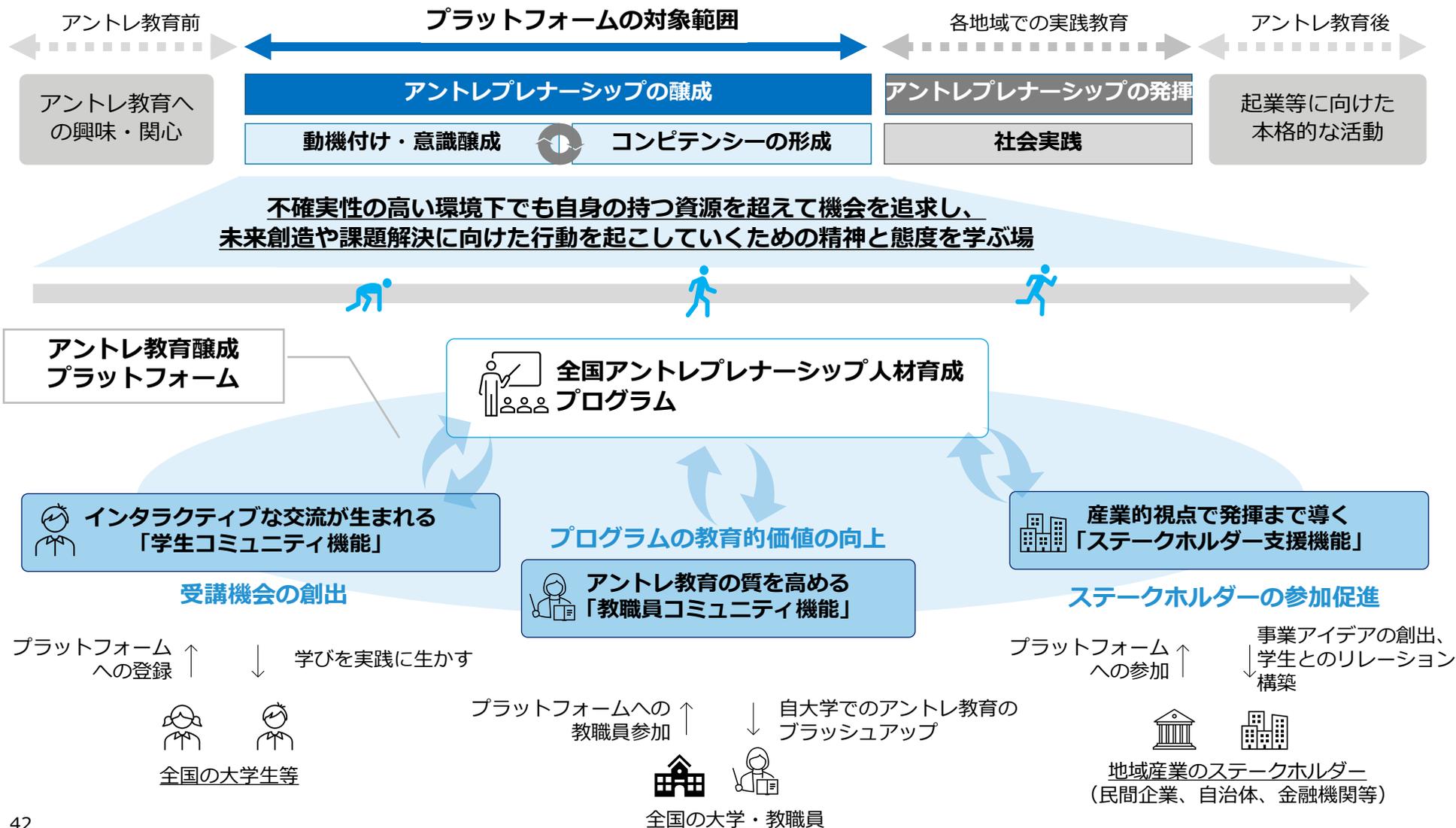


## プラットフォーム 具体化WG

- 全国プログラムと連携しつつ、アントレプレナーシップを知らない学生に対して認知・関心を高め、学ぶ環境がない初学者に対し機会を提供する方策を検討
- 全国プログラム受講後に各拠点都市等で実施されているアントレ教育プログラムへ継続的に受講できる機会を提供する方策を検討
- 受講者同士や提供者同士が情報交換や交流、共同してプロジェクトを実施できるようなコミュニティの企画立案
- 民間企業等が資金等のリソース提供を含めて積極的に関与したくなるような仕組みや企画を検討し、プラットフォームの自立的運営のための方策を検討

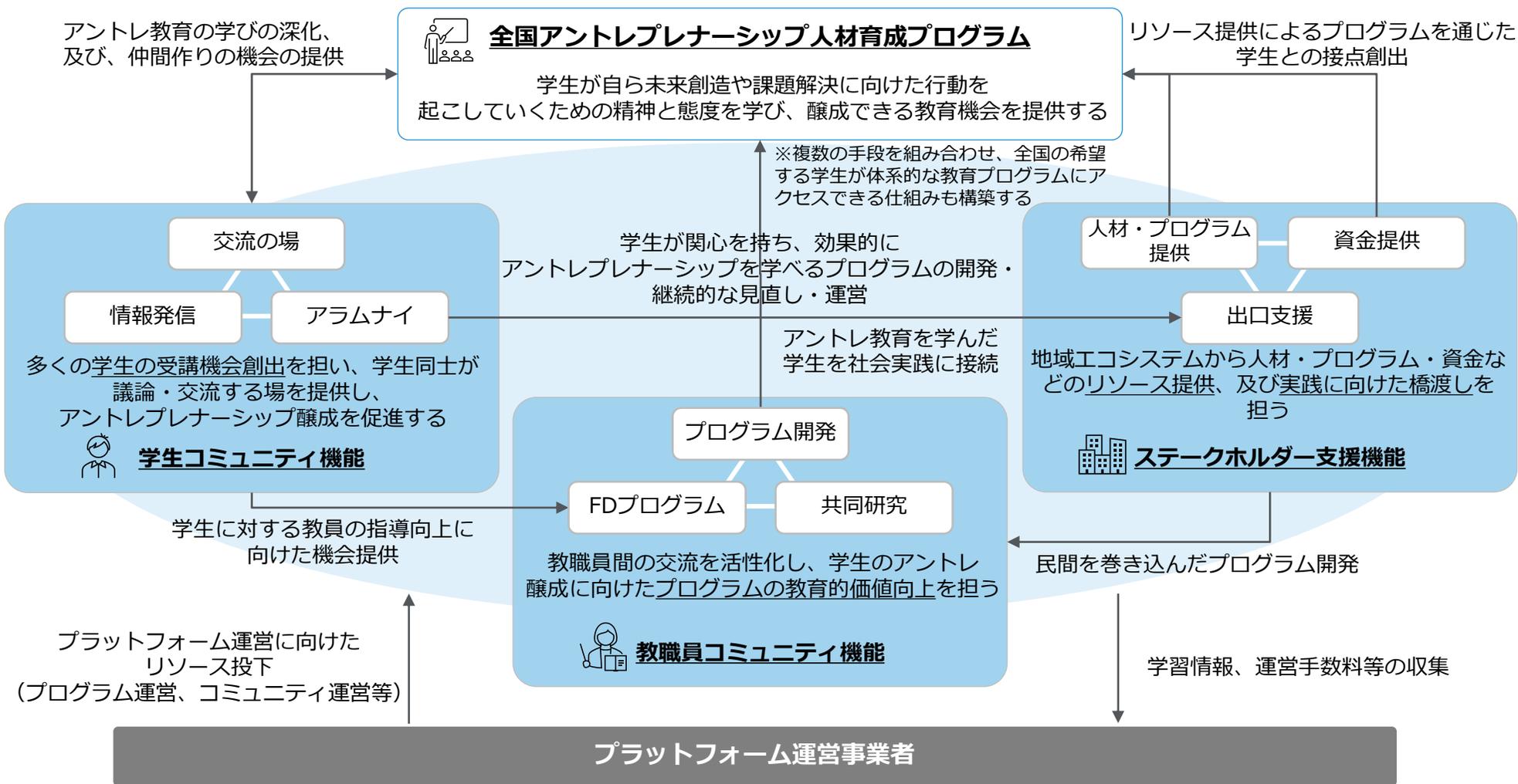
# アントレ教育醸成プラットフォームの実現イメージ（初期仮説）

- ✓ 学生のアントレプレナーシップを醸成促進に向け、未来創造や課題解決に向けた行動を起こすための精神と態度を学ぶアントレ教育醸成プラットフォームの創設が必要と考える



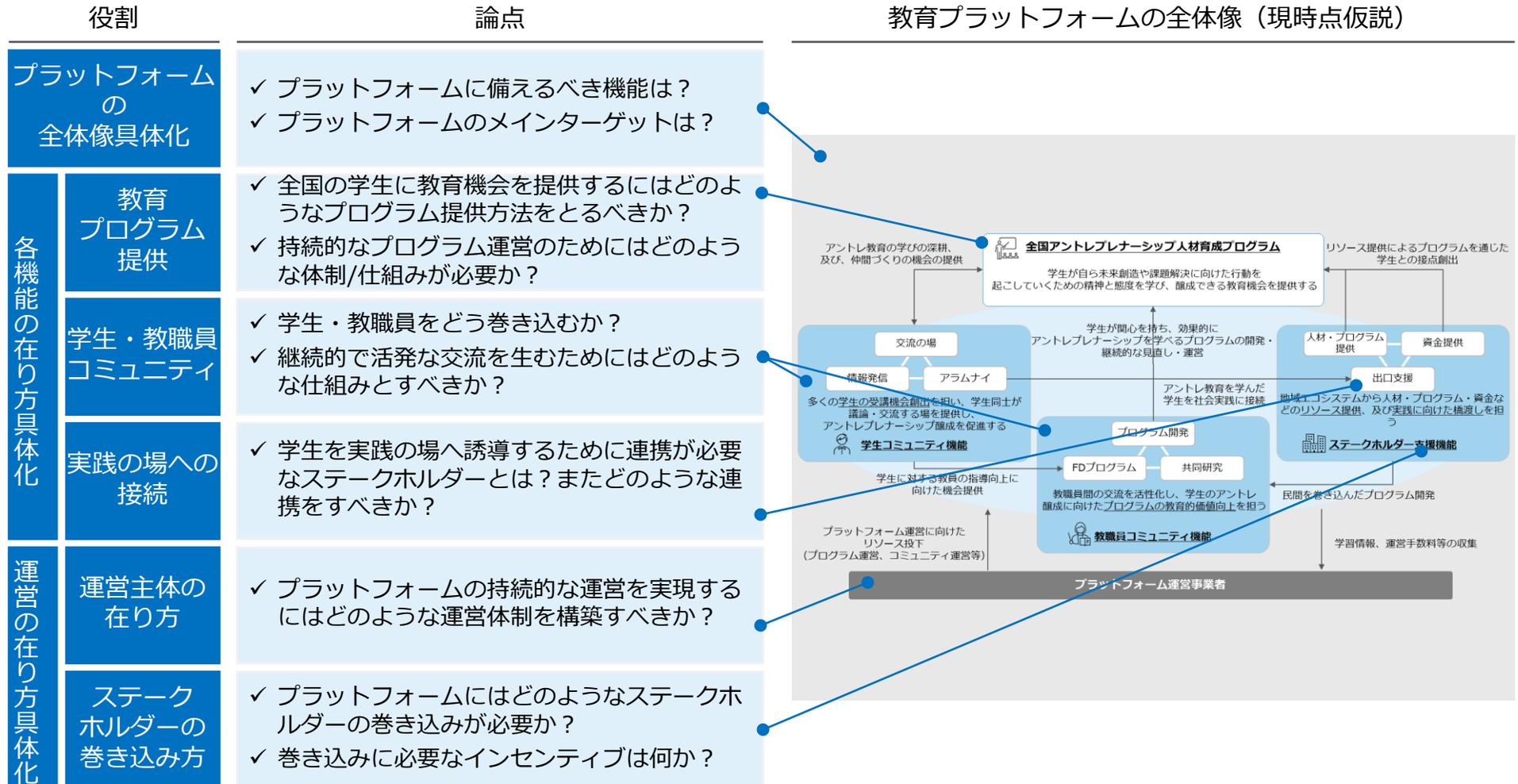
# アントレ教育醸成プラットフォームを構成する機能（初期仮説）

- ✓ アントレ教育プラットフォームでは、学生コミュニティ・教職員コミュニティ・ステークホルダー支援の各機能を有機的に関連させていく必要がある



# プラットフォーム具体化WGの役割

- ✓ プラットフォーム具体化WGは、プラットフォームの全体像及び各機能の在り方と、プラットフォームの運営モデルを具体化する役割を担う



# プラットフォーム具体化WGの開催概要

- ✓ 2024年度は2回開催し、民間企業等の運営モデルの検討、プラットフォームのあるべき姿について協議を行った

## 目的

- 全国プログラムと連携しつつ、アントレプレナーシップを知らない学生に対して認知・関心を高め、学ぶ環境がない初学者に対して機会を提供する方策を検討
- 全国プログラム受講後に各拠点都市等で実施されているアントレ教育プログラムへ継続的に受講できる機会を提供する方策を検討
- 受講者同士や提供者同士が情報交換や交流、共同してプロジェクトを実施できるようなコミュニティの企画立案
- 民間企業等が資金等のリソース提供を含めて積極的に関与したくなるような仕組みや企画を検討し、プラットフォームの自立的運営のための方策を検討

## 検討論点

- 民間企業等における学生コミュニティの運営モデルについて検討し、実証に向けた巻き込みを図る
- アントレプレナーシップ教育の醸成におけるプラットフォームのあるべき姿について検討を行う

## WG各回での議論内容

項目	2024年度のゴール	1回目 (9/17)	2回目 (2/17)
民間企業等による運営モデルの検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 民間企業等のアントレ教育の醸成段階のプラットフォームの自立的な運営方法等の検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 検証すべき運営モデルの検討及び選定</li> <li>✓ 上記を踏まえた候補となる企業の検討</li> <li>✓ 各運営モデルにおける検証のポイントの検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ アントレ教育の醸成段階のプラットフォームの運営の実証に関心を持つ民間企業の巻き込み、2025年度の実証実施に向けた実証計画案のブラッシュアップ</li> </ul>
プラットフォームのあるべき姿の検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ アントレ教育を取り巻く環境の変化に伴うあるべき姿、施策について検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ アントレ教育を取り巻く環境の変化に伴うプラットフォームのあるべき姿について検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ プラットフォームに学生を巻き込むための認知・関心醸成の方法について検討</li> <li>✓ 学生間の交流が促進される学生コミュニティのあるべき姿について検討</li> </ul>
実施方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 開催日・開催形式：           <ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;第1回目&gt; 2024年9月17日（火）14:00－16:00 対面（一部オンライン）、</li> <li>&lt;第2回目&gt; 2025年2月17日（月）11:00－13:00 オンライン</li> </ul> </li> <li>■ 有識者委員：【座長】辻本将晴、今林広樹、河野廉、鶴田宏樹、山口文洋（敬称略、座長以下氏名五十音順）</li> </ul>		

# ディスカッションテーマごとの議論内容及び得られた示唆

- ✓ ディスカッションテーマごとに、論点を設定し、委員会を通して協議することで2025年度に繋がる示唆を得ることができた

テーマ	論点	議論内容及び得られた示唆
<p><b>討議事項①</b> 民間企業等による 運営モデルの検討</p>	<p>■ 民間企業等のアントレ教育の醸成段階のプラットフォームの自立的な運営方法等の検討</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 学生コミュニティの自立化モデルの検証を行う上で、有識者並びに10数社の民間企業等へのヒアリングを経て、9つのモデルを整理した。各モデルを実証し得る民間企業にヒアリングを行い、最終的に4社にモデルを提出いただき、2社を実証パートナーとして選定した               <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ どの実証計画を実施するにしても、設計するコミュニティの価値設計が肝であり、事業者のコミットメント度（真剣度）、再現性の有無、ターゲットとターゲットの抱える課題の解像度の高さ等が重要である</li> </ul> </li> <li>✓ 2024年度既にニーズが一定顕在化している事業者とともに11月16日開催の山川先生の特別講演にてスモールな実証を行った               <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 事業者のユーザーのアントレ教育に対する親和性（関心等）、コミュニティ内活動量の変化、NPS（推奨度）等の検証を行った</li> </ul> </li> </ul>
<p><b>討議事項②</b> プラットフォーム のあるべき姿の 検討</p>	<p>■ アントレ教育を取り巻く環境の変化に伴うあるべき姿、施策について検討</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ アントレ教育の実施大学数は増えているが、アントレ教育の提供体制にはまだ依然として課題があり、大学等におけるアントレ教育の裾野拡大に向けた取組、民間企業等による自律的なプラットフォームの検討について継続して議論を行った</li> <li>✓ プラットフォームの必要な機能について、全国横断型の学生コミュニティや教材や教育系の事業者等をポータルサイト等に収集・掲載についても、議論が出た</li> <li>✓ 情報発信についても、メディアとの連携等について議論が挙がり、2025年度以降さらなる発信の強化を図っていく</li> </ul>

# 実証パートナー企業の決定のプレスリリース

- ✓ 2025年3月17日に「実証パートナー企業の決定」のプレスリリースを公式HPにて公開した

討議事項①  
民間企業等による運営モデルの検討

討議事項②  
プラットフォームのあるべき姿の検討

**News**

「全国アントレプレナーシップ醸成促進事業」における学生コミュニティの自立化に向けた実証パートナーの決定について

---

**1. 取組概要**

全国アントレプレナーシップ醸成促進事業（受託事業者：有限責任監査法人トーマツ）では、希望する全ての学生がアントレプレナーシップ教育を受講することができる環境の実現に向けて、情報の収集・発信や受講機会の提供が自立的・継続的に行われるプラットフォームの構築を目的の一つとしています。この目的の達成に向け、本事業内に「プラットフォーム具体化ワーキンググループ注1（以下「PFWG」という。）を設置し、民間企業等から資金や人材等のリソースを積極的に提供いただける仕組み等を検討しています。

**2. 令和7年度の実証パートナー（2社）**

1社目：株式会社リクルート

リクルートは、新しい価値の創造を通じ、社会からの期待に応え、一人ひとりが輝く豊かな世界の実現を目指しています。従業員を対象にした新規事業提案制度「Ring」の知見を活かした、高校生向けのアントレプレナーシップ教育プログラム「高校生Ring」を展開しており、今回の実証では、大学生向けの教育プログラム展開及び学生コミュニティの形成を検証します。

2社目：株式会社ワンキャリア

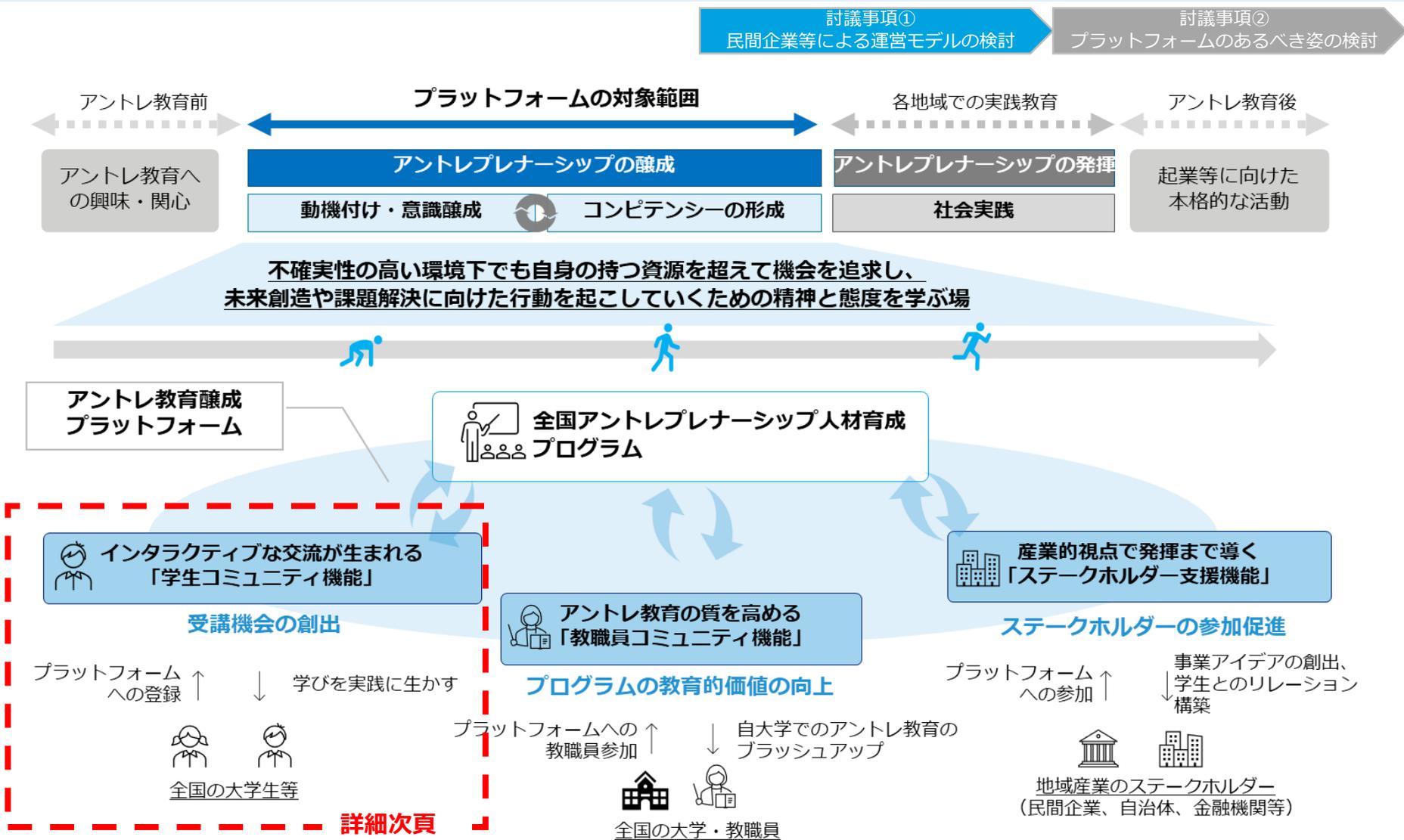
ワンキャリアは、「人の数だけ、キャリアをつくる。」をミッションに掲げ、IT×HR領域で複数のサービスを展開しています。今回の実証では、学生が自己理解を深め、納得感あるキャリア選択に繋げることを目的とした「CAREER BOOT CAMP」にて、アントレプレナーシップの醸成及び学生コミュニティの活性化を検証します。

公式HPにて実証パートナー企業2社のプレスリリースを行った

<https://entrepreneurship-education.mext.go.jp/event/entrepreneurship-partner25/>

# プラットフォームの当初仮説・これまでの検討

- ✓ 将来的な事業自立化に向け、民間企業等を巻き込んだ**運営モデルの実現を志向してきたが、2023度までの調査・検討では、醸成段階への民間企業等の巻き込みについては課題も見えてきた**



# 運営モデル検討における初期仮説

- ✓ アントレプレナーシップ醸成促進を継続的に提供・全国で推進していくために、運営モデルを検討し、実証方法や事業者の探索が必要であると考え

## 討議事項①

民間企業等による運営モデルの検討

## 討議事項②

プラットフォームのあるべき姿の検討

### 前提

- アントレ教育の醸成に資する学生に対する**受講機会の継続的な提供は今後も必要である**
- さらに、アントレ教育を学ぶための学生コミュニティは継続、拡大させ、全国のアントレ教育を受けたいと考える学生たちにアントレ教育を受講できる機会を提供したい

### 現状理解

- **活動的な学生層Tier1-2**に対するプログラムの提供等の支援は市場に受け入れられ、ビジネスとして確立している（学生起業支援、高度人材就職支援など）
- 一方で、**教育的要素の高い「醸成段階」における教育機会の提供は、ビジネスとしての採算性が取りづらく、完全民間主導の自立的な運営モデルでアントレ教育を提供している事業者はほとんどいない**（一部の教育系スタートアップによるスモールビジネスなどは一定存在する）

### 初期仮説

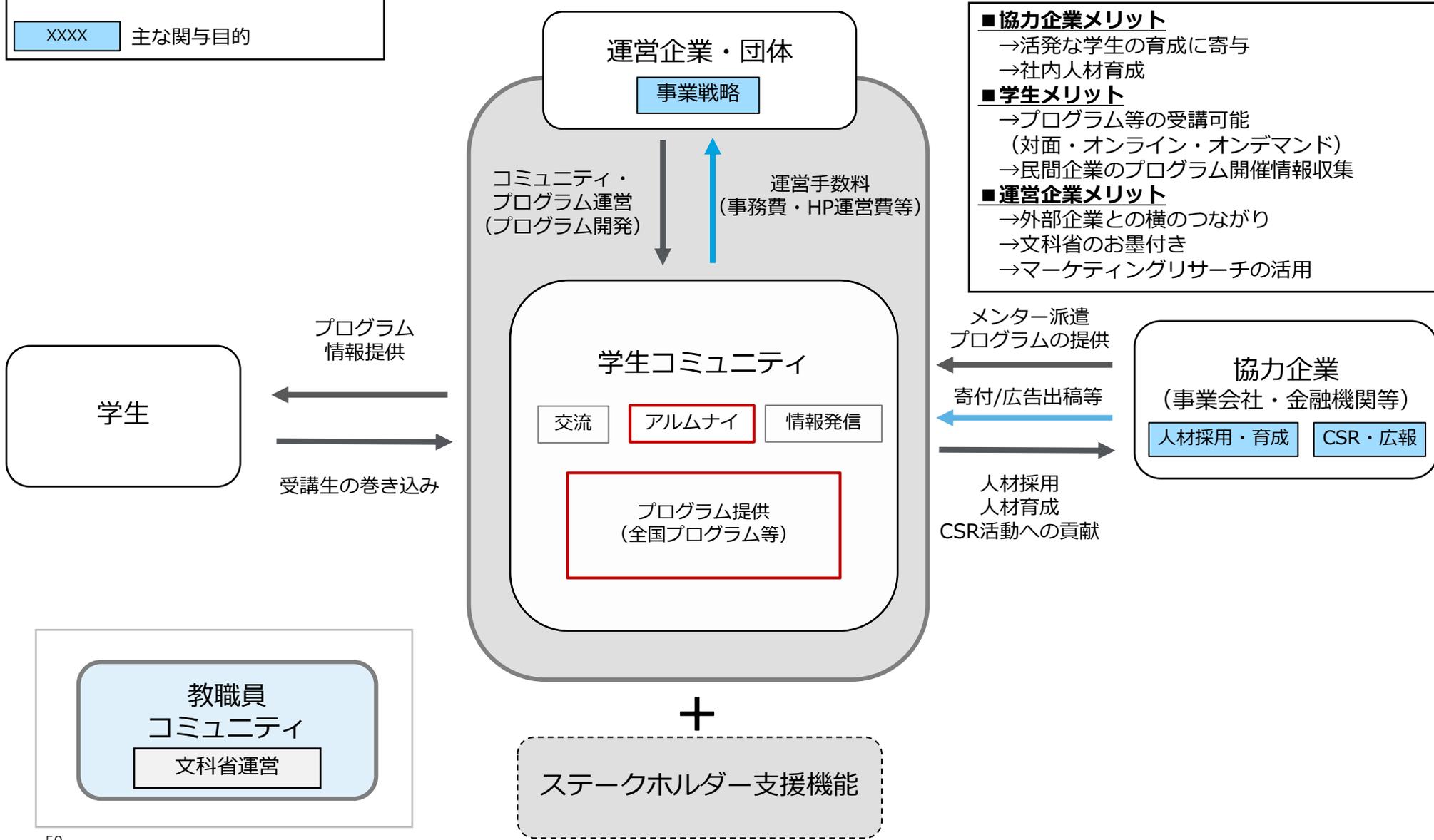
- 既にアントレプレナーシップが発露し、価値が社会に認められているTier1-2の学生に対しては、既存事業者がカバーしているが、**教育的観点の要素が強いTier3-4の学生に対する教育提供は行政による支援が現状必要である**
- Tier1-2の学生に対する教育提供だけでなく、教育的観点のTier3-4の学生に対して教育機会を提供してくれる事業者を探索し、その際の運営モデルの検討を行っていく必要がある
- 全国的なアントレ教育の醸成促進を将来的に民間主導で担っていくために、行政からの補助を与えながら**運営モデルの実証を行い、運営モデルの確立、事業者の巻き込みを図る必要がある**（半官半民の実証から民間主導のビジネスに転換を想定）

# 学生コミュニティへの企業・団体の関わり（文科省による初期仮説）

討議事項①  
民間企業等による運営モデルの検討

討議事項②  
プラットフォームのあるべき姿の検討

→ 資金の流れ  
→ その他ヒト/サービスの流れ  
XXXX 主な関与目的



- **協力企業メリット**
  - 活発な学生の育成に寄与
  - 社内人材育成
- **学生メリット**
  - プログラム等の受講可能 (対面・オンライン・オンデマンド)
  - 民間企業のプログラム開催情報収集
- **運営企業メリット**
  - 外部企業との横のつながり
  - 文科省のお墨付き
  - マーケティングリサーチの活用

# 学生コミュニティのターゲットイメージ

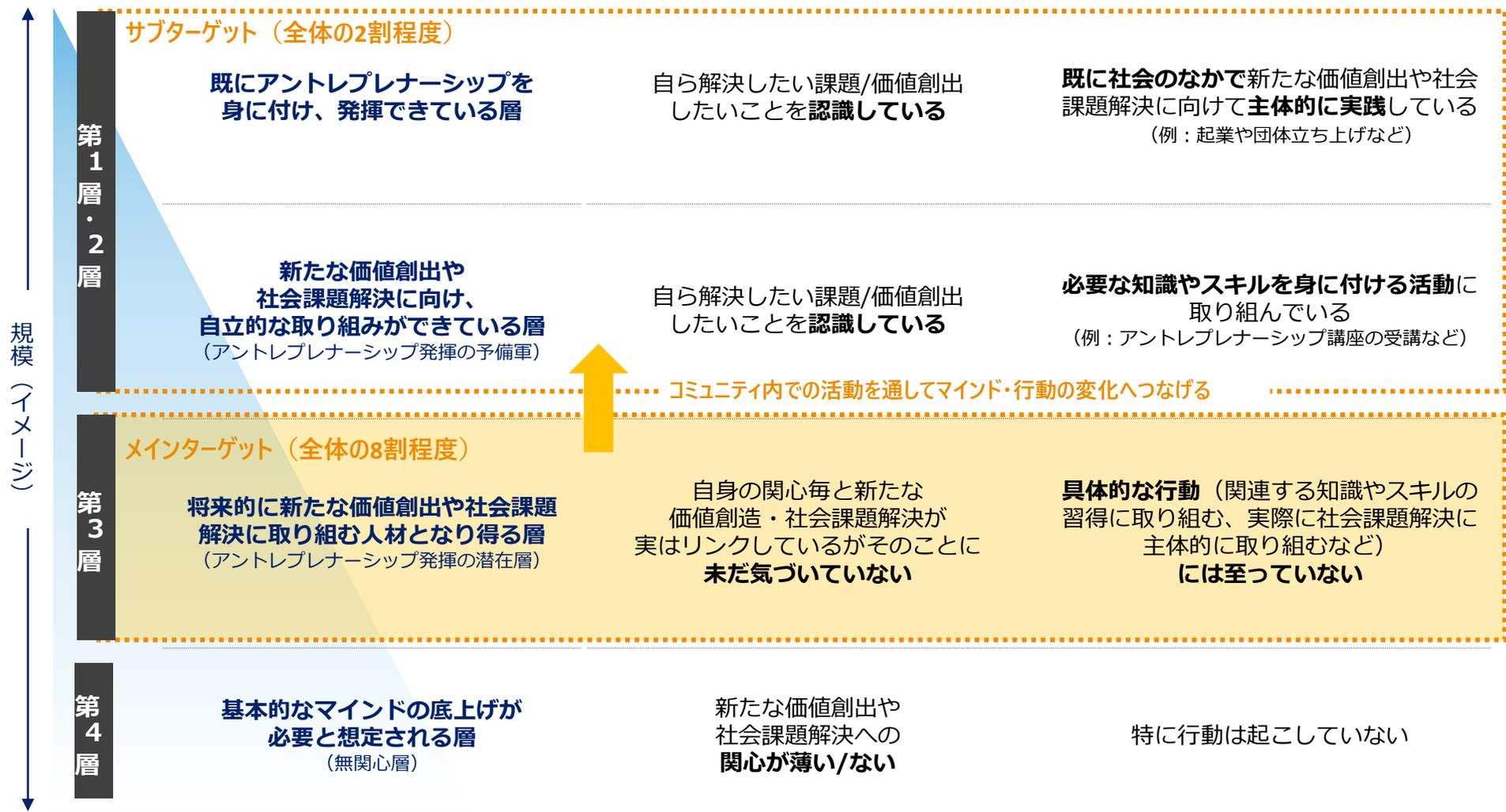
討議事項①  
民間企業等による運営モデルの検討

討議事項②  
プラットフォームのあるべき姿の検討

学生層

**マインド**  
(新たな価値創出や社会課題解決への認識・関心の有無)

**行動**  
(新たな価値創出や社会課題解決に向けた取り組みの有無/程度)



# コミュニティの存在価値と活動内容のイメージ

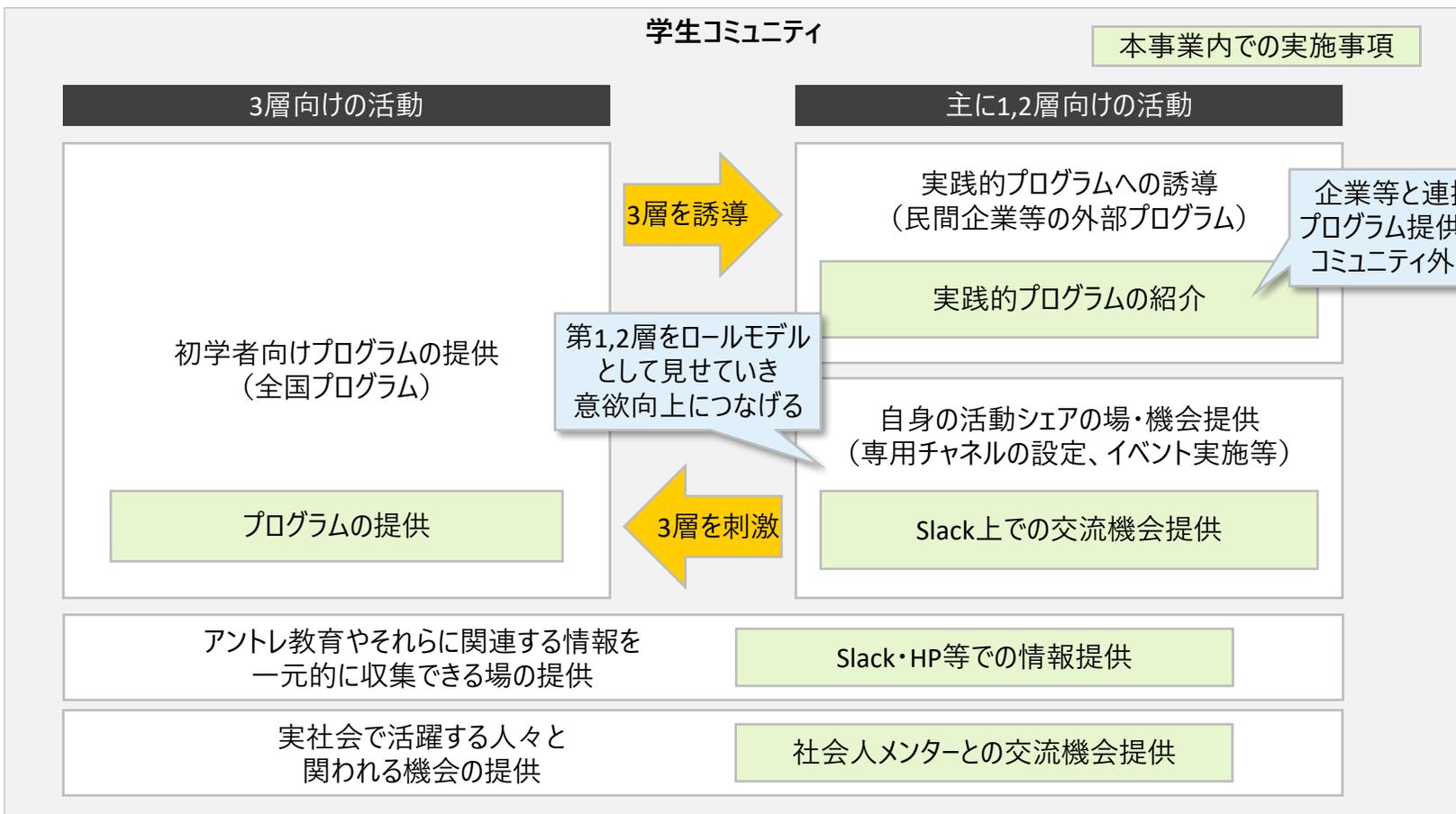
- ✓ 初学者向けプログラムを入口としつつ、より実践的なプログラムへの誘導、1,2層学生の活動からの刺激を通じて、3層学生のマインド醸成、行動を促し、次のステップへ送り出していくフロー型のコミュニティを志向

学生にとっての  
コミュニティの価値

アントレ教育やそれらに関連する情報、参加できるプログラムの情報等を一元的に入手できること

討議事項①  
民間企業等による運営モデルの検討

討議事項②  
プラットフォームのあるべき姿の検討



第3層の巻き込み → 1,2層への引き上げ → 実践的な場への送り出し

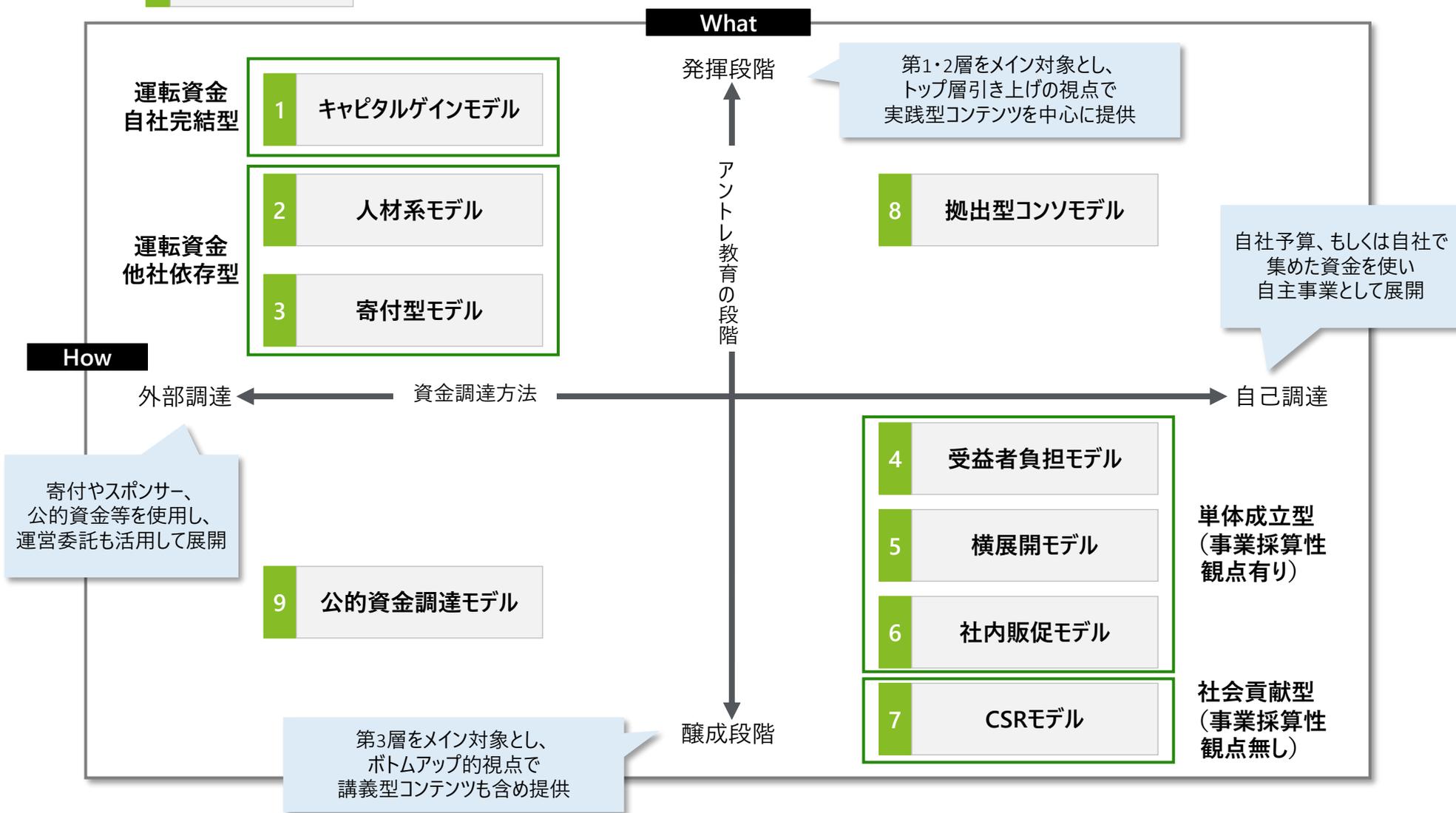
# 運営モデルのグルーピング

✓ アントレ醸成プラットフォームの運営モデルをグルーピングすると下記のように整理することができる

討議事項①  
民間企業等による運営モデルの検討

討議事項②  
プラットフォームのあるべき姿の検討

凡例： # モデルタイプ名（仮称）



# 運営モデルに対する各象限のタイプ整理

✓ 各象限の中でも運営資金の自己完結度や、事業としての採算性に差異があり、タイプごとに整理しながら吟味する必要がある

討議事項①  
民間企業等による運営モデルの検討
討議事項②  
プラットフォームのあるべき姿の検討

第2象限 3タイプの  
詳細分類



第4象限 4タイプの  
詳細分類



運営資金が自己完結であるか

Yes

No

自社完結型

他社依存型

1 キャピタルゲインモデル

2 人材系モデル

初動の出資金を元に半永続的に資金創出が可能

他社への継続的なセールス・継続交渉が必要

3 寄付型モデル

他社への年単位等での寄付継続交渉が必要

事業としての採算性があるか

Yes

No

単体成立型

社会貢献型

4 受益者負担モデル

7 CSRモデル

サービス提供者からの支払い (BtoC) によりマネタイズ

事業の社会的リターンによりCSR的な関わりを図る

社外展開

社内展開

5 横展開モデル

6 社内販促モデル

海外・他領域との連携によりマネタイズを図る

他事業とのシナジー効果によりマネタイズを図る

## 各モデル案の比較表

討議事項①  
民間企業等による運営モデルの検討

討議事項②  
プラットフォームのあるべき姿の検討

モデルタイプ			想定事業者	参画の目的	メインターゲットと 学生への提供価値	想定される 学生の出口	
発揮段階 × 外部調達	自社完結型	1	キャピタルゲインモデル	投資家・インキュベーター・アクセラレーター・大学等	投資家等の投資効果獲得	1,2層 アクセラプログラムやファンディング機会の提供により起業家育成支援を行う	起業
	他社依存型	2	人材系モデル	人材系事業者・大企業人事部門	採用機会の獲得	1,2層 大学・地域を超えた交流やプログラム実施によりキャリア開発支援を提供	就職・インターン・アルバイト等
		3	寄付型モデル	大学・大企業人事・新規事業開発部門	採用機会の獲得	3層 文科省公認の元、実践の機会やグローバル課題解決の機会を提供	就職・起業・留学等多岐に渡る
醸成段階 × 自己調達	単体成立型	4	受益者負担モデル	教育系事業者・大学	事業拡大・収益獲得	3層 受講料の対価として、社会課題解決の学びの機会、実践の機会を得る	就職・起業・NPO等多岐に渡る
		5	横展開モデル	アントレ教育発展途上の海外政府・類似教育展開事業者・大学等	アントレ教育展開・実践モデルの他領域へ展開	3層 アントレ教育を土台としながら、質を高めながら、広げることができる	就職・起業・NPO等多岐に渡る
		6	社内販促モデル	多領域に事業を展開する大企業	他事業への波及効果獲得	3層 大学・地域を超えた交流やプログラム実施により、学びや実践の機会を得る	就職・起業・NPO等多岐に渡る
	社会貢献型	7	CSRモデル	経営に余裕があり社会貢献意欲の高い企業	CSR・広報での経営貢献	3層 同上	同上
発揮段階 × 自己調達		8	拠出型コンソモデル	教育や社内人材育成に関心の高い大企業	社内人材の育成	1,2層 大学・地域を超えた交流や、社会人合同プログラムにより、実践の機会を得る	就職・起業・NPO等多岐に渡る
醸成段階 × 外部調達		9	公的資金調達モデル	運営事務系事業者・大学	自社収益の獲得	3層 文科省公認の元、起業・研究開発に関する学びや実践の機会を得る	GAPファンドへの接続等

# 評価軸の設定（6つの評価軸）

- ✓ 事業との親和性を前提条件として、事業性の観点では持続的な運営が可能か否かを、教育性の観点では学生にとっての価値やマーケット獲得の可能性を評価する

討議事項①  
民間企業等による運営モデルの検討

討議事項②  
プラットフォームのあるべき姿の検討

前提条件：事業親和性

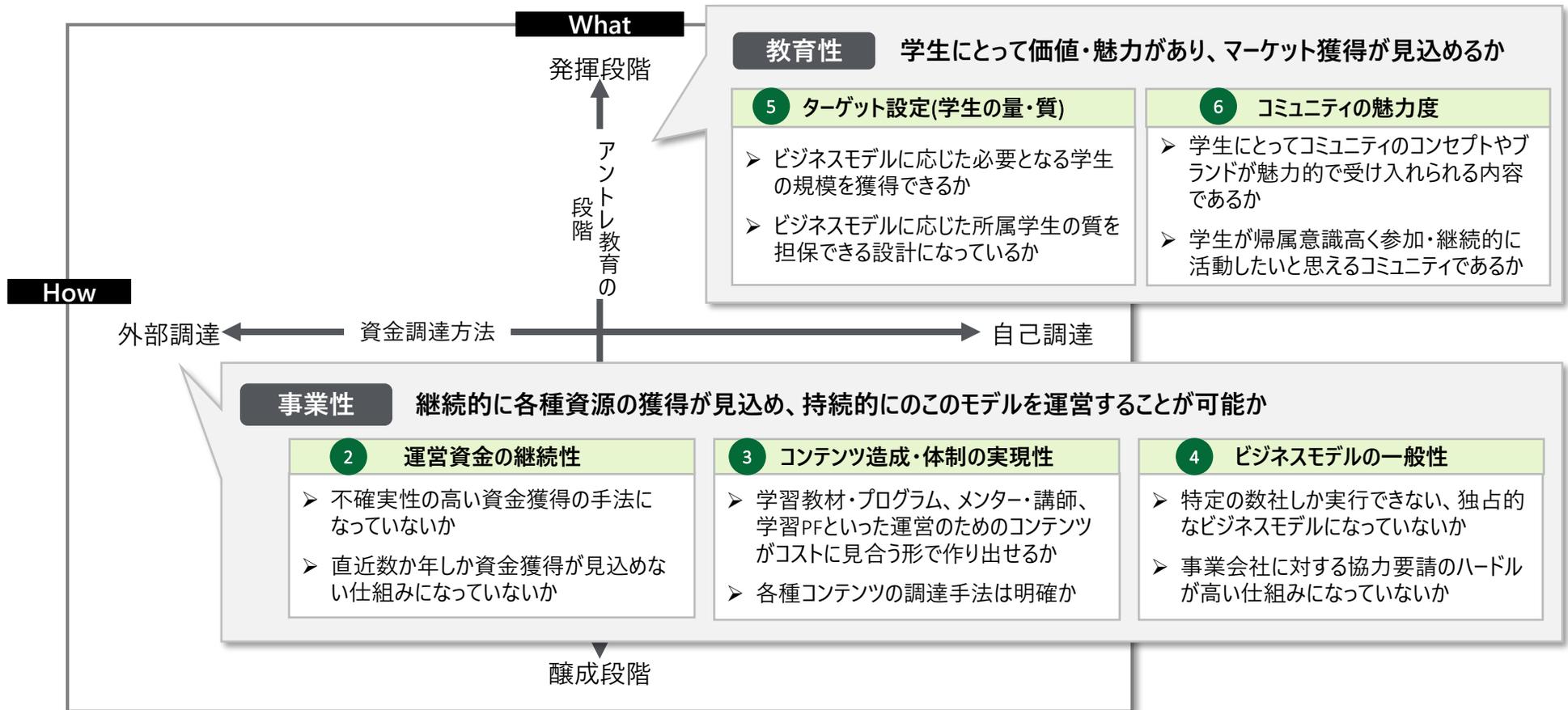
公教育としての側面を維持できるか

1 公共性の有無

➢ アントレ教育のすそ野を広げるとい事業のミッションを阻害するものでないか

# 評価項目
➢ 評価のポイント

凡例



# モデルタイプの評価比較

モデルタイプ		公共性 事業性 教育性			討議事項① 民間企業等による運営モデルの検討	討議事項② プラットフォームのあるべき姿の検討
					想定されるメリット・デメリット	総評
1	キャピタルゲインモデル				<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 実現性が高い一方、アントレ教育が「起業」という限定的な捉えられ方になる恐れがある</li> <li>➢ 既に多くの競合コミュニティが存在する</li> </ul>	既に民間により確立されているモデルのため、本事業での検証は不要ではないか
2	人材系モデル				<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 採用の観点で興味を持つ企業は一定数おり、<b>規模が出しやすく、コンテンツ整備がしやすい</b></li> <li>➢ 就活コミュニティ等の差別化が必要である</li> </ul>	公共性を担保するために運営主体を <b>複数の事業者によるコンソ形式にした検証等</b> の価値はあると考えられる
3	寄付型モデル				<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 文科省公認プログラムとして高い公共性を保つことができ、コミュニティの信頼度が高い</li> <li>➢ 継続的な寄付の獲得ハードルが高い</li> </ul>	既に前例があるモデルであり、持続性に乏しいことが明白なため、検証は不要ではないか
4	受益者負担モデル				<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 学生個人・学校等からの受講料収入を前提とした、事業性が高く、教育性も担保できる</li> <li>➢ <b>第3層への公共性の高い教育を提供可能</b></li> </ul>	公共性・事業性・教育性ともに評価できる点が多く、 <b>資金調達や集客の道筋を立てることが肝要</b> 、本事業での検証の価値が高い
5	横展開モデル				<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ アントレ類似領域や海外展開等、<b>アントレ教育を土台とした教育力の底上げに寄与</b>できPF自走化後の広がりとして検討余地あり</li> </ul>	今後の教育政策の展望を踏まえ、 <b>どの領域・地域での展開の可能性があるか</b> 等、調査・検討を行う価値はあるのではないかと
6	社内販促モデル				<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 大企業ならではの<b>スケール感を活かした教育</b>支援、ネームバリューを活かした集客が可能</li> <li>➢ 候補企業が限定的で、継続性がやや乏しい</li> </ul>	コミュニティの魅力度や集客における期待が高い一方、 <b>事業者の巻き込み・継続的な運営の在り方の検討</b> が必要、検証の価値が高い
7	CSRモデル				<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 候補企業が限定的で資金の継続性に乏しい</li> <li>➢ 公共性は一定担保できるものの、プレイヤー不足等の課題が散見され、未知数な点も多い</li> </ul>	特に資金の継続性においてポテンシャルが低く、本事業での検証は不要ではないか
8	拠出型コンソモデル				<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ コンソ運営のため公共性・持続性が高い</li> <li>➢ 人材育成への思いだけでなく、<b>コンソをリードし、基金運営までを担える企業が限定的</b></li> </ul>	公共性・事業性・教育性ともに評価でき、 <b>最も目指すべき運営モデルに近いが、事業者の巻き込みが肝要</b> 、検証の価値が高い
9	公的資金調達モデル				<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 文科省公認による信頼性、公的資金活用による継続性に優れ、公共性も十分にある</li> <li>➢ ターゲットに偏りが生じる可能性が高い</li> </ul>	採用モデルとしては一考の余地があるものの、公的資金の予算要求の不確実要素が高く、事業設計の論点が軸となり、検証は不要

# 【モデルタイプ①】キャピタルゲインモデル

- ✓ 実現性が高い一方、既に多数の競合が存在しており、選ばれるための工夫が必要
- ✓ 加えて、アントレ教育の捉えられ方が「起業」という限定的なものになってしまう恐れがある

討議事項①  
民間企業等による運営モデルの検討

討議事項②  
プラットフォームのあるべき姿の検討

モデルタイプ名称

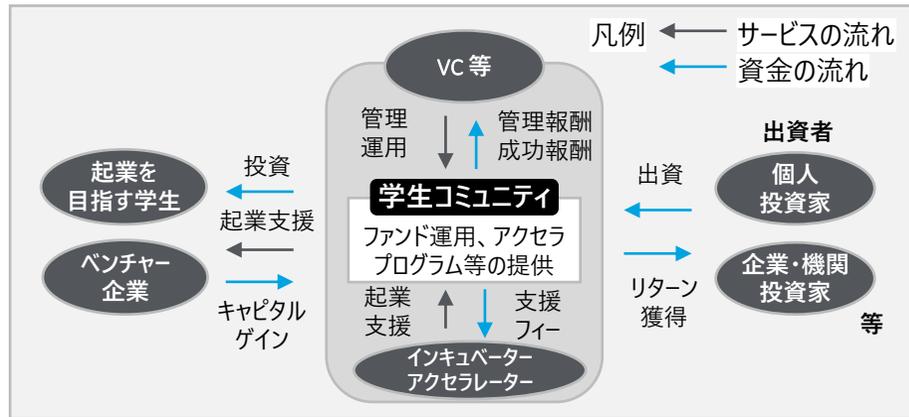
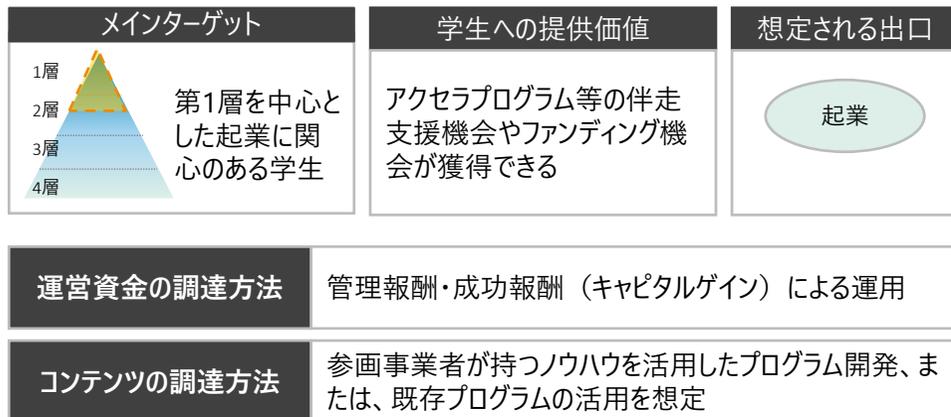
概要

## 1 キャピタルゲインモデル

VC等による学生コミュニティの管理運用を軸に、投資家等の出資を原資としたファンド運用や、アクセラプログラムの提供によって学生の起業支援を行う。キャピタルゲインの一部をコミュニティ運営に活用することで持続的な運営を目指す。

ターゲット学生と提供する価値

想定プレイヤーと運営のイメージ



### 事業親和性

### 事業性

### 教育性

- |   |   |   |  |  |  |
|---|---|---|--|--|--|
| <p>1 公共性の有無</p> <p>➢ アントレ教育の捉えられ方が、「起業」という狭義になってしまう可能性がある</p> | <p>2 運営資金の継続性</p> <p>➢ 既に前例があり、キャピタルゲインの一部活用により安定的なコミュニティ運営資金の獲得が見込める</p> | <p>3 コンテンツ造成・体制の実現性</p> <p>➢ アクセラプログラム等を提供するプレイヤーは多数存在し、実現性が高いと考えられる（醸成段階のコンテンツや体制の整備は難しいか）</p> | <p>4 ビジネスモデルの一般性</p> <p>➢ 既に前例がある一般的なモデルであり、特定の事業者が独占的に利益を得ることは考えづらい</p> | <p>5 ターゲット設定</p> <p>➢ 目的意識の高い優秀な学生が集まることが期待される（起業無関心層は敬遠する可能性が高い）</p> <p>➢ 数としては限定的になることが想定される</p> | <p>6 コミュニティの魅力度</p> <p>➢ 「起業」を目指す学生同士が仲間として意欲をもって活動することが期待される</p> <p>➢ 競合となるコミュニティが多数あり、選ばれるための工夫が肝要</p> |
|---|---|---|--|--|--|

# 【モデルタイプ②】人材系モデル

- ✓ 採用の観点で、企業は学生と早期から接点を持ち、リレーションを構築することが出来る
- ✓ しかし、就活コミュニティとステークホルダーが同じであるため、コンセプトの工夫が必要

討議事項①  
民間企業等による運営モデルの検討

討議事項②  
プラットフォームのあるべき姿の検討

モデルタイプ名称 概要

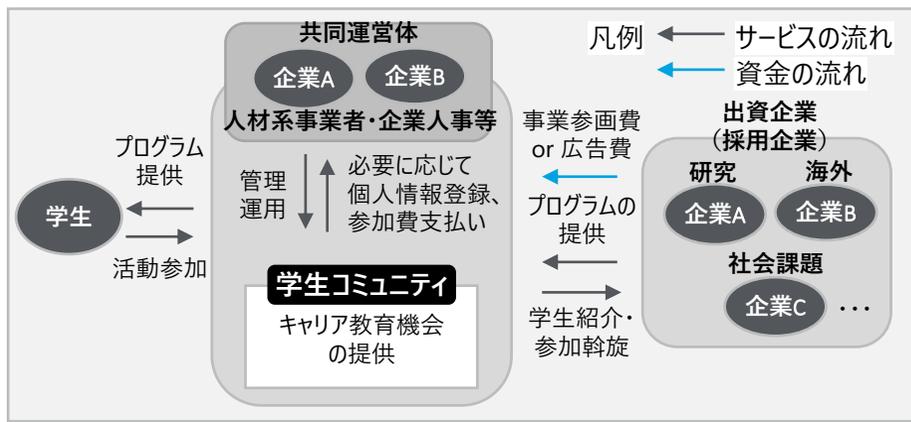
**2 人材系モデル**  
複数の民間企業人事・人材系事業者による共同管理運用を軸に、学生にキャリア教育を提供し、成長した学生を民間企業の採用枠・インターンシップ・アルバイト等に紹介する。学生・民間企業と関係性を構築しながら、紹介によって得た資金でコミュニティ運営を行う。

ターゲット学生と提供する価値 想定プレイヤーと運営のイメージ

メインターゲット	学生への提供価値	想定される出口
<p>1層 2層 3層 4層</p> <p>第1層を中心とした起業に関心のある学生</p>	<p>大学・地域を超えた交流プログラム実施によるキャリア開発支援</p>	<p>就職</p> <p>インターン</p> <p>アルバイト</p>

**運営資金の調達方法** 出資企業の事業参画費による運用

**コンテンツの調達方法** 参画事業者が持つノウハウを活用したプログラム開発、または、既存プログラムの活用を想定



事業親和性 事業性 教育性

**1 公共性の有無**  
 ➢ 個社で実施すると偏りのあるキャリア教育、人材開発に見受けられ、アントレ教育のイメージが損なわれる可能性がある

**2 運営資金の継続性**  
 ➢ 「採用マーケティング」という言葉が普及している現在、優秀な学生との早期接触にメリットを感じる民間企業は多いと想定される

**3 コンテンツ造成・体制の実現性**  
 ➢ 人事・人材系事業者の指揮により育成効果の高いコンテンツの整備が可能  
 ➢ 各企業の専門分野に応じたプログラムを集めることが可能

**4 ビジネスモデルの一般性**  
 ➢ 複数の人材系が集まった共同管理運用となるため、特定の事業者が独占的に利益を得ることは考えづらい

**5 ターゲット設定**  
 ➢ 将来の取組に対する意識の高い優秀な学生が集まることが期待される  
 ➢ 早期からキャリアに敏感な学生が増えており、規模も確保可能

**6 コミュニティの魅力度**  
 ➢ スキル育成で終わらず実践的な場への連携もある点で継続的な参加が期待される  
 ➢ 就活コミュニティと差別化出来るようコンセプトの工夫が必要

# 【モデルタイプ③】 寄付型モデル

- ✓ 文科省公認プログラムとして銘打つことにより高い公共性を生み出せるものの、コミュニティ価値の打ち出し方や、コンテンツの整備においてハードルが高いことが想定される

討議事項①  
民間企業等による運営モデルの検討

討議事項②  
プラットフォームのあるべき姿の検討

モデルタイプ名称

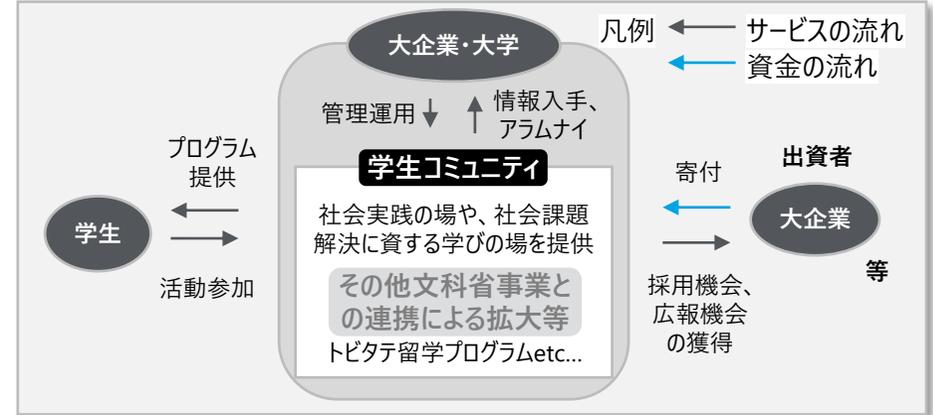
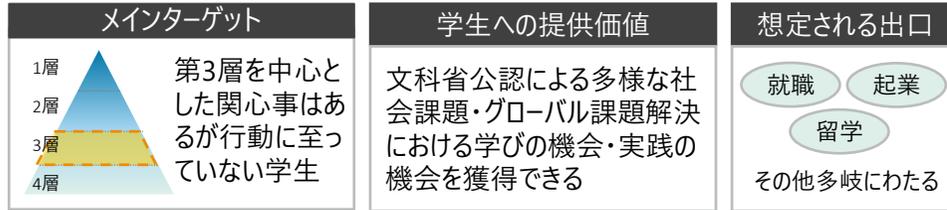
概要

## 3 寄付型モデル

文科省（委託先）による学生コミュニティの管理運用を軸に、その他の文科省事業を含む様々な分野の実践的な学びの提供を学生に向けて行う。採用・広報の機会を獲得したいと考える企業等からの寄付により資金獲得を目指す。

ターゲット学生と提供する価値

想定プレイヤーと運営のイメージ



運営資金の調達方法	支援企業・団体からの寄付による運用
コンテンツの調達方法	既存の文科省事業コンテンツにおいては流用を想定、その他領域については新規開発が必要

事業親和性		事業性		教育性	
1 公共性の有無	2 運営資金の継続性	3 コンテンツ造成・体制の実現性	4 ビジネスモデルの一般性	5 ターゲット設定	6 コミュニティの魅力度
<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 文科省公認、かつ、起業等特定の出口に限定しない形で学びを提供することができ、アントレ教育すそ野拡大に貢献できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 既存の文科省事業の支援企業等、一定の当たり先は想定されるものの、継続的に協賛を獲得し続けるハードルは高いと想定される</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 既存の文科省事業にない分野のプログラムについては、文科省監修の元、ゼロベースで開発する必要がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 既に前例がある一般的なモデルである</li> <li>➢ 委託先についても多岐に渡って想定され、独占状態にはなりにくい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 幅広い学生が集まり玉石混合の状態になる可能性がある</li> <li>➢ 公認プログラムのため敷居が高く感じる学生も一定いると想定される</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 広いテーマの学びを提供でき、価値設計の自由度が高い</li> <li>➢ 公認プログラムとしての信頼度により、参加後の帰属意識は高まりやすいと想定</li> </ul>

# 【モデルタイプ④】受益者負担モデル

- ✓ 教育的意義の強いコミュニティとなるため、アントレ教育の意義を丁寧に学生に普及出来る
- ✓ しかし、資金調達コンテンツの品質や学生・教育機関とのリレーションに大きく影響される

討議事項①  
民間企業等による運営モデルの検討

討議事項②  
プラットフォームのあるべき姿の検討

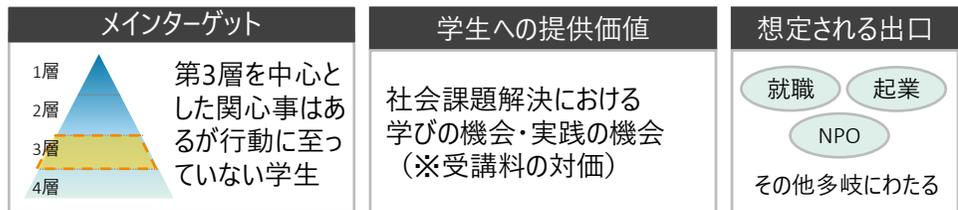
モデルタイプ名称

概要

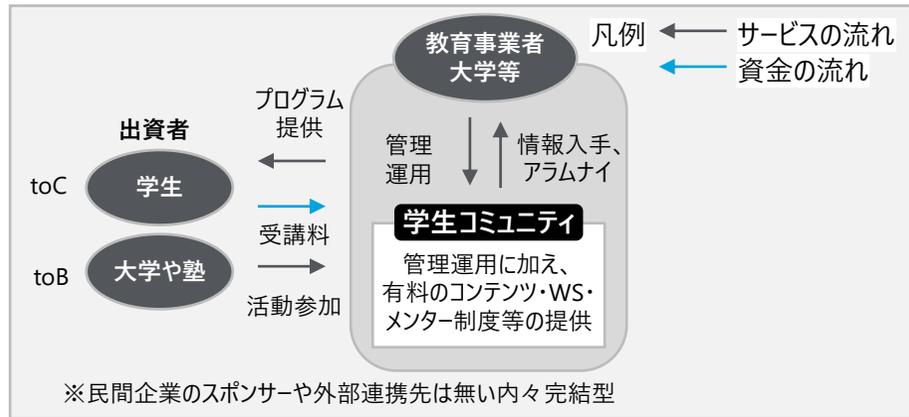
## 4 受益者負担モデル

教育事業者や大学の管理運用を軸に、品質の高い教育コンテンツ・WS・メンター制度等を有料化し、受講する学生・もしくは受講者を団体で抱える大学や塾などの教育機関に提供する。そこで得た受講料等でコミュニティ運営を行う。

ターゲット学生と提供する価値



想定プレイヤーと運営のイメージ



### 運営資金の調達方法

学生もしくは学校等からのコミュニティ参加費、教育コンテンツの受講料

### コンテンツの調達方法

参画事業者が持つ既存プログラム（場合によっては新規作成）・受講者専用アプリの活用を想定

## 事業親和性

## 事業性

## 教育性

- |   |   |  |  |   |  |
|---|---|--|--|---|--|
| <p><b>1 公共性の有無</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ toC 及び toB:「教育」を軸とすることで、ポトムアップの姿勢で、アントレプレナーシップの精神を丁寧に伝えることが出来る</li> </ul> | <p><b>2 運営資金の継続性</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ toC:受講者確保のため継続的な営業が必要/スモールビジネスになる可能性がある</li> <li>➢ toB:契約まで進むことが出来ればまとまった資金調達が可能</li> </ul> | <p><b>3 コンテンツ造成・体制の実現性</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 教育に対する熱意・経験値・知見により、コンテンツの質の高さが担保出来る</li> <li>➢ 既存プログラムのストックがあるため参入コストが少ない</li> </ul> | <p><b>4 ビジネスモデルの一般性</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 既に前例がある一般的なモデルであり、特定の事業者が独占的に利益を得ることは考えづらい</li> </ul> | <p><b>5 ターゲット設定</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ toC:有料コンテンツにおける高い教育効果を求める学生・家庭に絞られる</li> <li>➢ toB:学生数は確保出来るが、ターゲットの選別が困難</li> </ul> | <p><b>6 コミュニティの魅力度</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ toC 及び toB:1人1人が濃度の高い教育を受けることが可能</li> <li>➢ また、学生に並走する丁寧なサポート体制により、継続性が見込める</li> </ul> |
|---|---|--|--|---|--|

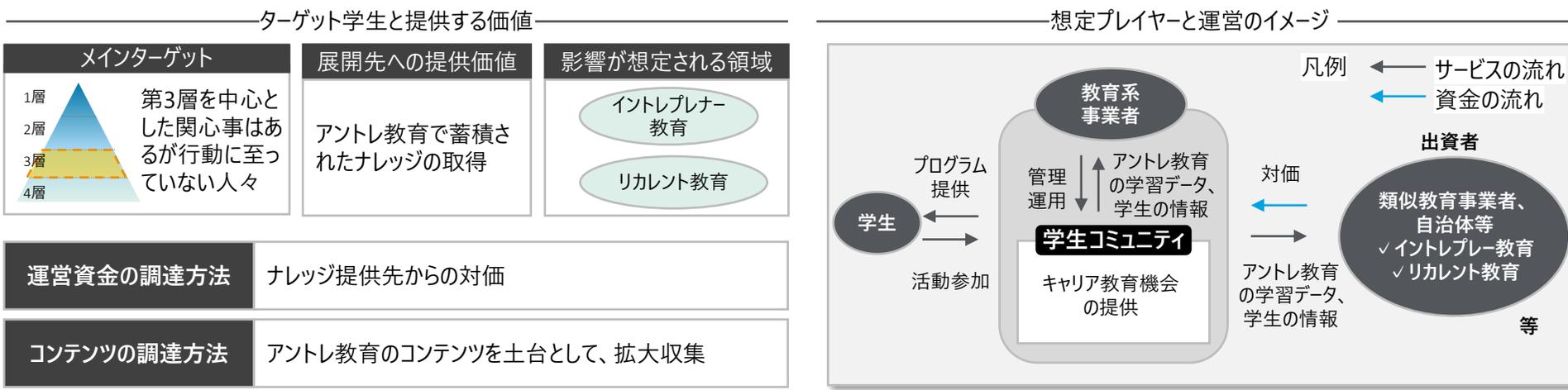
# 【モデルタイプ⑤】横展開モデル

- ✓ アントレ教育の醸成を促進しながら、類似教育領域とのリレーション構築が可能
- ✓ アントレ教育のナレッジ・学生情報等に需要がある類似教育事業者の調査が必要である

討議事項①  
民間企業等による運営モデルの検討

討議事項②  
プラットフォームのあるべき姿の検討

モデルタイプ名称	概要
<b>5 横展開モデル</b>	本事業で蓄積したアントレ教育のナレッジ・学生情報等を、類似教育事業者（イントレプレナー教育事業者・リカレント教育事業者等）に提供し、その対価でコミュニティ運営を行う。間接的に、類似教育領域の成長にも促すことができる。



事業親和性		事業性		教育性	
<b>1 公共性の有無</b>	▶ アントレ教育を土台として、他領域の教育や対象を広げることが出来る	<b>2 運営資金の継続性</b>	▶ 連携する類似教育事業者の需要がどのくらいあるかによるため、リサーチが必要	<b>3 コンテンツ造成・体制の実現性</b>	▶ アントレ教育のコンテンツを土台として拡大していくことが可能
		<b>4 ビジネスモデルの一般性</b>	▶ 教育産業における事業領域のピポット・拡大はよく見られるため、特定の事業者が独占的に利益を得ることは考えづらい	<b>5 ターゲット設定</b>	▶ アントレ教育のターゲット選定を参照・土台としながら、質を高めつつ、拡大させることが可能
		<b>6 コミュニティの魅力度</b>	▶ 参加者の帰属意識は保持できるものの、総花的なコミュニティとなり、ブランド性を高めることが難しい		

# 【モデルタイプ⑥】社内販促モデル

- ✓ 第3層に対して多様なコンテンツ・汎用的なスキル獲得の機会を提供できる一方で、本モデルの担い手は多領域に事業を展開する大企業に限られることが予想される

討議事項①  
民間企業等による運営モデルの検討

討議事項②  
プラットフォームのあるべき姿の検討

モデルタイプ名称

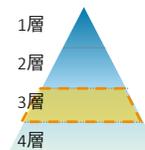
概要

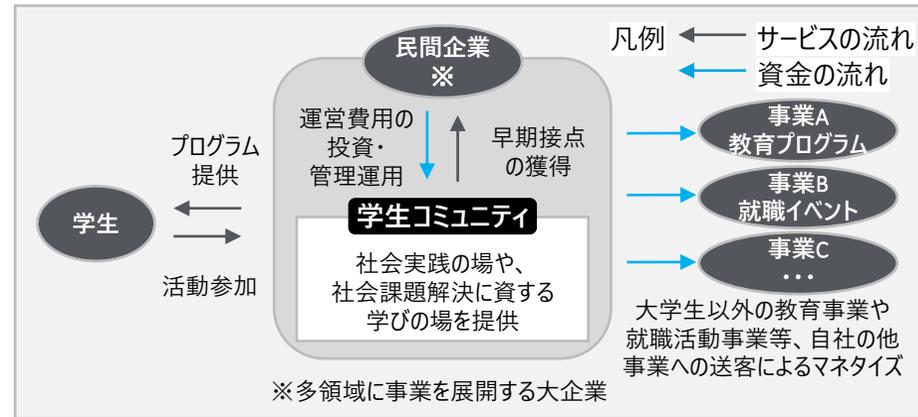
## 6 社内販促モデル

自社の他事業との接続を念頭に、LTV的観点を持ち、全社的な利益を想定した運営を行う。  
また、全社の様々な事業のノウハウを生かしたプログラム提供により、起業や就職等、学生の多様な将来を支援する。

ターゲット学生と提供する価値

想定プレイヤーと運営のイメージ

メインターゲット	学生への提供価値	想定される出口
 <p>第3層を中心とした関心事はあるが行動に至っていない学生</p>	<p>大企業の多領域にわたるプログラムを活用し、汎用的なスキル獲得、大学・地域を越えた交流機会を獲得できる</p>	<p>就職 起業</p> <p>NPO</p> <p>その他多岐にわたる</p>



運営資金の調達方法	運営企業の事業費投資による運用
コンテンツの調達方法	大企業ならではの幅広い領域の事業ノウハウを活かしたプログラム開発・活用

事業親和性		事業性		教育性	
1 公共性の有無	2 運営資金の継続性	3 コンテンツ造成・体制の実現性	4 ビジネスモデルの一般性	5 ターゲット設定	6 コミュニティの魅力度
<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 事業会社としての独自性を重視する場合、公共性が失われる可能性がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 他事業への送客に依存し、事業の存続によっては中断のリスクが存在している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 自社の多様な既存コンテンツ（学生教育事業や就職支援事業）を活用可能</li> <li>➢ 大企業ならではのスケールの大きな実践的学びを提供可能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 事業を幅広に持っている大企業に限定</li> <li>➢ 一般化できないため候補が少ない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 第3層学生を中心とした多様な関心を持つ学生が見込まれる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 大企業のネームバリューのもと、ブランド力と多様なコンテンツ提供で学生巻き込みがしやすい</li> </ul>

# 【モデルタイプ⑦】CSRモデル

- ✓ 日本国内において、本モデルの運営を担える企業はごく少数に限られることが予想される
- ✓ 運営資金面で持続性に乏しく、コンテンツ・魅力づくりの面においても未知数の部分が多い

討議事項①  
民間企業等による運営モデルの検討

討議事項②  
プラットフォームのあるべき姿の検討

モデルタイプ名称

概要

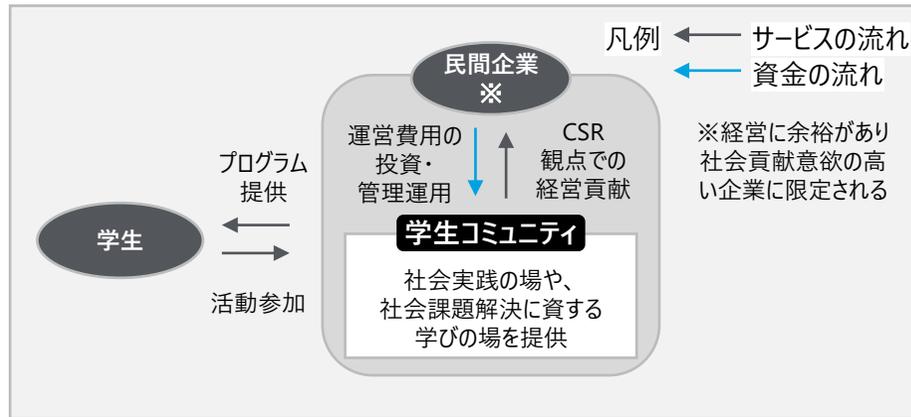
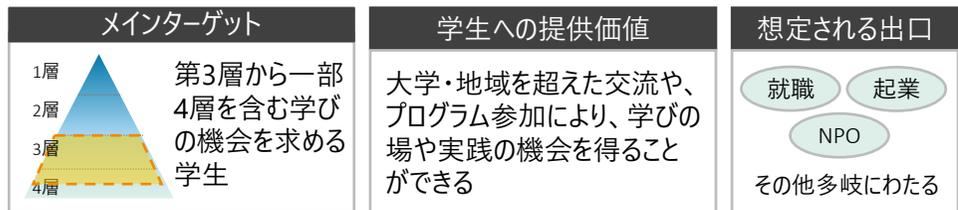
7

CSRモデル

経営に余裕があり、社会貢献意欲の高い企業による学生コミュニティの管理運用を軸に、多様な分野の実践的な学びの場の提供を学生に向けて行う。CSR観点での経営貢献を狙う企業が運営・資金投資の両者を担うモデルとなる。

ターゲット学生と提供する価値

想定プレイヤーと運営のイメージ



運営資金の調達方法

CSR観点での経営貢献を狙った運営会社による投資

コンテンツの調達方法

運営事業者が持つ既存プログラム、または新規開発

事業親和性

事業性

教育性

1 公共性の有無

- 利益創出のみを念頭に置いた運営ではないため、幅広い学生に対しアントレの精神を十分に伝えられる可能性が高い

2 運営資金の継続性

- 経営に余裕がある一部企業の投資に依存する形になり、運用する中で利益を創出することも難しく、持続性に乏しい

3 コンテンツ造成・体制の実現性

- どのようなコンテンツを整備するのか、設計から検討の必要あり
- どの程度運営会社の既存のノウハウを活用できるかが未知数である

4 ビジネスモデルの一般性

- ESG投資やインパクト投資に通ずる考え方であるが、日本の現状においては、理解不足・プレイヤー不足等課題が散見される

5 ターゲット設定

- 利益創出を念頭に置いた運営ではないため、規模を大きくすることが命題となりやすく、エキスパンドしにくいと想定される

6 コミュニティの魅力度

- 広いテーマの学びを提供でき、価値設計の自由度が高い
- コミュニティの規模感によっては学生の帰属意識が生まれづらい可能性がある

# 【モデルタイプ⑧】 拠出型コンソモデル

- ✓ 複数企業によるコンソーシアム運営としての公共性や運営資金の調達が可能である一方で、人材育成に思いがあり、かつ拠出基金の運営を担える主幹企業が限られている

討議事項①  
民間企業等による運営モデルの検討

討議事項②  
プラットフォームのあるべき姿の検討

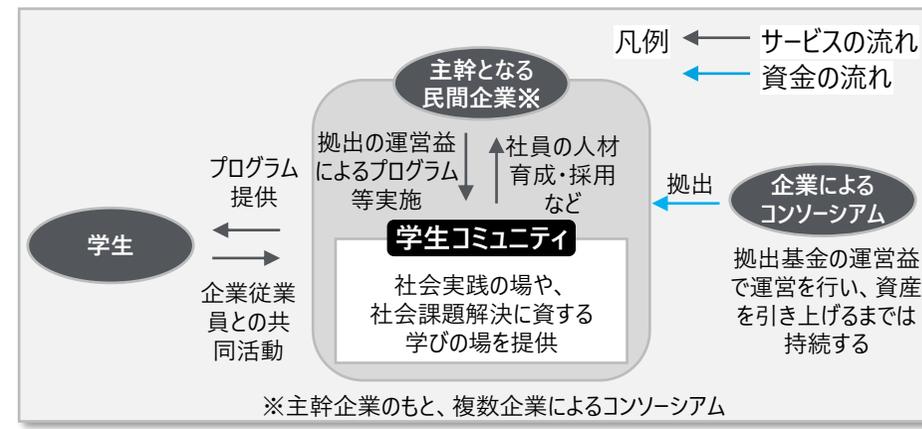
モデルタイプ名称 概要

8 拠出型コンソモデル

人材育成に思いある一企業を先導者として、関心ある複数企業からの拠出を元手にした基金運用により資金調達を目指す。学生のみならず企業従業員との協働プログラム展開も視野に、属性や地域を超えた学びの機会を提供できる。

ターゲット学生と提供する価値 想定プレイヤーと運営のイメージ

メインターゲット	学生への提供価値	想定される出口
<p>1層 2層 3層 4層</p> <p>第1層を中心とした課題意識の強い学生</p>	<p>地域や属性を越え、社会人とともに学び、交流する機会を獲得できる</p>	<p>就職 起業</p> <p>NPO</p> <p>その他多岐にわたる</p>
運営資金の調達方法	企業からの拠出金を運用することで資金調達を行う	
コンテンツの調達方法	学生・社会人協働型の新規プログラム開発、または、社内研修プログラム等を学生向けにアレンジして活用	



事業親和性 事業性 教育性

1 公共性の有無	2 運営資金の継続性	3 コンテンツ造成・体制の実現性	4 ビジネスモデルの一般性	5 ターゲット設定	6 コミュニティの魅力度
<p>➢ コンソ型提供のため公共性を担保できる</p>	<p>➢ 複数企業による拠出し、運用益を運用するため継続性は高い</p>	<p>➢ 教育や人材育成のノウハウを生かしたコンテンツ作り、また社会人との共同活動ができるため、実践的な機会を提供可能</p>	<p>➢ 人材育成に関心があり、さらに先導して拠出による基金運用が求められるが、それを担える企業が限定的である</p>	<p>➢ 実践な場を求める第1・2層の学生の参加が見込まれる</p> <p>➢ 社会人と接点を持ちたい・視野を広げたい第3層の巻き込みも可能</p>	<p>➢ 学生のみならず、社会人も参画しており、多様な交流が可能</p> <p>➢ 複数企業による連携事業のため、ネームバリューが高い</p>

# 【モデルタイプ⑨】 公的資金調達モデル

- ✓ 文科省公認として、運営資金の持続性や公共性が高い。一方で、ターゲット学生の偏りによる集客の不安や、コンテンツ造成における懸念が想定される

討議事項①  
民間企業等による運営モデルの検討

討議事項②  
プラットフォームのあるべき姿の検討

モデルタイプ名称

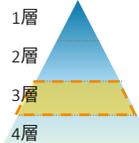
概要

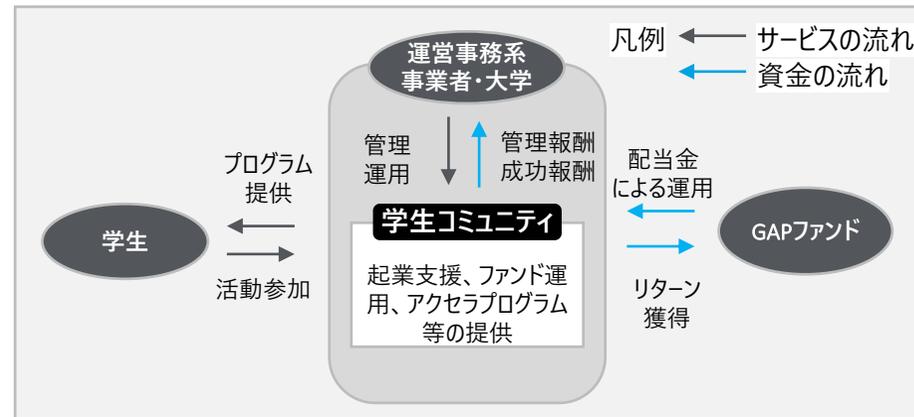
## 9 公的資金調達モデル

他事業GAPファンドの配当金を運営資金に充てることで、配当金の使途の明確化・公的資金による学生コミュニティの運用の両側面を叶えることを目指す。文科省公認の元、学生に起業・研究開発に関する実践的な機会を提供する。

ターゲット学生と提供する価値

想定プレイヤーと運営のイメージ

メインターゲット	学生への提供価値	想定される出口
 <p>第3層を中心とした起業・研究開発に関心のある学生</p>	<p>研究開発シーズの実装化、実践の機会を獲得できる</p>	<p>GAPファンドへの接続</p>
<p><b>運営資金の調達方法</b></p>	<p>他事業GAPファンドの配当金による運用</p>	
<p><b>コンテンツの調達方法</b></p>	<p>外部専門家招聘によるプログラム開発等を想定</p>	



### 事業親和性

### 事業性

### 教育性

<p>1 公共性の有無</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 文科省スタートアップ育成事業等、他事業との接続があり、公共性は高い</li> </ul>	<p>2 運営資金の継続性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 公的資金による運営</li> <li>➢ GAPファンド等の民間資金獲得が見込まれる</li> </ul>	<p>3 コンテンツ造成・体制の実現性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 運営事務系事業者がコンテンツ開発する、もしくは外部調達が難しい可能性が高い</li> </ul>	<p>4 ビジネスモデルの一般性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 自社収益を獲得するため参入インセンティブ有</li> <li>➢ 運営に関する参入障壁が低い</li> </ul>	<p>5 ターゲット設定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 理工学系等、シーズを持つハイエンドの学生が中心</li> <li>➢ 人文社会学系等学生の集客が難しい</li> </ul>	<p>6 コミュニティの魅力度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 文科省公認コミュニティとして魅力が高い</li> <li>➢ 一方で、コミュニティ参加者属性に偏りがある</li> </ul>
---	--	---	---	--	--

# 事業者への声かけ状況・2025年度の実証に向けた選考の出席状況について

- ✓ 全8社と具体的な運営モデルの検討・協議を繰り返してきた
- ✓ その内、4社から2月17日のプラットフォーム具体化WGへの参加を承諾いただいた

討議事項①  
民間企業等による運営モデルの検討

討議事項②  
プラットフォームのあるべき姿の検討

#	テーマ	企業名	ステータス	2/17のPFWGで発表順
1	社内販促モデル	A社	PFWG出席調整完了	1社目
2	人材系モデル	B社	2024年度辞退	-
3	人材系モデル	C社	2024年度辞退	-
4	人材系モデル	D社	PFWG出席調整完了	4社目
5	人材系モデル	E社	2024年度辞退	-
6	横展開モデル	F社	PFWG出席調整完了	3社目
7	拋出型モデル	G社	2024年度辞退	-
8	事業開発モデル	H社	PFWG出席調整完了	2社目

# 民間実証パートナー選定までの流れ

- ✓ 実証パートナー選定においては委員により審査を行い、その結果を踏まえ文部科学省が決定を行っている

討議事項①

民間企業等による運営モデルの検討

討議事項②

プラットフォームのあるべき姿の検討

## 背景

- 民間企業等が資金等のリソース提供を含めて積極的に関与したくなるような仕組みや企画を検討し、**プラットフォームの自立的運営**のための方策を検討
- 実証を通して、実証パートナーが事業終了後に**アントレ教育の事業化を実現もしくは事業化の断念につながることを目指す**

## ■ 実証パートナー選定までの流れ

### PFWG 1回目(9/17)

- 学生コミュニティの運営モデルの検証を行う上で、民間企業が主導する9つのモデルを整理し、候補となる企業と各モデルにおける検証のポイント整理

### 企業ヒアリング等

- PFWGで委員からあがった候補企業等へのヒアリングを実施し、その中から4社がビジネスプランを提出いただく
- 文部科学省との定例MTGを通して各社ビジネスプランのブラッシュアップを行った

### PFWG 2回目(2/17)

- 各社10分のプレゼンをいただき、委員により評価軸に基づきルーブリック評価をいただいた（次ページ詳細掲載）
- 点数を参考にし、委員によるディスカッションにより審査を実施
- 上記結果を踏まえ、文部科学省にて実証パートナー2社を決定

# PFWGの実証パートナー選定に向けた評価軸の設定

- ✓ 実証パートナー選定に向けた評価軸を本事業の目的に基づき、事前に設定した

討議事項①  
民間企業等による運営モデルの検討

討議事項②  
プラットフォームのあるべき姿の検討

	1点	2点	3点
① <b>フィージビリティ</b> 学生コミュニティの検証計画の実現性があるか	<ul style="list-style-type: none"> <li>不明確な点が多く残り、実現の可能性が低い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>不明確な点が多少残るが、実現の可能性が比較的高い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実現の可能性が極めて高い</li> </ul>
② <b>即効性</b> 2025年度に、実証計画、効果測定が実施できるか	<ul style="list-style-type: none"> <li>2025年度に、実証計画の実施が見込めず、コミュニティの効果測定が実施できない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2025年度に、実証計画が実施可能であるが、コミュニティの効果測定の実施が見込めない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2025年度に、実証計画の実施が可能であり、コミュニティの効果測定の実施が見込める</li> </ul>
③ <b>インパクト</b> 影響を与える人数が多いか	<ul style="list-style-type: none"> <li>対象となる地域が限定的で、実証終了後にも対象の拡大が見込めない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>対象となる地域が全国だが、実証終了後にも年間1000名以上の利用は見込めない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>対象となる地域が全国で、実証終了後に年間1000名以上の利用が見込まれる</li> </ul>
④ <b>網羅性</b> 階層に偏りがないか	<ul style="list-style-type: none"> <li>対象が第1, 2層に限られている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>対象は第3層まで広げているが、積極的な参加が見込めない可能性がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>第3層も含む学生が対象となり、積極的な参加が見込める</li> </ul>
⑤ <b>持続性</b> 実証終了後のコミュニティの持続性があるか	<ul style="list-style-type: none"> <li>民間主導による持続的なコミュニティの運営が望めない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>民間主導による持続的なコミュニティの運営が望める</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>民間単独による持続的なコミュニティの運営が望める</li> </ul>

# PFWGでの意見概要（アジェンダ①民間企業等による運営モデルの検討）

- ✓ アジェンダ①民間企業等による運営モデルの検討に関して、プラットフォーム具体化WGにて協議を行った

討議事項①  
民間企業等による運営モデルの検討

討議事項②  
プラットフォームのあるべき姿の検討

9月17日  
PF-WGの議論  
結論

## 【検証すべきモデルについて】

- 特定のモデルに絞りきる必要はなく、仮説をもって各モデルの検証を行っていきけると良い
  - 特にコメントが多かった、#8拠出型モデル、#2人材系モデル、#5横展開モデルについて、検証を進めていく必要がある
  - 最もわかりやすい顕在化されたニーズは人材系モデル（新卒採用）であり、ビジネスモデルとしては拠出型モデル（基金運用）を目指していきると良いのではないかと

## 【検証ポイントについて】

- #8 拠出型モデル：基金出資事業者、基金運用事業者の巻き込みの検証
- #2 人材系モデル：人材系事業者の事業との親和性の検証
- #5 横展開モデル：売り先の可能性検証

今後の  
進め  
方  
案

2024年度

- 既にニーズが一定顕在化している新卒採用を扱う人材系スタートアップと連携し、スモールに実証を行った
  - 人材系事業者とそのユーザーのアントレ教育に対する親和性（関心等）、コミュニティ内活動量の変化、NPS（推奨度）等の検証となる
  - 11月16日開催の山川先生の特別講演にてスモールな実証を行った
- 広報・集客、プログラム参加、事後フォローアップに分けて、検証項目等の整理を行った
- 実証した結果については、イベント等で発信した

2025年度  
以降

- 各モデルにおいて、検証論点を整理し、事業者に公募をかけ、事業者ごとに検証してもらう
- 学生コミュニティの持続的な運用の実現に向けて、本事業の次フェーズ設計を検討する

# PFWGでの意見概要（アジェンダ①民間企業等による運営モデルの検討）

- ✓ アジェンダ①民間企業等による運営モデルの検討に関して、プラットフォーム具体化WGにて協議を行った

討議事項①  
民間企業等による運営モデルの検討

討議事項②  
プラットフォームのあるべき姿の検討

## 検証のポイント

### 【コミュニティの価値設計について】

- どのモデル案で検証を行うにせよ、**数ある大学や学生のコミュニティではなく、本事業のコミュニティに参加してもらうための価値設計が重要である**
- 検証の際には、提供したい学生像・学生のニーズに加え、PFを運営する民間企業等のニーズの双方についてさらに解像度を上げていく必要がある

### 【検証の評価について】

- 現状のモデル案が、本当に第3層を集められるのか、都市部に集中してしまわないかがやや懸念
  - 検証はエリアを絞って実施して良いと思うが、検証の評価として「全国の学生に広まるモデルなのか」や「第3層にリーチできるモデルなのか」という視点を持つと良いのではないか
  - エリアによって、適切なモデルがあると考えられるため、複数のモデルを検証していくことには意味があると考え
- 事業者のコミットメント度（真剣度）、再現性の有無、ターゲットとターゲットの抱える課題の解像度の高さ等が重要であると考え

## 民間巻き込み

### 【民間メリットの検討について】

- プラットフォームへ民間の力を借りる際に、民間の方にとって、協力することにどんなメリット・意義があるのかを十分に説明できることが重要だと考える（人材へのアクセス、インターン等への参加など就職観点はもちろん、社内人材の育成、企業PR、研究シーズへの接触などという観点も考えられる）
- 企業へ寄付を募る際は、活動全体への寄付はもちろん、地域・テーマなど一部に対して寄付してもらうというメニューがあってもいいと考える

### 【学生データベースについて】

- 拠出型モデル等で寄付金をもらうことを検討する場合、スポンサーにつく代わりとして、学生のデータベースを提供する、もしくは主催のイベントを開催できる権利を与える、等の対価は必要であると考え
- 学生のデータベースを作り、アントレに関する学生の行動履歴や意欲の変遷が示せると、大学にとってもメリットが大きい。学生の学びを見つめなおす機会や選択肢を提供できるようになり社会的意義も大きいのではないかと考える

# PFWGでの意見概要（アジェンダ②プラットフォームのあるべき姿の検討）

- ✓ アジェンダ②プラットフォームのあるべき姿の検討に関して、プラットフォーム具体化WGにて協議を行った

討議事項①  
民間企業等による運営モデルの検討

討議事項②  
プラットフォームのあるべき姿の検討

## プラットフォーム のあるべき姿 の検討

### 【アントレ教育の提供体制について】

- アントレプレナーシップにもステージが複数あり、アントレ教育を行う意義や狙い、各ステージでどのような力が身につくのか、どのような状態であれば次のステージに行けるのかという点を体系化すべきである
- アントレプレナーシップは本来すべての人が持つべきものであり、アントレ教育に関する施策の数だけを増やしても意味がなく、アントレ教育以外も含めた教育システム体制全体を見直すべきではないか
- 文科省事業においては、いわゆるトップTierにあたる特定の人材だけでなく、今回の事業のようにTier3へ向けた教育のように、全体を底上げするための教育が求められるのではないかと（KPI,KGIを求められる際に、どうしても〇人起業したなどといった数字が求められがちであり、数値で測ることも重要ではあるが全体に対して教育を行き届かせるという視点が重要ではないか）
- PFの運営は、完全民営化ではなく、国・大学連合・民間企業との共同化が好ましいのではないかと
- 都市部はある程度アントレ教育は確立されているので、地方大学をキーとして考えるのが良いのではないかと

### 【プラットフォームの必要な機能について】

- 意識の高い人とそうでない人を繋ぎ、やりたいことを実現するためのスキルを補い合え、社会人に対するヒアリングがしやすい**全国横断型のコミュニティは価値がある**と考える
- 学生を集客することは容易ではないので、学生コミュニティの付加価値をどのように差別化し、他のコミュニティとどのように接続させていくかは考えていく必要があるが、学校の枠を超えて交流し合えるコミュニティは必要
- 教材や教育系の事業者をポータルサイトに集め、大学の教員等が必要に応じて使用できるようなものが整備されてもよいのではないかと

### 【プラットフォームに学生を巻き込むための認知・関心醸成の方法について】

- インパクトのある規模感のオンラインイベントを実施し、大学生が知っている起業家を10名程度集めたイベントを開催できると良いのではないかと
- 大きなイベントもいいが、既存のメディアと連携し、文部科学省公認の学生向けのコンテンツを発信してもらってもよいのではないかと（年間通じた発信をして、学生にシャワーのように起業家等の声を届けるのは効果があると考えられる）

# 2025年度のPFWGの今後の検討論点

✓ 2025年度の達成目的（ゴール）を設定した上で、2025年度の有識者会議の今後の検討論点として下記のように設計している

## 持続的なアントレ 教育プラットフォームの展開 (2025年度－2026年度)

- 民間企業等による持続可能なプラットフォームの体制整備に関する実証を行い、プラットフォームの機能・運営が具体化ができており、参加学生・教員が拡大できている
- 学生・教職員コミュニティが運用され、運用体制等が確立できている
- 拠点都市・地域の取組への連携策が確立し、プログラム参加学生の誘導導線が確立できている
- 持続可能なプラットフォームに向け、運営主体と自律化における課題が解消されている
- ステークホルダーがプラットフォームに参画し、運営体制・ビジネスモデルが検証・確立できている

### 項目

### 2025年度のゴール

### 今後委員会で検討していくべき事項

#### 民間企業等による 運営モデルの検討

- 選定した実証パートナー企業の策定した実証計画に基づき、実証進捗を管理し、実証から得られた内容の取りまとめを行う
- 民間企業等による持続可能なプラットフォームの運営モデル確立に向けた最終年度の実証計画の検討を行う

- ✓ 2024年度選定した実証パートナー企業の実証計画に基づいて、実施されているか、もしくは改善が必要な点が無いか確認
- ✓ 実証結果の取りまとめに対する確認並びに、民間企業等による自律的な運営モデルの検討に向け、最終年度の実証に向けた実証論点の検討
- ✓ 他の民間企業、自治体等を巻き込むための機運醸成の方法について検討

#### プラットフォームの あるべき姿の検討

- 時勢の変化を踏まえ、学生や教職員や民間企業等をプラットフォームに巻き込む方法を検討する
- 学生・教職員のコミュニティの運用、拠点都市・地域等の各取組への接続の在り方について検討し、展開を図る

- ✓ ターゲット学生へのアプローチ方法の実践・検証と母集団形成の方法について検討
- ✓ 学生・教職員のコミュニティ活性化機能・コンテンツの拡充及び、拠点都市・地方等との接続の継続アップデート/拡充

# 【第1章】有識者委員会での取組・議論内容

## ■ 全体統括委員会（アントレプレナーシップ醸成促進に係る全体像の整理）

1.1 アントレプレナーシップ醸成における課題を踏まえた論点の整理

1.2 アントレプレナーシップ醸成促進に向けた取組内容

1.3 今後の検討項目

## ■ プラットフォーム具体化WG（アントレプレナーシップ人材の裾野拡大に向けたプラットフォーム形成に関する検討）

2.1 現状の課題・背景に基づく、検討論点と調査概要

2.2 民間企業等による運営モデルの検討

2.3 プラットフォームのあるべき姿の検討

2.4 今後の検討項目

## ■ 教育効果の測定指標具体化WG（アントレプレナーシップ教育における教育効果の測定指標の確立に関する検討）

3.1 現状の課題・背景に基づく、検討論点と調査概要

3.2 アントレ教育ガイドの検討・作成

3.3 アントレ教育ガイドの展開・活用促進の検討

3.4 今後の検討項目

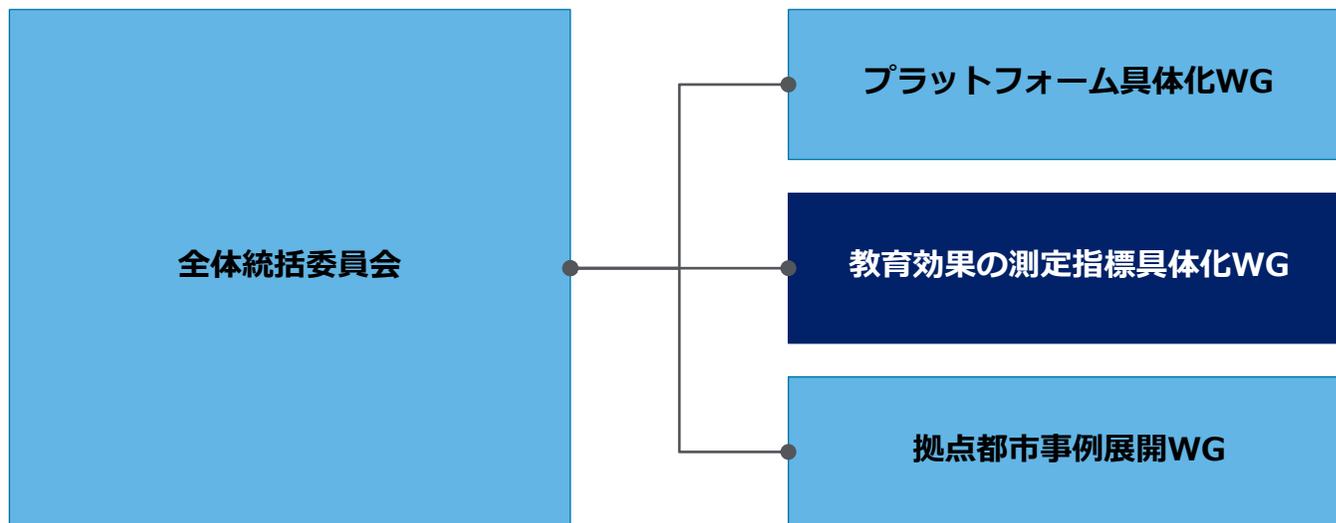
## ■ 拠点都市事例展開WG（アントレプレナーシップ教育に関する内容の事例やノウハウの共有に関する検討）

4.1 開催概要

4.2 実施結果

## 教育効果の測定指標具体化WGの意義

- ✓ アントレプレナーシップの醸成に向け、アントレ教育の教育効果の測定指標の選定・開発・整備が求められている



### 教育効果の 測定指標具体化WG

- 現在使用されている指標（海外の先例含む）を調査し、「全国プログラム」を活用して検証しながら、適切な指標を選定・開発・整備する

# アントレプレナーシップ教育の効果測定における現状の課題認識について

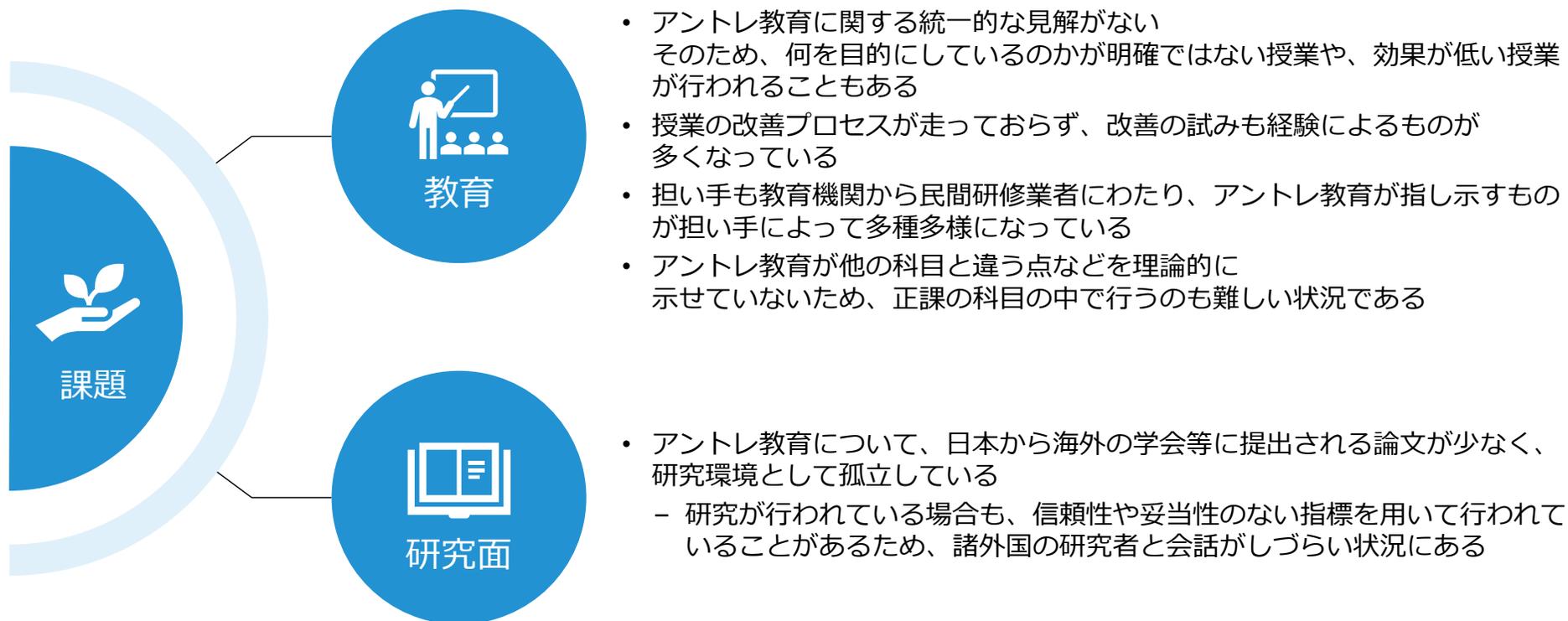
- ✓ アントレ教育の教育効果の評価の確立が求められる背景には、教育・研究面双方の課題が存在していることが挙げられた

## 概要とスコープ



### 現状の課題認識

現在の日本のアントレ教育では、教育と研究の両方で課題があると考えている



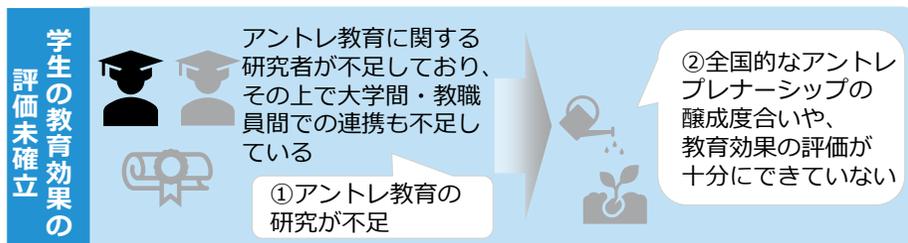
# アントレプレナーシップ教育の効果検証の現状と目指す姿

- ✓ 日本では、アントレ教育の効果について評価指標が確立されておらず、研究も不足している状況を踏まえ、評価指標を整備し、教育価値の向上を実現する必要がある

- 社会環境が大きく変化しつつある中で、様々な困難や変化に対し、与えられた環境のみならず、自ら枠を超えて行動を起こし、新たな価値を生み出していく精神（アントレプレナーシップ）と態度を育む教育が必要

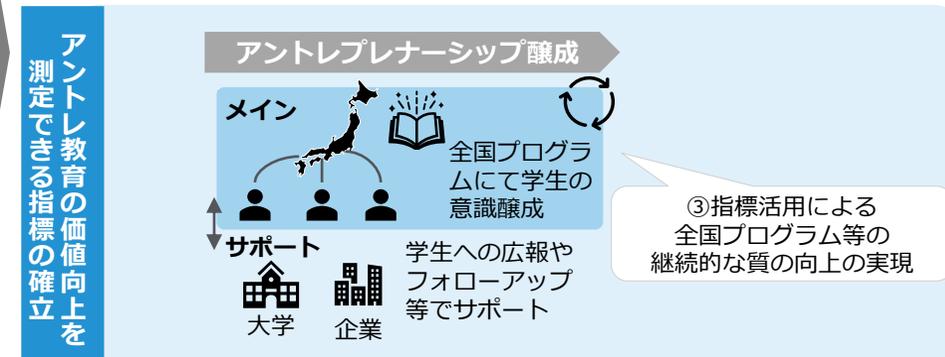
## 効果検証観点での現状認識

- アントレ教育の量的拡大や質的拡充が求められているが、質的拡充の観点では、アントレ教育の研究が不足していることなどから、アントレ教育の効果測定が十分にできておらず、教育プログラム改善に向けた検討も不足している状況



## 効果検証観点での目指す姿

- アントレ教育の効果検証指標や手法の整備を行うとともに、整備した指標の改善やモニタリング、指標を活用して収集した調査結果を踏まえたアントレ教育プログラムの改善を通して、アントレ教育の質的拡充を図る



# 教育効果WGの開催概要

- ✓ 2024年度は委員会2回、分科会1回開催して、アントレ教育ガイドの検討と作成、展開・活用促進について協議を行った

## 目的

- 現在使用されている指標（海外の先例含む）を調査し、「全国プログラム」を活用して検証しながら、適切な指標を選定・開発・整備する
- 「全国プログラム」での検証を通して、アントレ教育の研究促進のためのデータを蓄積し、研究活性化を促進する
- 測定指標モデルを確立し、自発的なプログラム開発・改善のPDCAを検討する

## 検討論点

- アントレ教育の教育効果の測定指標の全体像の整理、コアコンピテンシーの教育方法・効果測定等に関するガイド（アントレ教育ガイド）の検討及び作成
- 大学・民間企業等におけるアントレ教育ガイドの展開・活用促進に向けた検討

## WG各回での議論内容

項目	2024年度のゴール	1回目（5/24）	2回目（3/5）
アントレ教育ガイドの検討・作成	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ アントレ教育に関する評価指標の全体像等を整理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ アントレプレナーシップ教育の教育効果指標に基づくガイドの検討・作成を図る</li> <li>✓ 2023年度オーソライズ取れたフレームに、アントレ教育ガイドで定めたコアコンピテンシーの教育方法・実践例等の洗い出し</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ アントレプレナーシップ教育のコアコンピテンシーに基づく、教育ガイドの最終版のすり合わせを行う</li> <li>✓ FDプログラム等での検証結果を踏まえた、アントレ教育ガイドのブラッシュアップ</li> </ul>
アントレ教育ガイドの展開と活用促進の検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 各大学にてアントレ教育ガイドの展開・活用を促進させる方法について検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ より多くの大学等の教育現場にて活用していただくことを想定し、ターゲットの明確化を図る</li> <li>✓ アントレ教育ガイド公表について検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ ガイドの活用方法、取扱方法、発信方法等について、検討</li> <li>✓ 今後のアントレ教育ガイドの更新方法についても運用ルールを検討</li> </ul>
実施方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 開催日・開催形式： <ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;第1回目&gt; 2024年5月24日（金）13:00–17:00 対面</li> <li>&lt;第2回目&gt; 2025年3月5日（水）13:30–15:30 対面</li> </ul> </li> <li>■ 有識者委員：【座長】馬田隆明、萩原丈博、牧野恵美、山田剛史（敬称略、座長以下氏名五十音順）</li> <li>■ ゲスト：富田佳奈（第1回目、第2回目）</li> </ul>		

# 教育効果WG（1回目）の開催報告

- ✓ 第1回目の対面形式で開催された教育効果WGの実施の様子



## 教育効果WG（2回目）の開催報告

- ✓ 第2回目の対面形式で開催された教育効果WGの実施の様子



# ディスカッションテーマごとの議論内容及び得られた示唆

- ✓ ディスカッションテーマごとに、論点を設定し、委員会を通して協議することで2025年度に繋がる示唆を得ることができた

テーマ	論点	議論内容及び得られた示唆
<p><b>討議事項①</b> アントレ教育ガイドの検討・作成</p>	<p>■ アントレ教育に関する評価指標の全体像等を整理</p>	<p>✓ 教育効果WG及び全体統括委員会にて協議の末、アントレ教育ガイド「日本版EntreComp v1」を策定し、公開に繋げた</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 本事業で策定したアントレ教育ガイド「日本版EntreComp」はあくまで一つのケースと捉え、スコープやレベルに応じた様々なコンピテンシーがあってもよいという考え方も含めた打ち出しが重要であり、学校現場や学生のフィードバックを収集しながら作ることが重要</li> </ul> <p>✓ ターゲットや導入文等については、明確に記載すると共に、プログラム開発、実践、効果測定、研究などに活用してもらいやすいように、アントレ教育ガイドを作成した（これからアントレプレナーシップ教育に携わる教員に加え、既にアントレプレナーシップ教育を行っている教員に対し、新たなプログラムの開発や既存のプログラムのアセスメント等に繋げ、国内のアントレ教育のすそ野拡大を図るものとして作成）</p>
<p><b>討議事項②</b> アントレ教育ガイドの展開と活用促進の検討</p>	<p>■ 各大学にてアントレ教育ガイドの展開・活用を促進させる方法について検討</p>	<p>✓ アントレ教育ガイド「日本版EntreComp」の活用を促すための補助資料として、ガイドやワークシート等を掲載し、アントレ教育ガイドのフィードバックを収集するためのアンケートフォームを作成した</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 広く教職員に知ってもらい、活用してもらうことも重要だが、小さくても成功事例を作り、発信していくことも重要</li> </ul> <p>✓ アントレ教育ガイドを策定、更新に向けて、FDプログラムの現場を活用し、教職員向けのワークショップの開札や大学教育学会等の学会にて研究者等とディスカッションを図った</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ グローバル、民間企業等への展開、プログラム改善だけでなく、組織的な展開事例等、幅広い活用の可能性が考えられると意見が出た</li> </ul>

# アントレ教育ガイド「日本版EntreComp v1」の公開

✓ 2025年3月31日にアントレ教育ガイド「日本版EntreComp v1」を文部科学省HPにて公開した

討議事項①  
アントレ教育ガイドの検討・作成

討議事項②  
アントレ教育ガイドの展開と活用促進の検討

● 令和4年度科学技術人材養成等委託事業「全国アントレプレナーシップ醸成促進に向けた調査分析等業務」におけるアントレプレナーシップ教育ガイドの公表について

令和7年3月31日

文部科学省では、全国にアントレプレナーシップを醸成することを目的に、全国アントレプレナーシップ醸成促進事業を実施しております。令和4年度科学技術人材養成等委託事業「全国アントレプレナーシップ醸成促進に向けた調査分析等業務」の教育効果の測定指標具体化WG（アントレプレナーシップ教育における教育効果の測定指標の確立に関する検討）にて、アントレプレナーシップ教育ガイド（以下、「日本版EntreComp v1ガイド」という。）を作成いたしました。

なお、日本版EntreComp v1およびそのガイドは、各教職員が行うアントレプレナーシップ教育の内容を制約するものではありません。各教職員が最新のアントレプレナーシップ教育の研究を参照しながら、日本版EntreComp v1を超えて教育に工夫することを推奨しています。

[全国アントレプレナーシップ醸成促進事業オフィシャルサイト（別ウィンドウで開きます）](#)

## 1. 日本版EntreComp v1ガイド

- [日本版EntreComp v1 一覧 \(PDF:305KB\)](#)
- [日本版EntreComp v1ガイド \(PDF:1.6MB\)](#)

## 2. 日本版EntreComp v1ガイドの概要

### (1) 本ガイドの目的

日本版EntreComp v1は、財務的価値・文化的価値・社会的価値を生み出すことに資する、個人のコンピテンシー（資質・能力）を整理するものとして設計されています。本ガイドは、日本版EntreComp v1の中に含まれる10個のコア・スキルを教育実践へとつなげていくための補足資料として用意しました。

### (2) 本ガイドの対象者

本ガイドは、アントレプレナーシップ教育に携わる大学の教職員の方々向けのガイドです。置かれた立場やこれまでの経験によって、ガイドの使い方を変えてください。

○これからアントレプレナーシップ教育に携わる教員の方々

初めてアントレプレナーシップ教育のコースデザインやクラスデザインをするとき、どのスキルを伸ばしたいかを意識しながら設計してみてください。  
（1つのコースですべてのスキルを伸ばす必要はありません。）

○すでにアントレプレナーシップ教育を行っている教員の方々

ご自身の教育活動が、特にどのスキルを対象として伸ばしているのかを整理したり、今後どのようなコースやクラスを設計していくかを考える材料として参考にしてください。

### (3) 日本版EntreComp v1を作成した背景

EUが2016年に定めたEntreComp (Entrepreneurial Competence) は、数多くのコンピテンシー（資質・能力）を取り上げ、初等教育から高等教育までをカバーする、アントレプレナーシップ教育の包括的な見取り図として有用でした。一方で、包括的なために数が多く、また抽象度が高いため、現場の授業でEntreCompを活用するには、現場での工夫と経験が必要だったことも事実です。今回提案する日本版EntreCompでは、EU版EntreCompを元にしたながら、より日本の教育現場で使いやすいものとして整理・提案しています。

### (4) 日本版EntreComp v1の特徴

日本版EntreComp v1では、長年アントレプレナーシップ教育に関わってきた教員複数名が議論を行い、EU版EntreCompの『アイデアと機会』『資源』『行動』という3つのコンピテンシーエリアの中から、特に重要だと考えるコア・コンピテンシーを1つずつ取り上げたうえで、そのコア・コンピテンシーを細分化して、3個の『コア・コンピテンシー』と10個の『コア・スキル』に整理しています。

### (5) 日本版EntreComp v1の制約

この日本版EntreComp v1、ならびにそれに付随するガイドは今後数年以内に刷新をする前提で作られています。国内でのアントレプレナーシップ教育に関する期待の高まりを受けて、まず暫定的なガイドを作成する目的で作られました。アントレプレナーシップは世界的に見てもまだ概念として固まっているわけではありません。また教育者の経験や思想によっても、アントレプレナーシップならびにアントレプレナーシップ教育の解釈は異なります。そのため、日本版EntreComp v1およびそのガイドは、各教職員が行うアントレプレナーシップ教育の内容を制約するものではありません。各教職員が最新のアントレプレナーシップ教育の研究を参照しながら、日本版EntreComp v1を超えて教育に工夫することを推奨しています。

※本概要は、日本版EntreComp v1ガイドから引用

<教育効果の測定指標具体化WG 委員>

※座長以下 氏名五十音順 敬称略

・馬田 隆明 東京大学 FoundX デイレクター

・萩原 文博 ソニーマーケティング株式会社 B2Bプロダクト&ソリューション本部 B2B ビジネス部、MESH 事業室室長

・牧野 恵美 立命館アジア太平洋大学 国際経営学部 准教授

・山田 剛史 関西大学 教育推進部 教授

参考（文部科学省公式HP）：

[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shinkou/sangaku/mext\\_00027.html](https://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/sangaku/mext_00027.html)

# アントレ教育におけるコアコンピテンシーの検討にかかる背景

- ✓ 現在国内にはアントレ教育に関する統一した見解がないため、教育現場での運用及び学習者にとっての学習体験の観点からアントレ教育のコアコンピテンシーの検討が必要がある

討議事項①  
アントレ教育ガイドの検討・作成

討議事項②  
アントレ教育ガイドの展開と活用促進の検討

## 現状の課題

- ・ **アントレ教育に関する統一した見解が日本国内でないため、現場の教育者がプログラムの開発や改善のプロセスを回しづらい状況となっている**
- ・ また、学習者の習熟度レベルに応じた適切なプログラムが明確でないため、**アントレプレナーシップ醸成のための有効なラーニングジャーニーの設計に基づく、学習成果の創出がしづらい状況といえる**

## あるべき姿

### 【教育現場（教育者）】

- ・ アントレ教育の概念や目的を明確にし、**アントレプレナーシップの特徴的な構成要素（コアコンピテンシー）について、コンセンサスを得ることで、プログラム受講により得られる知識・能力・態度の観点でアントレ教育のプログラムの整理、開発、評価を教育現場で運用することができるようになる**

### 【学習品質（学習者）】

- ・ アントレ教育において**どの時期にどのような能力を育てたいか**を明確にすることで、学習者の習熟度レベルに応じた適切なプログラムが整備されると共に、プログラム受講により得られる能力が涵養したか評価できるようになり、**学習者個々が納得いく形で最適な学習体験を得ることができるようになる**

アントレプレナーシップの特徴的な構成要素（コアコンピテンシー）について、国内で検討しコンセンサスを図る必要がある

# 高等教育におけるアントレ教育ガイド検討の方向性と検討ステップ

- ✓ アントレ教育のプログラムの整備や教育効果の評価の確立を有効に進める上ではアントレ教育の統一した見解が必要であり、そのために高等教育におけるアントレ教育ガイドの検討の必要性について全体統括委員会で協議された
- ✓ 検討ステップについて協議され、プログラムの整備や教育効果の評価の確立、研究の推進に資する形で推進していく

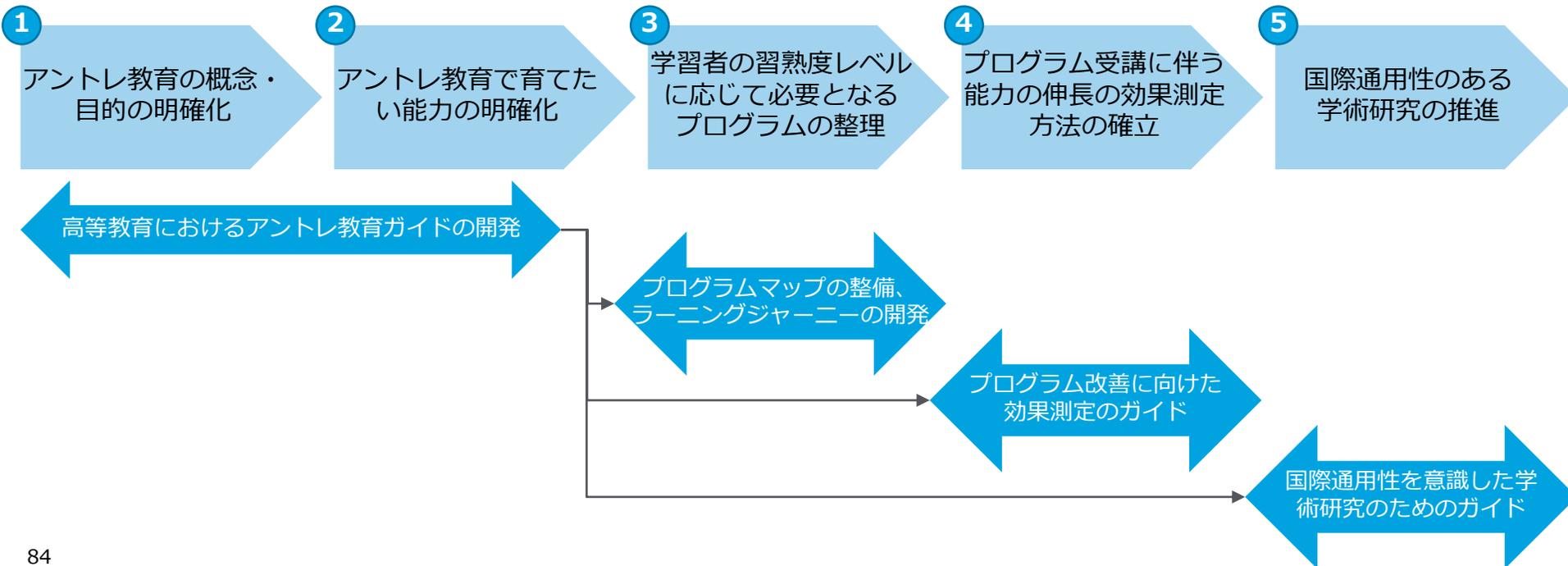
討議事項①  
アントレ教育ガイドの検討・作成

討議事項②  
アントレ教育ガイドの展開と活用促進の検討

## 検討の方向性

- アントレ教育に関する統一した見解が日本国内でないことによる課題を解消するために、**アントレプレナiershipの特徴的な構成要素（コアコンピテンシー）について、国内で検討しコンセンサスを図る必要がある**
- アントレ教育とはそもそも何かを定義し、育成したいコアコンピテンシーを明確にすることで、プログラムの整備や開発や評価をより有効に検討することができるようになる（アントレ教育のプログラムの整備、教育効果の評価の確立にはアントレ教育に関する統一した見解が必要である）

## 検討ステップ（中長期的）



# アントレ教育ガイド検討における目的、スコープ、メリット/デメリット

✓ アントレ教育ガイドを検討するうえで、目的・スコープ・メリット/デメリットを整理したうえで検討を進めた

討議事項①  
アントレ教育ガイドの検討・作成

討議事項②  
アントレ教育ガイドの展開と活用促進の検討

目的	教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育活動（正課内・外）の最低限の質の担保</li> <li>教育活動の改善の指針</li> </ul>
	研究	<ul style="list-style-type: none"> <li>アントレプレナーシップ教育研究者の増加</li> <li>教育研究のための土台作り</li> <li>国際的な比較ができる</li> </ul>
スコープ内		<ul style="list-style-type: none"> <li>内容：コンピテンシー（知識、スキル、態度）</li> <li>対象：大学以降、ビジネス企業、社会起業、その他〇〇起業</li> <li>制約：2年後を目途に改定を検討</li> </ul>
スコープ外		<ul style="list-style-type: none"> <li>内容：受講者の動機付け、マインドセット、起業意思、キャリア教育</li> <li>対象：小中高は含まない</li> </ul>
アントレ教育ガイド 作成のメリット		<ul style="list-style-type: none"> <li>教育：教育内容の偏りを防げる</li> <li>研究：その先に研究があることを示せる、土台が作れる</li> </ul>
アントレ教育ガイド 作成のデメリット		<ul style="list-style-type: none"> <li>教育：教育内容の幅を狭める可能性がある</li> <li>研究：モデルの制約を受ける可能性がある、 概念が現状経営学寄りなので、教育系の研究者から違和感が生じる可能性がある</li> </ul>

# アントレ教育ガイド検討における目的、スコープ、メリット/デメリット

- ✓ アントレ教育ガイドのスコープは、コンピテンシーの形成（能力開発）として整理をしており、EUのEntreCompのフレームワークを活用して、本事業で検討を行った

討議事項①  
アントレ教育ガイドの検討・作成

討議事項②  
アントレ教育ガイドの展開と活用促進の検討

## アントレプレナーシップの醸成

## アントレプレナーシップの発揮

### 動機付け・意識醸成

### コンピテンシーの形成

### 社会実践

### 評価項目

- Entrepreneurial Intention  
(起業家的な意図・意思)
- Entrepreneurial Passion  
(起業家的な情熱)
- エフェクチュエーション  
(起業家的な意思決定)

- Entrepreneurship Competence  
(起業家的なコンピテンシー)
- 機会の発見と創造
- 資源の活用と獲得
- 行動

EUのEntreCompの  
フレームワークを活用

### スコープ

### スコープ外

### スコープ内

### スコープ外

### 本事業での 取扱

- 2021年度以降の本事業の中で質問票に入っており、全国プログラムを通じて検証を行った

- EUのフレームワークを参考にしながら、2024年度の教育効果WGを中心に検討を行った

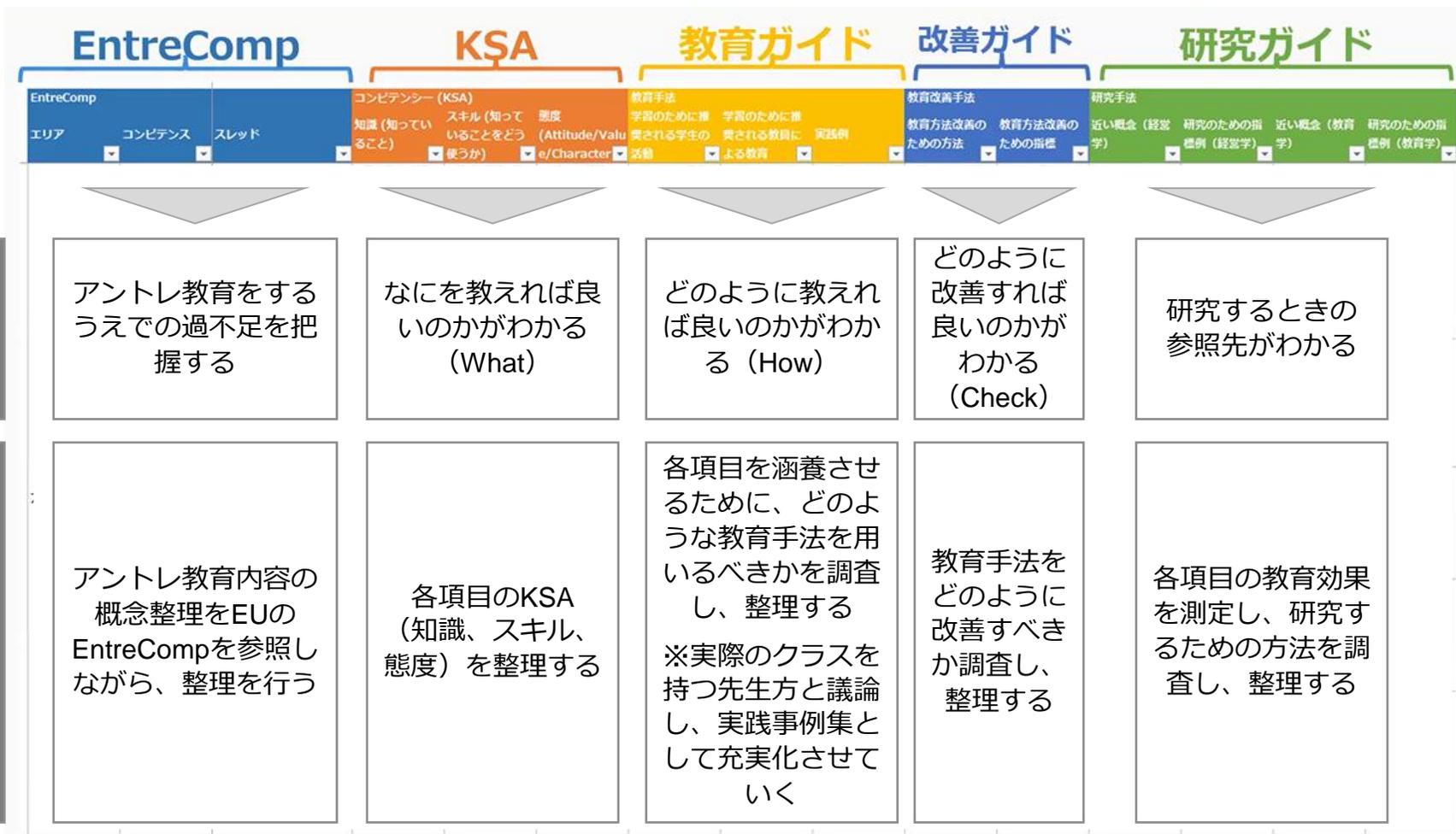
- 起業後のパフォーマンスの評価等になるが、本事業においてはスコープ外として整理

# アントレ教育ガイドの検討状況（暫定版）

- ✓ 本事業において、2024度のアントレ教育ガイドは下記のように整理を行い、2025度継続的な協議を行い、ブラッシュアップを図り、各大学の教育現場や研究現場で使用してもらうことを想定している

討議事項①  
アントレ教育ガイドの検討・作成

討議事項②  
アントレ教育ガイドの展開と活用促進の検討



# 教育効果WGでの意見概要（アジェンダ①アントレ教育ガイドの検討・作成）

✓ アジェンダ①アントレ教育ガイドの検討・作成に関して、教育効果WGにて協議を行った

討議事項①  
アントレ教育ガイドの検討・作成

討議事項②  
アントレ教育ガイドの展開と活用促進の検討

## アントレ教育ガイドの作成ポイント

### 【アントレ教育ガイドの対象・導入文・内容等について】

- 対象はアントレ教育に新規に参入する教員をメインと想定（ペルソナに合わせたストーリーの提示が有効）
- 対象となる先生も大切だが、対象となる学生も議論しても良いのではないか
- アントレ教育ガイドのようなものは色々あっていいとわかるような書きぶりは大切であり、読み手からも提案を受け付けると良いのではないか
- 先生の活動をまとめるようなチェックボックスをGoogleシートにまとめる方法は今後考えられる。現時点は、チェックボックスをいれたいと考える。また、授業でどのような活動ができるか、サンプルをつけたい
- ミネルバ大学の取り組み「#」は、一旦学生からフィードバックを得てから、入れるかどうか検討する

# コアコンピテンシー・コアスキルの一覧

- ✓ 日本版EntreComp v1ではコア・コンピテンシーを定め、10個のコアスキルを選定し、コアスキルを身につけるための主な学習活動をまとめた

討議事項①  
アントレ教育ガイドの検討・作成

討議事項②  
アントレ教育ガイドの展開と活用促進の検討

#	コア・コンピテンシー (日本版)	コア・スキル	コア・スキルを身につけるための主な学習活動
1	機会の発見	問いを立てる	問いの型を身につける、問いを作る順序を身につける、問いの変換をする、重要な問いや課題を特定する
2		情報を探索する	取材やインタビューをする、現場を観察する、先行事例を調べる、文献調査をする、情報を構造化する
3		アイデアを作る	情報をアイデアにする、アイデアを構造化する、アイデアを加工する、アイデアを伝える
4	資源の動員	今ある資源を認識する	自分たちが何をもっているかを把握する、自分たちが何を知っているかを把握する、自分たちが誰を知っているかを把握する、自分たちは誰かを把握する、資源の価値を見出す、不足している資源を特定する
5		今ある資源を活用する	資源を効率的に使う、資源を創造的に使う、資源を組み合わせる、資源を適切に配分する
6		足りない資源を獲得する	資源の調達方法を検討する、他人にお願いをする、交渉や説得をする、パートナーシップを築く、プレコミットメントを引き出す
7	不確実性、曖昧さ・リスクへの対処	不確実性、曖昧さ、リスクを見極める	リスクを分析する、許容可能な損失の範囲を見定める、機会損失を分析する、バイアスの影響を緩和する、複数の選択肢を考慮する
8		試してみる	仮説検証を学ぶ、セールスをする、実験をする、プロトタイプを作る
9		意思決定をする	疑似体験をする、ケースを議論する、リスクを取る、撤退判断をする
10		学びを得る	メタ認知をする、ふりかえる、他人からのフィードバックを得る、他人へのフィードバックを行う、予期しなかった機会を活かす

参照（文部科学省公式HP）：

[https://www.mext.go.jp/content/20250331-mxt\\_sanchi01-000041401\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20250331-mxt_sanchi01-000041401_1.pdf)

# 日本版EntreComp v1 ガイドの設計 (1/2)

- ✓ 日本版EntreComp v1の一覧表を利用する上でのガイドを作成した

討議事項①  
アントレ教育ガイドの検討・作成

討議事項②  
アントレ教育ガイドの展開と活用促進の検討

## 目的

- 日本版EntreComp v1は、財務的価値・文化的価値・社会的価値を生み出すことに資する、個人のコンピテンシー（資質・能力）を整理するものとして設計されている。
- 本ガイドは、日本版EntreComp v1の中に含まれる10個のコア・スキルを教育実践へとつなげていくための補足資料として用意した。

## 対象

- 本ガイドは、アントレプレナーシップ教育に携わる大学の教職員の方々向けのガイドである。置かれた立場やこれまでの経験によって、ガイドの使い方を変える。

### ○これからアントレプレナーシップ教育に携わる教員の方々

初めてアントレプレナーシップ教育のコースデザインやクラスデザインをするとき、どのスキルを伸ばしたいかを意識しながら設計する。（1つのコースですべてのスキルを伸ばす必要はない。）

### ○すでにアントレプレナーシップ教育を行っている教員の方々

ご自身の教育活動が、特にどのスキルを対象として伸ばしているのかを整理したり、今後どのようなコースやクラスを設計していくかを考える材料として参考にする。

## 背景

- EUが2016年に定めたEntreComp (Entrepreneurial Competence) は、数多くのコンピテンシー（資質・能力）を取り上げ、初等教育から高等教育までをカバーする、アントレプレナーシップ教育の包括的な見取り図として有用である。
- 一方で、包括的なために数が多く、また抽象度が高いため、現場の授業でEntreCompを活用するには、現場での工夫と経験が必要だったことも事実である。
- 今回提案する日本版EntreCompでは、EU版EntreCompを元にしながら、より日本の教育現場で使いやすいものとして整理・提案する。

参照（文部科学省公式HP）：

[https://www.mext.go.jp/content/20250331-mxt\\_sanchi01-000041401\\_2.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20250331-mxt_sanchi01-000041401_2.pdf)

# 日本版EntreComp v1 ガイドの設計 (2/2)

- ✓ 日本版EntreComp v1の一覧表を利用する上でのガイドを作成した

討議事項①  
アントレ教育ガイドの検討・作成

討議事項②  
アントレ教育ガイドの展開と活用促進の検討

## 特徴

- 日本版EntreComp v1では、長年アントレプレナーシップ教育に関わってきた教員複数名が議論を行い、EU版EntreCompの『アイデアと機会』『資源』『行動』という3つのコンピテンシーエリアの中から、特に重要だと考えるコア・コンピテンシーを1つずつ取り上げたうえで、そのコア・コンピテンシーを細分化して、3個の『コア・コンピテンシー』と10個の『コア・スキル』に整理している。

## 制約

- この日本版EntreComp v1、ならびにそれに付随するガイドは今後数年以内に刷新をする前提で作られている。国内でのアントレプレナーシップ教育に関する期待の高まりを受けて、まず暫定的なガイドを作成する目的で作られた。アントレプレナーシップは世界的に見てもまだ概念として固まっているわけではない。また教育者の経験や思想によっても、アントレプレナーシップならびにアントレプレナーシップ教育の解釈は異なる。
- そのため、日本版EntreComp v1およびそのガイドは、各教職員が行うアントレプレナーシップ教育の内容を制約するものではない。各教職員が最新のアントレプレナーシップ教育の研究を参照しながら、日本版EntreComp v1を超えて教育に工夫することを推奨している。

## 構成

- 第1部 日本版 EntreComp v1 の概要
- 第2部 日本版 EntreComp v1 ガイドの構造
- 第3部 日本版 EntreComp v1 と本ガイドの構造\*
- 第4部 日本版 EntreComp v1 の 10 のコア・スキル
- 第5部 付録

### ※コア・スキルの説明の構成

コアコンピテンシーの下位概念に位置するコア・スキルを伸ばすための学習活動や教育手法のヒントを提供する

- ✓ コア・スキルを涵養するための主な学習活動の紹介
  - ✓ コア・スキルのレベルを整理
  - ✓ 学習活動の例、評価方法の例の紹介
    - ✓ 参考文献の紹介

参照（文部科学省公式HP）：

[https://www.mext.go.jp/content/20250331-mxt\\_sanchi01-000041401\\_2.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20250331-mxt_sanchi01-000041401_2.pdf)

# 【参考】EUのEntrepreneurship Competence (EntreComp)

- ✓ EUでは、主要な政策目標の1つを起業家能力の開発と位置づけ、「The Entrepreneurship Competence Framework」において、起業家の能力を定義されている

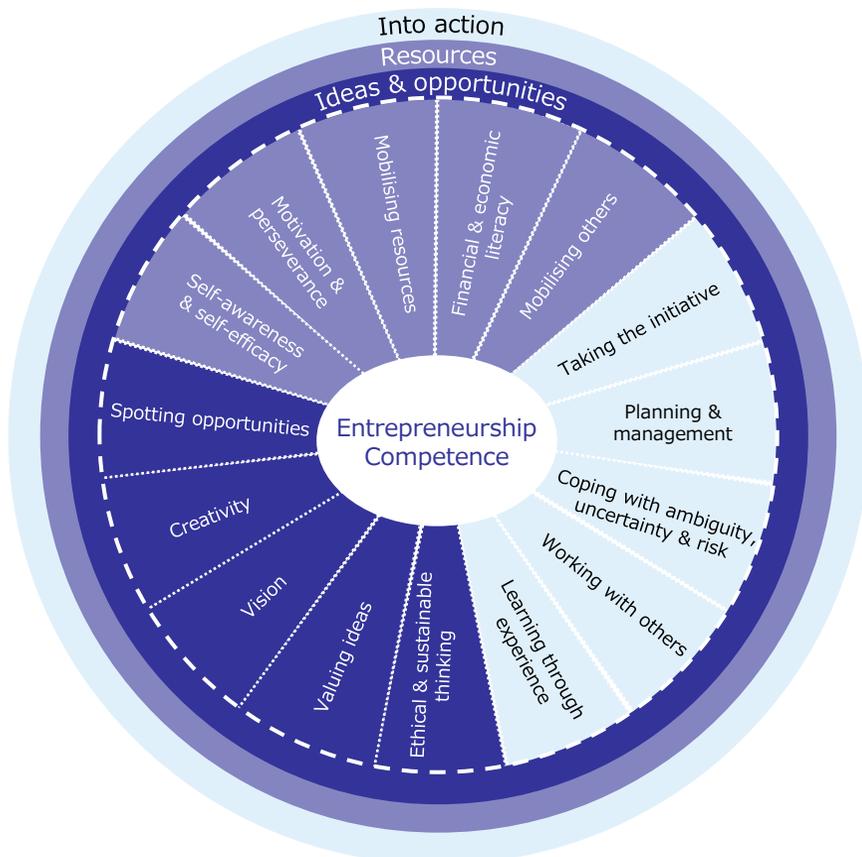


Figure 2: Areas and competences of the EnterComp conceptual model

Table1: EnterComp conceptual model			
Areas	Competences	Hints	Descriptors
1. Ideas and opportunities	1.1 Spotting opportunities	Use your <sup>s</sup> imagination and abilities to identify opportunities for creating value	<ul style="list-style-type: none"> <li>Identify and seize opportunities to create value by exploring the social, cultural and economic landscape</li> <li>Identify needs and challenges that need to be met</li> <li>Establish new connections and bring together scattered elements of the landscape to create opportunities to create value</li> </ul>
	1.2 Creativity	Develop creative and purposeful ideas	<ul style="list-style-type: none"> <li>Develop several ideas and opportunities to create value, including better solutions to existing and new challenges</li> <li>Explore and experiment with innovative approaches</li> <li>Combine knowledge and resources to achieve valuable effects</li> </ul>
	1.3 Vision	Work towards your vision of the future	<ul style="list-style-type: none"> <li>Imagine the future</li> <li>Develop a vision to turn ideas into action</li> <li>Visualise future scenarios to help guide effort and action</li> </ul>
	1.4 Valuing ideas	Make the most of ideas and opportunities	<ul style="list-style-type: none"> <li>Judge what value is in social, cultural and economic terms</li> <li>Recognise the potential an idea has for creating value and identify suitable ways of making the most out of it</li> </ul>
	1.5 Ethical and sustainable thinking	Assess the consequences and impact of ideas, opportunities and actions	<ul style="list-style-type: none"> <li>Assess the consequences of ideas that bring value and the effect of entrepreneurial action on the target community, the market, society and the environment</li> <li>Reflect on how sustainable long-term social, cultural and economic goals are, and the course of action chosen</li> <li>Act responsibly</li> </ul>
2. Resources	2.1 Self-awareness and self-efficacy	Believe in yourself and keep developing	<ul style="list-style-type: none"> <li>Reflect on your needs, aspirations and wants in the short, medium and long term</li> <li>Identify and assess your individual and group strengths and weaknesses</li> <li>Believe in your ability to influence the course of events, despite uncertainty, setbacks and temporary failures</li> </ul>
	2.2 Motivation and perseverance	Stay focused and don't give up	<ul style="list-style-type: none"> <li>Be determined to turn ideas into action and satisfy your need to achieve</li> <li>Be prepared to be patient and keep trying to achieve your long-term individual or group aims</li> <li>Be resilient under pressure, adversity, and temporary failure</li> </ul>
	2.3 Mobilizing resources	Gather and manage the resources you need	<ul style="list-style-type: none"> <li>Get and manage the material, non-material and digital resources needed to turn ideas into action</li> <li>Make the most of limited resources</li> <li>Get and manage the competences needed at any stage, including technical, legal, tax and digital competences</li> </ul>
	2.4 Financial and economic literacy	Develop financial and economic know how	<ul style="list-style-type: none"> <li>Estimate the cost of turning an idea into a value-creating activity</li> <li>Plan, put in place and evaluate financial decisions over time</li> <li>Manage financing to make sure my value-creating activity can last over the long term</li> </ul>
	2.5 Mobilizing others	Inspire, enthuse and get others on board	<ul style="list-style-type: none"> <li>Inspire and enthuse relevant stakeholders</li> <li>Get the support needed to achieve valuable outcomes</li> <li>Demonstrate effective communication, persuasion, negotiation and leadership</li> </ul>
3. Into action	3.1 Taking the initiative	Go for it	<ul style="list-style-type: none"> <li>Initiate processes that create value</li> <li>Take up challenges</li> <li>Act and work independently to achieve goals, stick to intentions and carry out planned tasks</li> </ul>
	3.2 Planning and management	Prioritize, organize and follow-up	<ul style="list-style-type: none"> <li>Set long-, medium- and short-term goals</li> <li>Define priorities and action plans</li> <li>Adapt to unforeseen changes</li> </ul>
	3.3 Coping with uncertainty, ambiguity, and risk	Make decisions dealing with uncertainty, ambiguity and risk	<ul style="list-style-type: none"> <li>Make decisions when the result of that decision is uncertain, when the information available is partial or ambiguous, or when there is a risk of unintended outcomes</li> <li>Within the value-creating process, include structured ways of testing ideas and prototypes from the early stages, to reduce risks of failing</li> <li>Handle fast-moving situations promptly and flexibly</li> </ul>
	3.4 Working with others	Team up, collaborate and network	<ul style="list-style-type: none"> <li>Work together and co-operate with others to develop ideas and turn them into action</li> <li>Network</li> <li>Solve conflicts and face up to competition positively when necessary</li> </ul>
	3.5 Learning through experience	Learn by doing	<ul style="list-style-type: none"> <li>Use any initiative for value creation as a learning opportunity</li> <li>Learn with others, including peers and mentors</li> <li>Reflect and learn from both success and failure (your own and other people's)</li> </ul>

# 【参考】EntreComp - 15個のコンピテンシーと8つのレベル

- ✓ 3分類に対して、それぞれ5個ずつのコンピテンシーを分類し、計15個のコンピテンシーを定義し、基礎・中級・発展・専門という学習の段階のレベルを定義されている

## アイデアとチャンス

1. 機会の発見
2. 創造性 (creativity)
3. ビジョン
4. アイデアの評価
5. 倫理的で持続可能な思考

## リソース

6. 自己意識
7. モチベーション
8. リソースの動員
9. 財務的経済的能力
10. 他のステークホルダーの動員

## 行動

11. イニシアチブを取る
12. 計画し運営する
13. 不確実性やリスクに対処する
14. チームで行動する
15. 経験から学ぶ



基礎 (他人からの支援に依存)		中級 (独立性を育む)		発展 (責任を負う)		専門 (変革や成長を駆動する)	
直接の監督下にあること。(例えば、教師、指導者など)	他者からの支援は少なく、ある程度の自主性を持って、仲間と一緒に行動する。	自分一人で、そして仲間と一緒に。	いくつかの責任を負い、分かち合うこと。	いくつかの指導を受けながら、他の人たちと一緒に。	責任をもって決断し、他者と協働すること。	特定分野の複合的な発展に貢献する責任を負っていること。	特定分野の発展に大きく寄与していること。
<b>1.発見</b> レベル1は、主に自分の資質、可能性、興味、希望を発見することに重点を置いています。また、創造的に解決できるさまざまなタイプの問題やニーズを認識し、個人のスキルや態度を伸ばすことに重点を置いています。	<b>2.探索</b> レベル2は、問題に対するさまざまなアプローチを探求し、多様性に集中し、社会的スキルと態度を身につけることに重点を置いています。	<b>3.実験</b> レベル3は、クリティカルシンキングと、例えば企業の実践的な経験を通じて、価値を創造する実験に重点を置いています。	<b>4.挑戦</b> レベル4は、アイデアを「実生活」で行動に移し、その責任を取ることには重点を置いています。	<b>5.改善</b> レベル5では、アイデアを行動に移し、価値創造にますます責任を持ち、起業家精神に関する知識を深めることに重点を置いています。	<b>6.強化</b> レベル6は、他者と協働すること、自分が持っている知識を利用して価値を生み出すこと、複雑化する課題に対処することに重点を置いています。	<b>7.拡張</b> レベル7は、不確実性が高く、常に変化に対応し、複雑な課題に取り組むために必要な能力に焦点を当てています。	<b>8.変革</b> レベル8は、研究開発およびイノベーション能力を通じて新しい知識を開発し、卓越性を達成し、物事のやり方を変革することで、新たな課題に焦点を当てます。

# 日本版EntreComp v1の認知拡大

- ✓ 「日本版EntreComp v1」を公式HPにて公開し、認知拡大を図った



公式HPにも公開を行い、日本版EntreComp v1の認知拡大に努める  
<https://entrepreneurship-education.mext.go.jp/teaching25/>



## 討議事項①

アントレ教育ガイドの検討・作成

## 討議事項②

アントレ教育ガイドの展開と活用促進の検討

### 日本版EntreComp v1の特徴

日本版 EntreComp は、長年アントレプレナーシップ教育に関わってきた教員複数名が議論を行い、EU版 EntreComp の『アイデアと機会』『資源』『行動』という3つのコンピテンシーエリアの中から、特に重要だと考えるコア・コンピテンシーを1つずつ取り上げたうえで、そのコア・コンピテンシーを細分化して、3個の『コア・コンピテンシー』と10個の『コア・スキル』（EU版 EntreComp では『スレッド』に該当）に整理しています。

※この日本版 EntreComp v1、ならびにそれに付随するガイドは、今後数年以内に刷新をする前提で作られています。

#### コア・コンピテンシー

#### コア・スキル

機会の発見	① 問いを立てる
	② 情報を探索する
	③ アイデアを作る
資源の動員	④ 今ある資源を認識する
	⑤ 今ある資源を活用する
	⑥ 足りない資源を獲得する
不確実性、曖昧さ、リスクへの対処	⑦ 不確実性、曖昧さ、リスクを見極める
	⑧ 試してみる
	⑨ 意思決定をする
	⑩ 学びを得る

# アントレ教育ガイドを用いたワークシート（アセスメントシート）

日本版EntreComp v1と照らし合わせ、教職員が自校等で現在行っている授業・プログラムで該当するコア・スキル、学習活動をカバーしているかチェックするためのシート

## 日本版Entre Comp v1アセスメントシート

学校名： \_\_\_\_\_ 名前： \_\_\_\_\_

(1) 自分が関わっているアントレプレナーシップ関係のコース（授業）を挙げてください

①		②	
③		④	

(2) 自分が関わっているアントレプレナーシップ**以外**のコース（授業）を挙げてください

A		B	
C		D	

(3) それぞれのコースで伸ばそうとしているコア・スキルにチェックを入れてください

コア・スキル	例	①	②	③	④	A	B	C	D
(1) 問いを立てる	✓								
(2) 情報を探索する									
(3) アイデアを作る	✓								
(4) 今ある資源を認識する									
(5) 今ある資源を活用する									
(6) 足りない資源を獲得する									
(7) 不確実性、曖昧さ、リスクを見極める									
(8) 試してみる	✓								
(9) 意思決定をする									
(10) 経験から学びを得る									

討議事項①

アントレ教育ガイドの検討・作成

討議事項②

アントレ教育ガイドの展開と活用促進の検討

## EntreComp と自分の対応表

名前: \_\_\_\_\_

(1) 教えられる／自分ができていると思うコア・スキルにチェックを入れてください

コア・スキル	教えられる	自分ができる
(1) 問いを立てる		
(2) 情報を探索する		
(3) アイデアを作る		
(4) 今ある資源を認識する		
(5) 今ある資源を活用する		
(6) 足りない資源を獲得する		
(7) 不確実性、曖昧さ、リスクを見極める		
(8) 試してみる		
(9) 意思決定をする		
(10) 経験から学びを得る		

(2) 自分自身のどのコア・スキルを伸ばしたいと思いますか？

(3) 上記で回答したコア・スキルを伸ばすために、何をすれば良いと思いますか？

# 日本版EntreComp v1 フィードバックアンケートフォーム

日本版EntreComp v1をご覧ください、活用いただいたのちにご意見や活用状況をアンケートで回収し、アントレ教育ガイドの展開・更新等に活用する

討議事項①  
アントレ教育ガイドの検討・作成

討議事項②  
アントレ教育ガイドの展開と活用促進の検討

## 日本版EntreComp v1 フィードバックアンケート

昨年度文部科学省より正式にリリースいたしました「日本版EntreComp v1」に関する ご意見や活用状況をお伺いしたく、アンケートを実施しております。日本版EntreComp をさらに良いものへ更新していくために、お手数をおかけいたしますがご協力いただけますと幸いです。

日本版 EntreComp v1 :

[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shinkou/sangaku/mext\\_00027.html](https://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/sangaku/mext_00027.html)

ご不明点がございましたら、下記までお問い合わせください。

【アントレプレナーシップ人材育成プログラム運営事務局】

運営受託者:有限責任監査法人トーマツ

[entrepreneurship\\_education@tohmatu.co.jp](mailto:entrepreneurship_education@tohmatu.co.jp)

受付/回答時間 10:00~17:00(土日祝日・年末年始を除く)

このフォームを送信する際に、お客様が、ご自身のお名前やメールアドレスなどの詳細情報を入力しない限り、その情報が自動的に取得されることはありません。

\* 必須

1. 氏名を教えてください。 \*

回答を入力してください

2. メールアドレスを教えてください。 \*

回答を入力してください

3. 所属している学校を教えてください。 \*

回答を入力してください

# FDプログラムでの検証

2025年2月1日～2日に開催したFDプログラムでは、参加教職員に日本版EntreComp v1やアセスメントシートを用いた実証的な研修を行った

討議事項①

アントレ教育ガイドの検討・作成

討議事項②

アントレ教育ガイドの展開と活用促進の検討

## 文部科学省主催 全国アントレプレナーシップ人材育成プログラム

本プログラムは単なる講義を超えた「学び」と「交流」の場で新たな知識とスキルを身に付け、未来の教育を共に創り上げましょう!

**2024年度 教職員 対象**  
**FDプログラム受講生募集!**

開催場所 Tokyo Innovation Base

開催  
終了  
しました

事前講義 (オンライン) 授業見学/事後講義 (対面)

1/24 2025 2/1 2025 2/2 2025  
17:00-18:30 10:30-18:30 10:30-18:30



### EntreComp とコース対応表

名前:

(1) 自分が関わっているアントレプレナーシップ関係のコース (授業) を挙げてください

①	<input type="text"/>	②	<input type="text"/>
③	<input type="text"/>	④	<input type="text"/>

(2) 自分が関わっているアントレプレナーシップ以外のコース (授業) を挙げてください

A	<input type="text"/>	B	<input type="text"/>
C	<input type="text"/>	D	<input type="text"/>

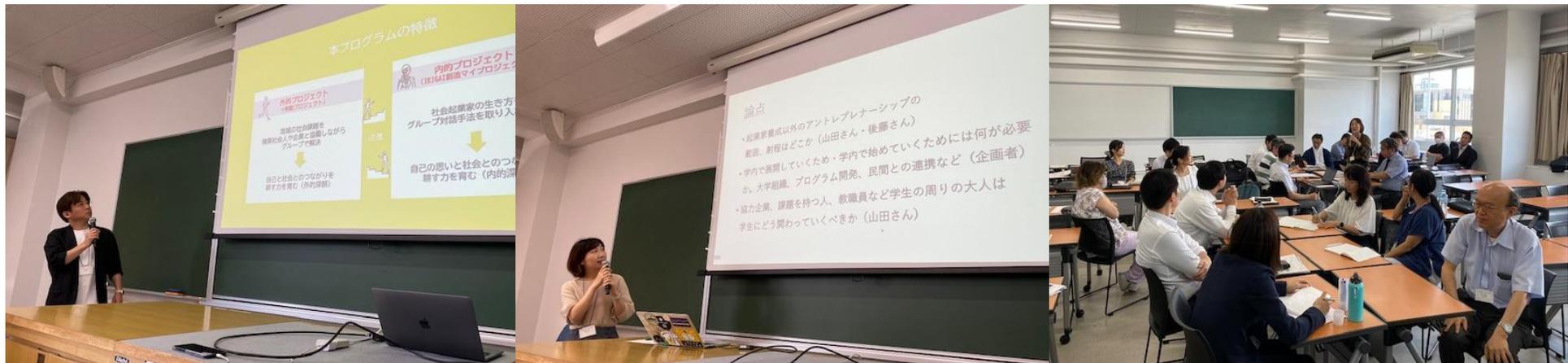
(3) それぞれのコースで伸ばそうとしているコア・スキルにチェックを入れてください

コア・スキル	例	①	②	③	④	A	B	C	D
(1) 問いを立てる	✓		✓						
(2) 情報を探索する		✓	✓						
(3) アイデアを作る	✓	✓	✓						
(4) 今ある資源を認識する			✓				✓		
(5) 今ある資源を活用する			✓				✓		
(6) 足りない資源を獲得する			✓				✓		
(7) 不確実性、曖昧さ、リスクを見極める							✓		
(8) 試してみる		✓	✓	✓					
(9) 意思決定をする			✓				✓		
(10) 経験から学びを得る			✓				✓		

# 大学教育学会での研究者とのディスカッション

✓ 第46回年次大会（関西国際大学）が6/8-9に開催され、山田先生・富田先生等と共にRTを企画し、参加者と協議を行った

		討議事項① アントレ教育ガイドの検討・作成	討議事項② アントレ教育ガイドの展開と活用促進の検討
<b>タイトル</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学教育学会 第46回大会</li> </ul>	<b>場所</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>関西国際大学 神戸山手キャンパス（対面のみ）</li> </ul>
<b>主催</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一般社団法人 大学教育学会</li> </ul>	<b>日程</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2024年6月8日～9日</li> </ul>
<b>統一テーマ</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学教育は持続可能か？ ～ポストコロナ、急激な少子化、AIの脅威に日本の大学教育はどう立ち向かうのか～</li> </ul>		
<b>RTタイトル</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学におけるアントレプレナーシップ教育の展開 ー社会課題に関与し、新たな価値を生み出す精神をいかに育むかー</li> </ul>		
<b>企画者</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>山田剛史（関西大学）、後藤耀（デロイトトーマツ）、家島明彦（大阪大学）、富田佳奈（東京大学）</li> </ul>		
<b>趣旨</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現代は正解なき予測困難な時代と表現される。学生と社会全体のウェルビーイング向上を目指す取組としてアントレプレナーシップ教育が注目されている。文部科学省は、起業家育成だけのビジネス教育とは異なり、「自ら枠を超えて行動を起こし、新たな価値を生み出していく精神」と定義し、全国アントレプレナーシップ醸成促進事業を展開している。本RTでは、当該事業を受託・運営するデロイトトーマツの後藤氏、三菱みらい育成財団の採択事業「ソーシャル・アントレプレナーシップ育成プログラム」を担当する関西大学の山田、同採択事業「産学連繋型教育プログラム（QBIC）」を担当する大阪大学の家島氏の3名より話題提供を行う。</li> </ul>		



# 教育効果WGでの意見概要（アジェンダ②アントレ教育ガイドの展開と活用促進検討）

- ✓ アジェンダ②アントレ教育ガイドの展開・活用促進の検討に関して、教育効果WGにて協議を行った

討議事項①  
アントレ教育ガイドの検討・作成

討議事項②  
アントレ教育ガイドの展開と活用促進の検討

## アントレ教育ガイドの展開等の方針

### 【アントレ教育ガイドの活用促進等について】

- 広め方については、FDプログラムを通して先生方に使ってもらい、意見を収集していく（プログラム開発、実践、効果測定、研究などを想定）
- 教員コミュニティを形成し、実践者から活用事例を集めていけると良い（ワークシート等も補助として活用する）
- ジェネラルなテーマでアントレ教育に入っていくより、政策起業等のテーマで成功事例を作り、本流に戻っていくことがよいと考える
- 理解度に応じたアクションマップのようなものが必要で、YouTubeで解説動画を配信するなどには必要ではないか
- 参考文献・論文も大量につけるのではなく、おすすめの文献の要約版のハンドブック（1枚もののブローチャー）があると良い
- 使いやすいようにアントレ教育ガイドに合わせた授業パッケージを考えてみるのも良いのではないかと考える
- 教員の自己認識だけでは難しいので、各拠点でWSを行ってリーダーを育成する仕組みづくりが必要

### 【アントレ教育ガイドの展開・発信等について】

- 公開方法はHP掲載だけでなく、イベントや動画発信等も検討する（2025年3月26日拠点都市事例展開WGにて発信）
- 国内の発信だけでなく、海外の発信も大切で、UNESCOのAPEIDでアントレ教育の会合があるので、ベンチマークをしても良いのではないかと考える
- 大学教育学会等で研究者や教員に共有して、ご意見を集っても良いのではないかと考える
- アントレ教育を展開している民間事業者も活用できるように民間の視点も展開のフェーズでは入れていき、ご意見を広くいただいても良いと考える
- アントレ教育が各大学に広まる中で、コースの統廃合やクラス設計等にも応用できる。経済界と話していて、産業と大学が連携して人材育成するときにアントレはワードとして挙がってくる。人材育成についても活用可能性がある
- ガイドとしては標準性は示すが、具体は各自が創意工夫すべき領域であるため、事例の載せすぎは避けた方がよい。短期間で広めたい場合は具体例で示し、長期的な育成が目的であれば標準化した内容がよい
- 授業のパッケージだけでなく、組織的な展開事例としてアントレ教育導入の背景や効果検証の事例があるとよい
- 現場の教職員のフィードバックを集め、2-3年に1回更新を想定している

# 2025年度の教育効果WGの今後の検討論点

✓ 2025年度の達成目的（ゴール）を設定した上で、2025年度の有識者会議の今後の検討論点として下記のように設計している

## 持続的なアントレ 教育プラットフォームの展開 (2025年度－2026年度)

- アントレ教育のコアコンピテンシーを踏まえた、全体像が明確化されている
- 各拠点・各大学でのアントレ教育の指標の検討、効果の測定方法が確立されている
- 調査データの収集・蓄積に伴う、アントレ教育の研究促進の機運が醸成されている

項目	2025年度のゴール	今後委員会で検討していくべき事項
教育効果の評価の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 2023年度策定したアントレ教育ガイドの認知が広まり、活用事例が創出される</li> <li>■ アントレ教育の現場の声を収集し、アントレ教育ガイドの更新方針を定める</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 2023年度策定したアントレ教育ガイドの認知拡大、関心醸成、活用促進に向けた施策について協議</li> <li>✓ アンケート結果やユーザーの声等を踏まえたアントレ教育ガイドの更新方法について方針、具体的な進め方や体制について協議協議</li> </ul>
全国プログラムを通した検証	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 全国プログラムを通したアントレ教育ガイドと連動した指標の検証</li> <li>■ 全国プログラムで検証した指標を用いた各大学での実証（FDプログラムと連携）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ アントレ教育ガイドと連動させた2024年度の全国プログラムでの指標、効果測定の実施方法等を検討</li> <li>✓ アントレ教育ガイドを用いた効果測定を各大学で普及・浸透させるための今後のスケールを見据えた、FDプログラムの在り方や実施体制等について協議</li> </ul>
整備した指標に基づく改善・研究の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 全国プログラムを通して、収集したデータの収集と蓄積</li> <li>■ 各分野の研究者にアントレ教育ガイドの発信を通し、巻き込みを図る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ アントレ教育の研究促進に向け、研究者を巻き込むためのインセンティブ、アプローチ方法について協議</li> <li>✓ 各分野の研究者の交流を促すコミュニティの設計（学会連携等）に関する検討 ※FDとの連携も検討</li> </ul>

# 【第1章】有識者委員会での取組・議論内容

## ■ 全体統括委員会（アントレプレナーシップ醸成促進に係る全体像の整理）

1.1 アントレプレナーシップ醸成における課題を踏まえた論点の整理

1.2 アントレプレナーシップ醸成促進に向けた取組内容

1.3 今後の検討項目

## ■ プラットフォーム具体化WG（アントレプレナーシップ人材の裾野拡大に向けたプラットフォーム形成に関する検討）

2.1 現状の課題・背景に基づく、検討論点と調査概要

2.2 民間企業等による運営モデルの検討

2.3 プラットフォームのあるべき姿の検討

2.4 今後の検討項目

## ■ 教育効果の測定指標具体化WG（アントレプレナーシップ教育における教育効果の測定指標の確立に関する検討）

3.1 現状の課題・背景に基づく、検討論点と調査概要

3.2 アントレ教育ガイドの検討・作成

3.3 アントレ教育ガイドの展開・活用促進の検討

3.4 今後の検討項目

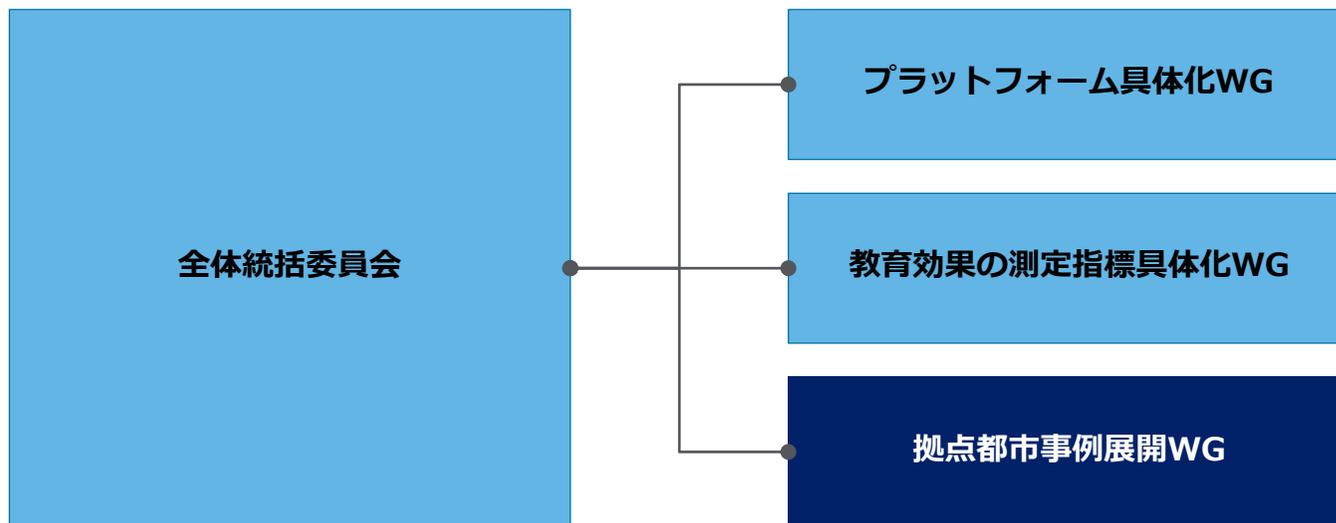
## ■ 拠点都市事例展開WG（アントレプレナーシップ教育に関する内容の事例やノウハウの共有に関する検討）

4.1 開催概要

4.2 実施結果

## 拠点都市事例展開WGの意義

- ✓ アントレプレナーシップの醸成に向け、拠点都市等のアントレ教育に関する事例やノウハウの共有が求められている



### 拠点都市事例展開WG

- スタートアップ・エコシステム拠点都市の主にアントレ教育に関する内容の事例やノウハウを拠点都市内外に共有

# 拠点間・大学間の連携における観点での現状と目指す姿

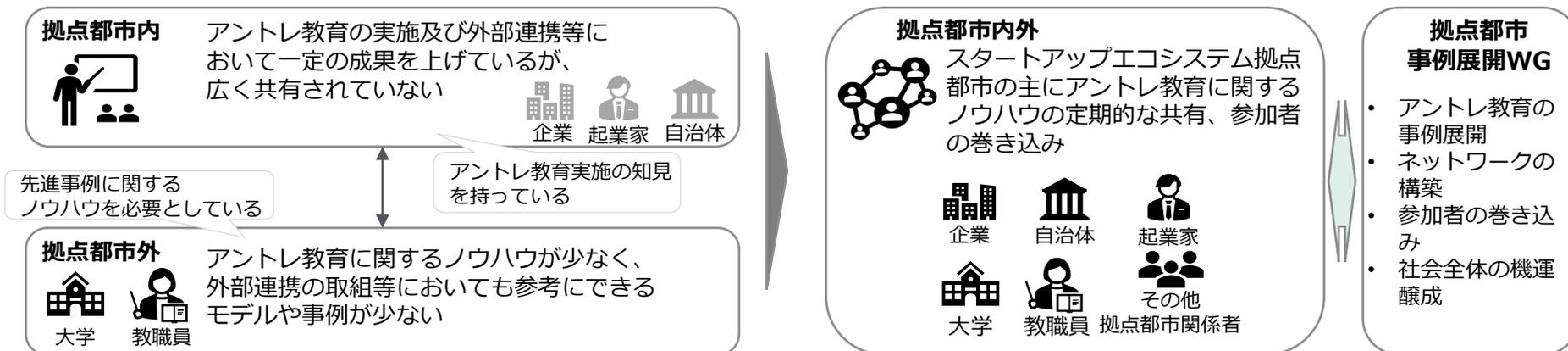
- ✓ スタートアップ・エコシステム拠点都市のアントレ教育に関する事例やノウハウを拠点都市内外に共有し、広く展開することが求められている

## 現状

- アントレ教育に関する先進的な取組が拠点都市において実施されているものの、大学間・拠点都市間での連携が不足しているため、共有できていない状況
- 上記課題に対して、スタートアップ・エコシステム拠点都市の主にアントレ教育に関する内容の事例やノウハウの展開が必要である

## 目指す姿

- アントレ教育に関する先進事例やノウハウを整理し、拠点都市内外に広く共有し、アントレ教育の醸成に寄与する
- 広く参加者を募り、アントレ教育の事例を広く展開する



### 施策の方向性

- |   |                          |  |
|---|--------------------------|--|
| 1 | <b>拠点都市事例・ノウハウの展開</b>    | <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 拠点都市のアントレ教育の先進的な事例やノウハウを共有し、拠点都市外の関係者にも広く展開</li> <li>➢ アントレ教育の知見の少ない大学等の参考モデルになるとともに、アントレ教育の関心醸成にも寄与</li> </ul> |
| 2 | <b>広く参加者を募る体制整備</b>      | <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 拠点都市内外を問わず、アントレ教育に興味関心のあるステークホルダーを募り、大学や民間企業などの関連組織への広報活動、事務局としてのイベント運営機能を整備</li> </ul>                         |
| 3 | <b>共通の目的下における交流機会の創出</b> | <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 先進事例に関する議論や事例に関する活用方法など、有機的な交流を促すための場を設置</li> <li>➢ ステークホルダー間の交流のみならず、更なる巻き込みを促進</li> </ul>                     |

## 拠点都市事例展開WGの開催概要

- ✓ 2025年3月26日に、文部科学省及び内閣府の合同開催により、拠点都市事例展開WG（スタートアップ・エコシステム拠点都市推進協議会 アントレプレナーシップ教育ワーキング・グループ）を開催した

**スタートアップ・エコシステム拠点都市推進協議会  
アントレプレナーシップ教育ワーキング・グループ(第5回)**

**ハイブリッド開催**

**全国アントレプレナーシップ醸成促進事業  
拠点都市事例展開ワーキング・グループ (第3回)**

**合同会議**

**SAKURA DEEPTech SHIBUYA**  
東京都渋谷区桜丘町1番1号ほか Shibuya Sakura Stage セントラルビル12階

**対象：教員・自治体関係者  
社会人・学生等**

**2025年3月26日 (水) 17:30-19:30**

会場参加者のみ終了後にネットワーキング予定

※現地参加限定150名

アントレ教育に関心がある方は是非ご参加ください！

## 拠点都市事例展開WGの開催概要

- ✓ 本事業開始後初のハイブリッド開催（全体統括委員会と同日開催）となり、総勢12名の登壇者をお招きし、全国アントレプレナーシップ醸成促進事業の進捗と成果を発表し、拠点都市内外の参加者との交流機会を設け、機運醸成に努めた

### 目的

- スタートアップ・エコシステム拠点都市推進協議会の下に置かれた「アントレプレナーシップ教育ワーキング・グループ」と、文部科学省委託事業「全国アントレプレナーシップ醸成促進に向けた調査分析等業務」における「拠点都市事例展開WG」を合同で開催する
- 文部科学省が推進する施策を多くのステークホルダーに発信し、日本全体のアントレ教育の普及・充実に向け、関係者の参画と連携を後押しすることを目指す

### 開催概要

- 開催日：2025年3月26日（水）17:30~19:30
- 場所：SAKURA DEEPTech SHIBUYA（ハイブリッド開催）
- 参加者：206名（対面79名、オンライン127名）
  - スタートアップ・エコシステム拠点都市コンソーシアムに参画する関係者（自治体職員、スタートアップ支援者、大学関係者等）
  - JST「大学発新産業創出プログラム 大学・エコシステム推進型 スタートアップ・エコシステム形成支援」の各プラットフォーム（PF）関係者
  - 文部科学省委託事業「全国アントレプレナーシップ醸成促進事業」の有識者会議委員、事業協力者、「全国アントレプレナーシップ人材育成プログラム」申込者
  - 各地域や学校でアントレ教育を推進する学校教職員、教育支援事業者、アントレ教育受講生等
  - 文部科学省、内閣府、経済産業省の担当者 等

### 構成

#### <タイムテーブル>

- 17:30-17:50（20分） オープニング（開会挨拶、イベント趣旨説明）
- 17:50-18:10（20分） 2/1,2開催 全国プログラム/FDプログラムの紹介（学生向け/教職員向け）
- 18:10-18:40（30分） アントレプレナーシップ教育の測定指標、教育ガイドの検討  
（教育効果の測定指標具体化WG）
- 18:40-19:00（20分） アントレプレナーシップ醸成段階における民間主導のプラットフォーム構築に係る実証  
（プラットフォーム具体化WG）
- 19:00-19:10（10分） 全体統括（全体統括委員会）
- 19:10-19:30（20分） クロージング（閉会挨拶、アンケート、会場紹介、集合写真）
- 19:30-20:15（45分） ネットワーキング

# 拠点都市事例展開WGの開催概要

✓ 本WGでは、以下の登壇者（12名）によって各モジュールの発表をいただいた



■馬田 隆明  
東京大学 FoundX ディレクター



■跡部 悠未  
東京農工大学 未来価値創造研究教育特区 / ディープテック産業開発機構 准教授  
Venture Café Tokyo プログラムアドバイザー



■小林 美和  
桜美林大学ビジネスマネジメント学群准教授  
弁護士



■牧野 恵美  
立命館アジア太平洋大学 国際経営学部 准教授



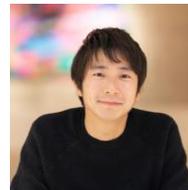
■山田 剛史  
関西大学 教育推進部 副部長/教授



■萩原 文博  
一般社団法人 Arc & Beyond 業務執行理事 / Co-Founder  
ソニーマーケティング株式会社 MESH事業室 室長



■辻本 将晴  
東京科学大学  
環境・社会理工学院 イノベーション科学系・技術経営専門職学位課程 教授



■赤土 豪一  
リクルート「キャリアガイダンス」編集長  
アントレプレナーシップ・プログラム「高校生Ring」プロデューサー



■北野 唯我  
株式会社ワンキャリア 取締役 執行役員CSO



■坂田 一郎  
東京大学  
総長特別参与・地域未来社会連携研究機構長  
工学系研究科教授（技術経営戦略学専攻）



■迫田 健吉  
文部科学省 科学技術・学術政策局 産業連携・地域振興課 産業連携推進室 室長



■有賀 理  
内閣府科学技術・イノベーション推進事務局参事官（イノベーション推進担当）  
内閣官房グローバル・スタートアップ・キャンパス構想推進室内閣参事官

# 拠点都市事例展開WGの開催概要

- ✓ 本WGのリーフレットなどを作成し、拠点都市内外に対し広く周知を行った

**アントレ教育に関心がある方は是非ご参加ください！**  
**対象：教員・自治体関係者・社会人・学生等**

**スタートアップ・エコシステム拠点都市推進協議会**  
**アントレプレナーシップ教育ワーキング・グループ(第5回)**

**全国アントレプレナーシップ醸成促進事業**  
**拠点都市事例展開ワーキング・グループ (第3回)**

## 合同会議

**2025年3月26日** 水 受付時刻: 17:15  
**17:30 ~ 19:30**

※会場参加者のみ終了後にネットワーキング予定

**SAKURA DEEPTech SHIBUYA**  
 東京都渋谷区桜丘町1番1号ほか Shibuya Sakura Stage セントラルビル12階

**開催趣旨**

文部科学省が推進する施策等をより多くのステークホルダーに発信し、日本全体のアントレ教育の普及・充実に向け、関係者の参画と連携を促進することをめざす。

**開催内容**

文部科学省におけるアントレプレナーシップ教育の関する施策の報告  
 ※詳細は裏面をご確認ください  
 年に1度の合同会議です

**お申込みはこちら**

対面参加はこちら▶

**限定150名**

※現地参加希望の方は早めにお申込みください



オンライン参加はこちら▶

**限定500名**

※Zoom URLを後日送付します



ハイブリッド開催

**対象者**

アントレ教育WGの構成員に加え、アントレ教育に関心を持つ、拠点都市内外の関係者（スタートアップ支援者、教育支援事業者、学校教職員、学生等）も広く参加できる機会とします。

**コンテンツ**

- ◇開催挨拶  
迫田 健吉氏（文部科学省）
- ◇2/1,2開催 全国プログラム/FDプログラムの紹介  
馬田 隆明氏（東京大学）  
跡部 悠未氏（東京農工大学）  
小林 美和氏（桜美林大学）
- ◇アントレプレナーシップ教育の測定指標、教育ガイドの検討  
馬田 隆明氏（東京大学）  
牧野 恵美氏（立命館アジア太平洋大学）  
山田 剛史氏（関西大学）
- ◇アントレプレナーシップ醸成段階における民間主導のプラットフォーム構築に係る実証  
辻本 将晴氏（東京科学大学）  
萩原 丈博氏（ソニーマーケティング株式会社/一般社団法人 Arc & Beyond）
- ◇全体統括  
坂田 一郎氏（東京大学）
- ◇閉会挨拶  
有賀 理氏（内閣府）

**登壇者情報ははこちら**



**2025年3月26日** 水 受付時刻: 17:15  
**17:30 ~ 19:30**

※会場参加者のみ終了後にネットワーキング予定



Shibuya Sakura Stage

**会場アクセスリンク**  
 JR渋谷駅新南改札隣接  
 渋谷駅から徒歩30秒



**問い合わせ先**

文部科学省 科学技術・学術政策局  
 産業連携・地域振興課 産業連携推進室 担当：南、関野、金澤

 [edge@mext.go.jp](mailto:edge@mext.go.jp)

**ホームページ**



## 拠点都市事例展開WGの開催報告

✓ 対面79名、オンライン127名の約200名が参加いただいた



# 拠点都市事例展開WGの開催報告（全国プログラム/FDプログラム）

✓ 馬田先生、跡部先生、小林先生による全国プログラム、FDプログラムについて、発表していただいた

■ プログラム名：2/1, 2開催 全国プログラム/FDプログラムの紹介

■ スピーカー：馬田 隆明（モデレーター）、跡部 悠未、小林 美和



■ 構成（20分）：

- 事務局より概要説明（2分）
- 馬田先生より全国プログラムの全体設計について説明（3分）
- 跡部先生、小林先生より2024年度の実践における工夫や学んだ点について（10分）
- 馬田先生よりFDプログラムについて実施報告（5分）

■ パネルディスカッション・トークテーマ：

1. 2023年度FDプログラムを受講した動機や、受講した際に学んだ点
2. 今回の全国プログラムの講師のオファーを受けた理由
3. 具体的にどのような準備をしたか、大変だったこと、アレンジしたところはどこか
4. 今回の取組を通して学んだ点、やってみて気づいたこと、どんな点がやりがいになったか
5. 今回の経験をいかに自身の活動に繋げていきたいか



## 拠点都市事例展開WGの開催報告（教育効果WG）

✓ 馬田先生、牧野先生、山田先生、萩原様による教育効果WGについて、発表していただいた

■ **プログラム名**：アントレプレナーシップ教育の測定指標、教育ガイドの検討

■ **スピーカー**：馬田 隆明（モデレーター）、牧野 恵美、山田 剛史、萩原 文博

■ **構成（30分）**：

- 馬田先生にてアントレ教育ガイドについて説明（10分）
- 活用方法について各委員よりご意見出し+クロストーク（18分）
  - 牧野先生：教員個人でのアントレ教育ガイドの活用について
  - 山田先生：学校組織でのアントレ教育ガイドの活用について
  - 萩原様：民間企業等でのアントレ教育ガイドの活用について
- 馬田先生よりアントレの利用上の留意点、今後の展開（2分）

■ **パネルディスカッション・トークテーマ**：

1. 教員個人として、自身の授業での活用方法について
2. 学校組織として、アントレ教育導入の検討に向けた活用方法について
3. 民間企業として、アントレ教育プログラムの質担保の観点での活用方法について



# 拠点都市事例展開WGの開催報告（PFWG）

✓ 辻本先生、萩原様、赤土様、北野様によるPFWGについて、発表していただいた

## ■ プログラム名：アントレプレナーシップ醸成段階における民間主導のプラットフォーム構築に係る実証

■ スピーカー：辻本 将晴（モデレーター）、萩原 丈博、赤土 豪一、北野 唯我

### ■ 構成（20分）：

- 辻本先生にて本取組の背景について説明（3分）
- 各社より実証計画案のプレゼン（各社4分：計8分）
- クロストーク（9分）
  - 本取組の意義
  - 実証におけるポイント
  - 本実証を成功させるために必要な協力者

### ■ パネルディスカッション・トークテーマ：

1. 民間企業によるアントレ教育プログラムの提供、学生コミュニティの形成の意義について
2. 実証を成功させるためのポイントについて（想定される壁の乗り越え方など）
3. 実証を推進する上で必要となる協力者について



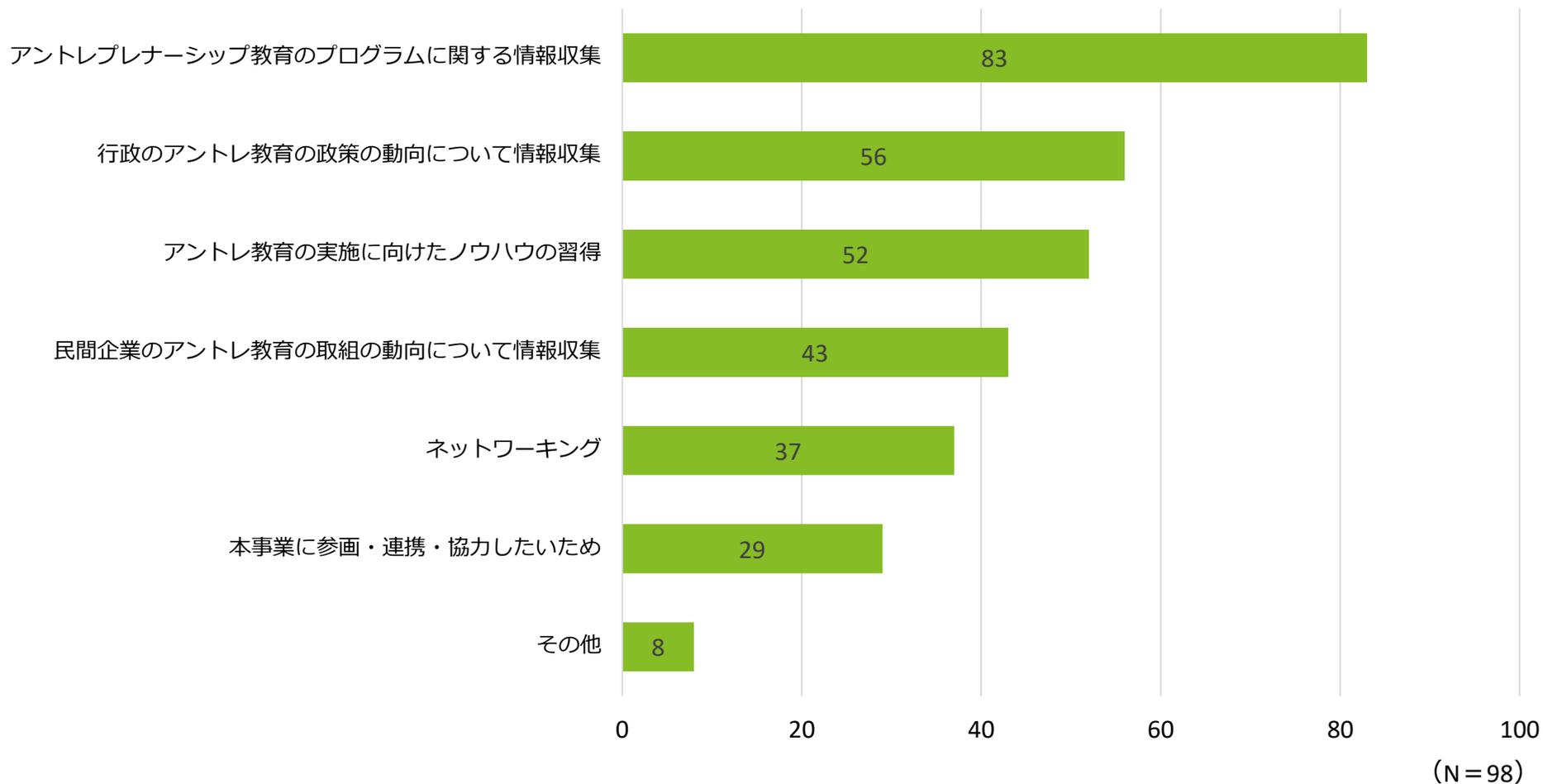
# 拠点都市事例展開WGでの議論内容抜粋

プログラム名	議論内容抜粋	得られた示唆
2/1, 2開催 全国プログラム/FDプログラムの紹介	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ メイン講師を馬田先生からFDプログラム受講生に講師を繋ぎ、アントレ教育を教えることができる教員を広げていくコンセプトを聞き、関心を持ち、挑戦することを決めた</li> <li>✓ コーティーチング (Co-Teaching) 体制で同じFDプログラムを受講した教員同士が連携しながら準備したことで、新鮮な視点を得られ、互いの教え方を学び合える良い機会となった</li> <li>✓ FDプログラムで理論は理解できていたが、教員自身も失敗を恐れ実践を躊躇っていたのではないかと気が付き、文科省からこのような機会をいただき、チャレンジの意欲が高まった</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ アントレ教育に関心を持つ教員を増やすために馬田先生のFDプログラムとセットでメイン講師を務めていただくという成功事例を創出することができた</li> <li>✓ FDプログラムで築き上げたネットワークを活用し、教員同士のプロジェクトは双方互惠関係を築くことができた</li> <li>✓ アントレ教育の理念・理論を学べるFDプログラムやアントレ教育ガイドだけでなく、教員にも実践の機会、失敗を一定許容できる環境の用意は重要</li> </ul>
アントレプレナーシップ教育の測定指標、教育ガイドの検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ アントレ教育ガイドを活用し、知識中心のレクチャーを最小限に、「教えるのではなく、学生自身が学ぶ」時間を増やす設計とし、学生自身もアントレ教育ガイドを参照し、振り返ることができれば学習効果を高めることができる</li> <li>✓ 大きな組織の中では熱意のある個人が努力しても全体へ広がらず、点在する取組が統合されず非効率を強いられ、効果検証が難しくなる場合があるが、アントレ教育ガイドを活用し、体系的にプログラムを整理し、学内の説明に用いるのは有用</li> <li>✓ 企業活動の中でも新規事業創出や人材育成の場面でアントレ教育ガイドを活用することができると思う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ アントレ教育ガイドは教育現場において、教員だけでなく、学生自身もともに活用することでアントレ教育の学習効果を高めることができる</li> <li>✓ 組織全体にアントレ教育の機運醸成を図るうえでは、ベンチマークとなる共通の指標やガイド、教育効果等のエビデンスを示していく必要がある</li> <li>✓ ビジネス現場での価値創造においても、アントレ教育ガイドの指標を用いることで、自身の活動やスキルをセルフチェックするツールとして有効に活用することができる</li> </ul>
アントレプレナーシップ醸成段階における民間主導のプラットフォーム構築に係る実証	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 民間企業等がアントレ教育プログラムを提供することで、実践的な学びを与えるとともに社会に出た際に生きた力となることを実感してもらうことができる</li> <li>✓ 学生コミュニティの形成を通じて、継続的に切磋琢磨し合い、刺激を与え合うメンバーとともに、教育を通して灯った火を絶やさずに新たな挑戦やコンフォートゾーンを抜け出す行動に繋げていくことが重要であると考え</li> <li>✓ 実証を円滑に進めるためには、ビジョンを共有し共通理解を共にできる大学関係者との協働と“アントレプレナーシップ”の用語ではなく、直感的に理解できる言葉で語ることが重要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 合理的でプログラム参加の意味を厳しく問う学生に対し、アントレ教育で学んで得られた知識や経験が社会に出たときに役に立つと実感させることは重要</li> <li>✓ 単発の教育を受けて終わりではなく、継続的な学びの環境として、学生同士で高め合えるコミュニティの形成と行動に繋ぎ込む仕掛け作りは重要</li> <li>✓ 民間企業等によるアントレプレナーシップ醸成段階のプログラムの開発と実践と効果測定の実証において、学生や協力者等の巻き込みを促進していくためには「共感性」は重要な論点である</li> </ul>

# 参加者アンケート（1/3）

✓ 参加者のイベント参加目的は、多くがアントレプレナーシップ教育のプログラムに関する情報収集であった

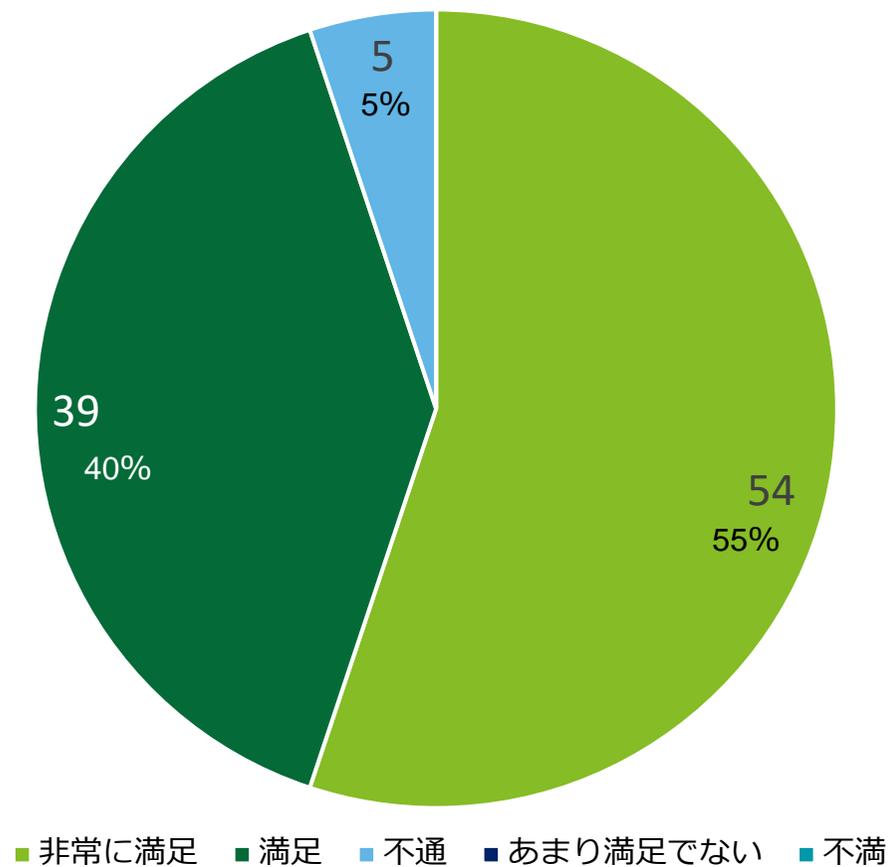
## 今回のイベントの参加目的



## 参加者アンケート（2/3）

✓ 参加者のイベント満足度は、非常に高い結果（満足と回答した参加者が全体の95%）となった

### 今回のイベントの満足度



(N=98)

## 参加者アンケート（3/3）

- ✓ 参加者の本事業への参画・連携・協力などのご関心テーマで最も多い結果となったのが僅差で教育効果WGとなった

今後文部科学省のアントレプレナーシップ醸成促進事業との参画・連携・協力等にご関心のあるモジュールについてご回答をお願いします

アントレプレナーシップ教育の測定指標、教育ガイドの検討（教育効果WG）での連携に関心がある

アントレプレナーシップ醸成段階における民間主導のプラットフォーム構築に係る実証（プラットフォーム具体化WG）での連携に関心がある

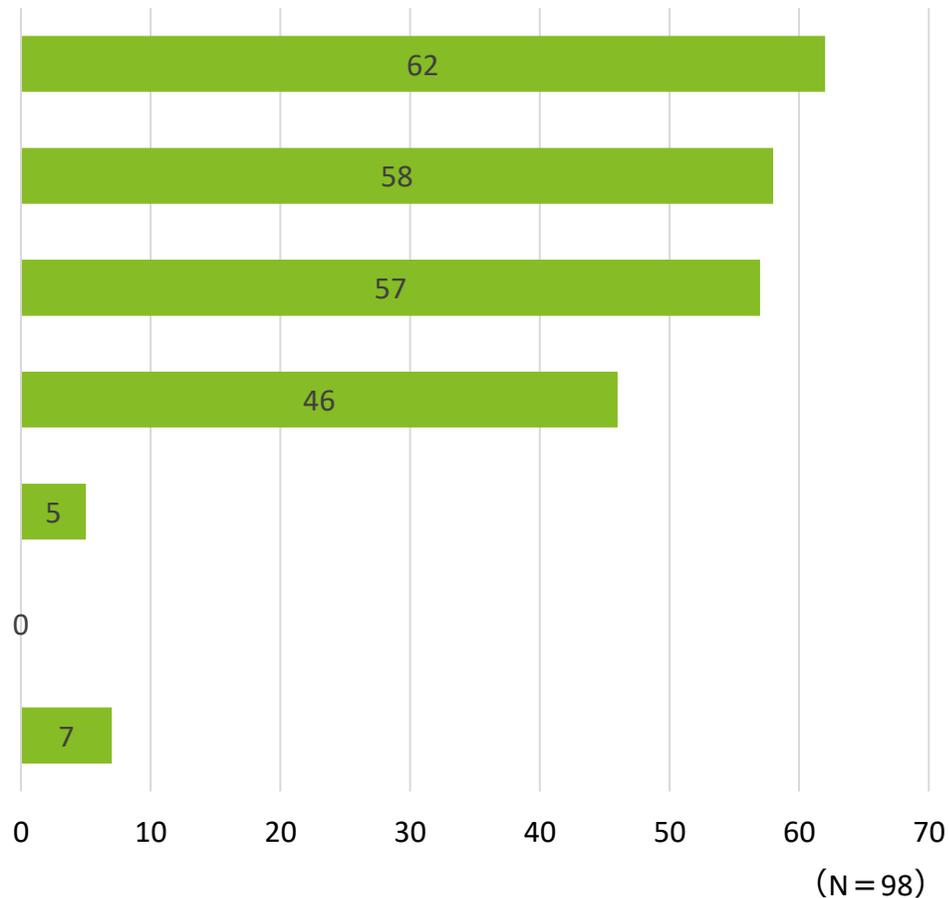
全国プログラム（学生向け）での連携に関心がある

FDプログラム（教員向け）での連携に関心がある

連携のイメージがわからない

連携に関心はない

その他



# 本事業における拠点都市・地域との今後のご連携方法案

✓ 本事業の各論点の推進を図るために、参加いただいた拠点都市・地域の方々と下記のような形で今後連携を図る

本事業の取り組むべき事項		拠点都市・地域の皆さまとのご連携方法（案）			
		学生	大学・教職員	行政・自治体等	民間企業等
受講機会の創出	<ul style="list-style-type: none"> <li>効果的な<b>募集・広報施策の実施</b></li> <li><b>学生コミュニティの活性化</b>によるアントレプレナーシップ発揮の機会への接続の拡大</li> <li>醸成・実践の教育を担うプレイヤー等の<b>地域エコシステムとの連携</b>による広報周知、機会の拡大の促進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全国プログラムへのご参加</li> <li>学生コミュニティとのご連携</li> <li>知人等への口コミ</li> </ul> <p>等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>広報のご協力（本事業への学生の送り込み）</li> <li>プログラム実施における各種ご支援</li> <li>プログラムのご見学</li> <li>アントレ教育に関するご要望に関するヒアリングのご協力</li> </ul> <p>等</p>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>教職員コミュニティ活性化</b>におけるインタラクティブな交流の実践、<b>FDプログラムの展開</b></li> <li>産業界の啓発による<b>民間企業の参画</b>の実践</li> <li>拠点都市、地方との<b>エコシステムの接続</b>の実践の機会の創出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各拠点都市、各大学等で実施しているのアントレ教育関連のプログラム・イベントへのご参加</li> </ul> <p>等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>プログラム実施後における各種ご連携（本事業から学生の送り出し）</li> </ul> <p>等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>FDプログラムへのご参加・学内で展開</li> </ul> <p>等</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>全国プログラムを通じた、<b>教育プログラムの改善検討</b>の実践</li> <li>アントレ教育の効果測定をする評価手法の展開によるプログラムの<b>教育価値の向上を促進</b></li> <li>アントレ教育に関する<b>研究促進</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>受講前後の各種アンケート、インタビュー等へのご協力</li> </ul> <p>等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各大学、企業等で実施するプログラムにおける教育効果測定のご協力</li> <li>アントレ教育の研究に関するご協力（研究者の拡大）</li> </ul> <p>等</p>		